シルバー編機® SK-102型

使用説明書

B9091 4.5
NO. 6757

シルバー編機SK-102型

ご愛用のみなさまへ

シルバー編機ＳＫ－102型をお買いあげいただき，まことにありがとうございました。

このシルバー編機ＳＫ－102型は，全国優秀発明賞を受賞した当社技術陣が，その高度な技術と，多年にわたる研究の成果を結集して設計し，さらに，国家が品質を保証するJIS（日本工業規格）表示許可（B 9091－6757）の当工場が，コンベアシステムによって生産した，最高級のデラックス編機でございます。

すぐれた特徴の数々は，別項のとおりでございますが，なかでも，とくに自動模様編器は，６～12針の選針ができ，本機キャリジのラッセルボタン，カムレバー，ピックレバーとの組み合わせによって，何万種という模様が簡単に編める，非常にすぐれた性能をそなえております。

ピアノ線一本で編み出せるやさしい操作からはじまり，どんな模様編でもお好みどおりに編める操作にいたるまで，どなたにでも簡単に取り扱うことができます。

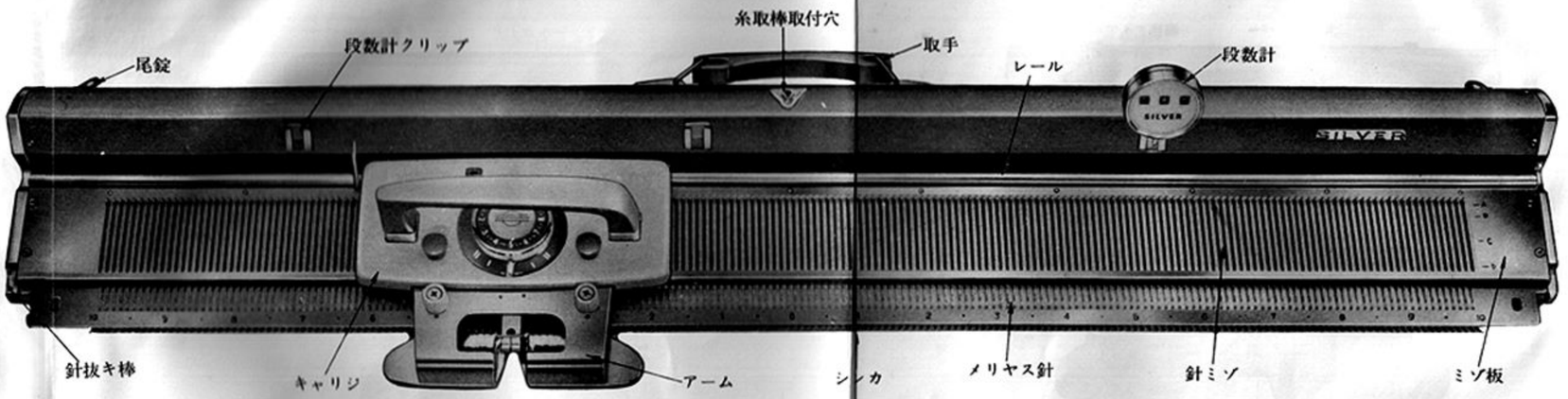
しかも，故障のない編機をモットーに，アフターサービスを心掛けて販売いたしておりますので，ご安心してお使いねがえるものと存じます。

シルバー編機製造株式会社
シルバー編機販売株式会社

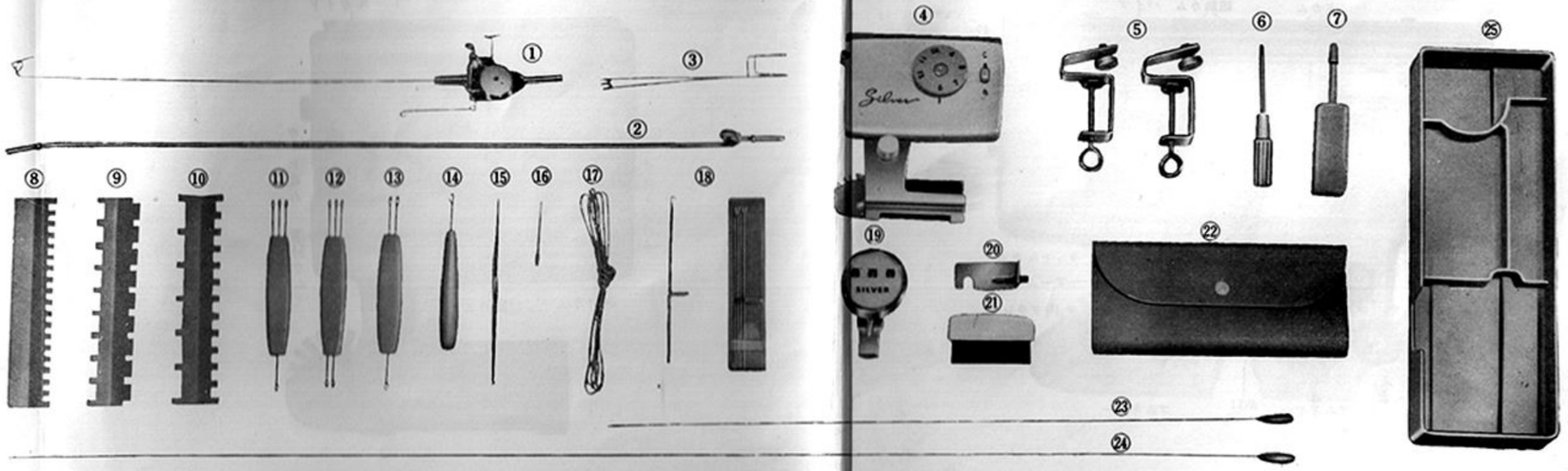
付属品の名称と用途

①オートテンション	編糸のたるみを自動的に取るために使います。
②糸取棒	オートテンションを取りつける棒。
③テンションガイド	編糸をオートテンションへスムースに案内するのに使います。
④自動模様編器	編込み模様・ピック編・引上げ編・連続模様・穴あき模様などのとき、メリヤス針を選針するのに使います。
⑤取りつけ金具	編機をテーブルに取りつけるときに使います。
⑥ドライバー	プラスネジの取りはずしに使います。
⑦油	機械の手入れに使います。
⑧柄板（0～1/1）	編込み模様・引上げ編などのとき、メリヤス針を選針するのに使います。
⑨柄板（1/3～3/1）	
⑩柄板（1/5～1/2）	
⑪ウツシ（1～3）	編目を移して、増し目・減らし目・穴あき模様・交差模様などをするのに使います。
⑫ウツシ（2～3）	
⑬ウツシ（1～2）	
⑭タッピ	メリヤス編の裏目を表目にするのに使います。
⑮カギ針	編目を止めるときなどに使います。
⑯トジ針	編目をとじるときなどに使います。
⑰抜き糸	捨て編と本編を切り離すのに使います。
⑱予備針（5本）	交換用のメリヤス針。
⑲段数計	編んだ段数を示すものです。
⑳キャリジ止金具	機械をしまうとき、キャリジを止めるのに使います。
㉑ブラシ	模様編などのとき、メリヤス針のベラを開いたり、機械の手入れをするときに使います。
㉒付属品サック	抜き糸・ブラシ・柄板・ウツシ・タッピ・カギ針・予備針・トジ針などをしまうのに使います。
㉓ピアノ線（短）	少ない目数の編み出しに使います。
㉔ピアノ線（長）	多い目数の編み出しに使います。
㉕付属品箱	付属品サック・自動模様編器・取りつけ金具・段数計・油・テンションガイドなどをしまうのに使います。

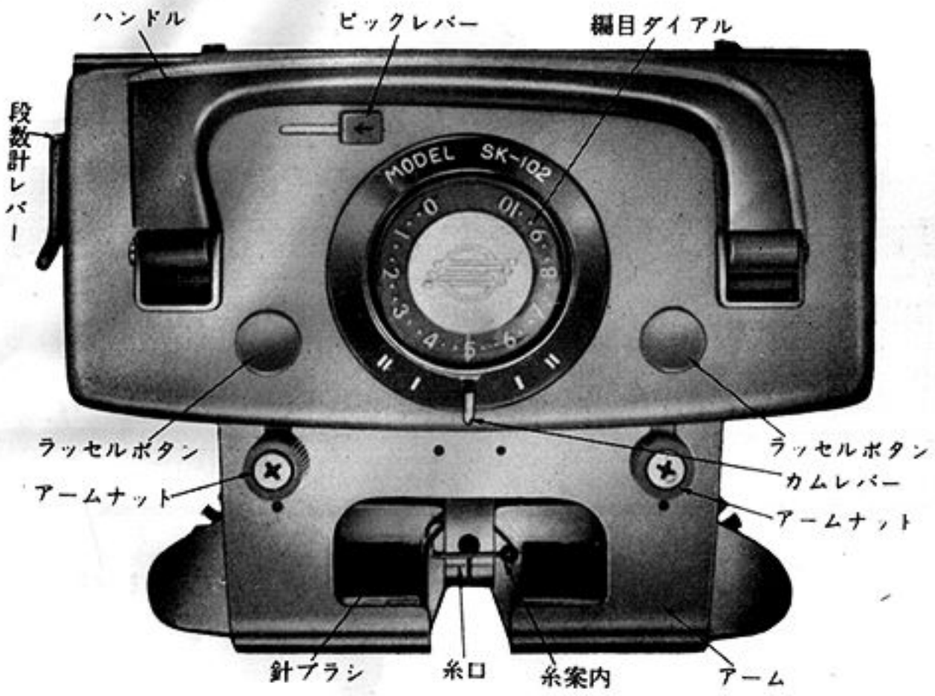
本機

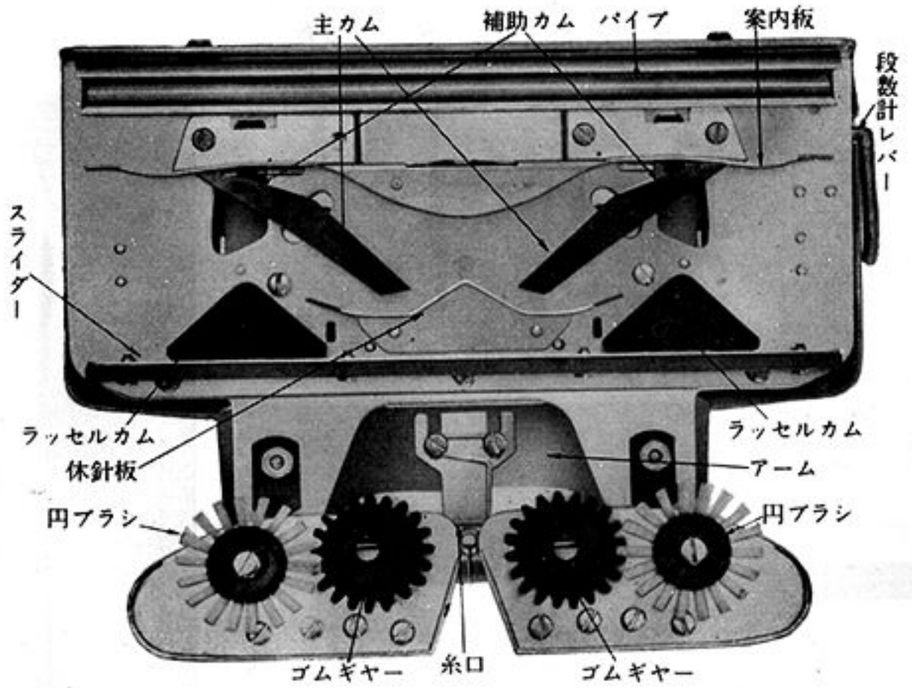


付属品

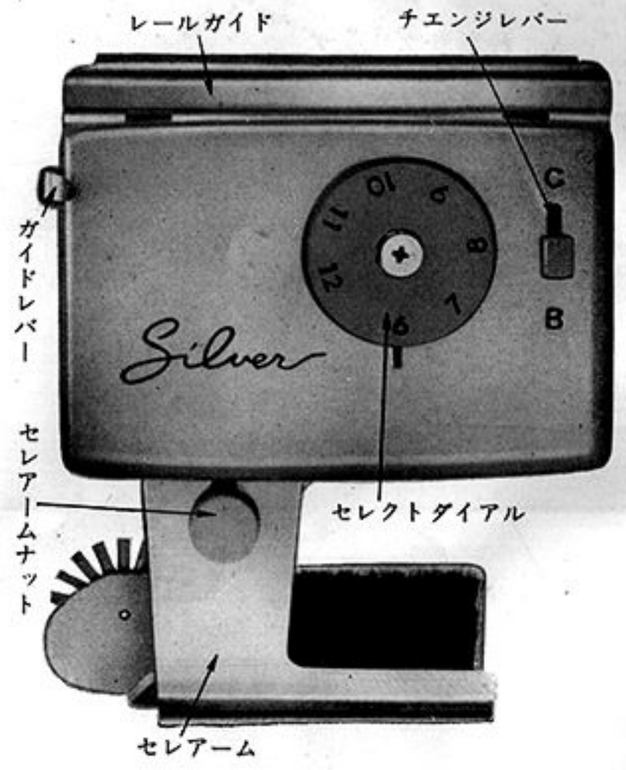


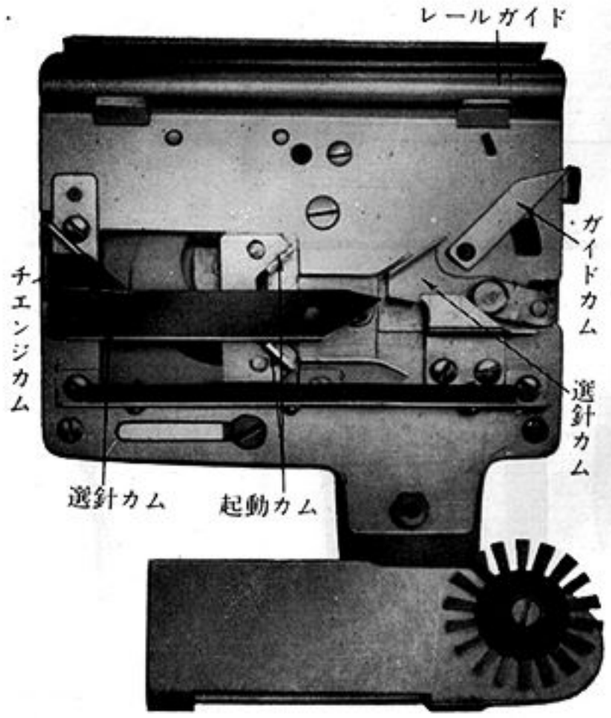
キャリジ


ハンドル
ビックレバー
編目ダイアル
段数計レバー
MODEL SK-102
ラッセルボタン
アームナット
ラッセルボタン
カムレバー
アームナット
針プラシ
糸口
糸案内
アーム


主カム
補助カム
パイプ
案内板
段数計レバー
スライダー
ラッセルカム
休針板
ラッセルカム
アーム
円プラシ
円プラシ
ゴムギヤー
糸口
ゴムギヤー

自動模様編器


レールガイド
チエンジレバー
ガイドレバー
セレアームナット
Silver
C
B
セレクトダイアル
セレアーム


レールガイド
ガイドカム
チエンジカム
選針カム
選針カム
起動カム

SK-102型の特徴

多得の性能を持つ自動模様編装置

☆自動模様編器は、6～12針のはんいで選針できますから、何万という種類の模様が編めます。

☆自動模様編器とラッセルボタン、カムレバーの組み合わせによって、あらゆる模様編が簡単にできます。

☆自動模様編器のチエンジレバーによって、とくに連続引上げ模様が簡単にできます。

☆自動模様編器は、穴あき模様にも使えます。

どなたにも喜ばれる簡単な操作法

☆ピアノ線1本で、簡単に編み出しができます。

☆ダイアルを合わせるだけで、レース糸からバルキーヤーンまで、楽に編めます。

☆オートテンションによって、初心者でも、片手で簡単に編めます。

便利な機構と優れた堅牢性

☆特殊カム機構によって、どんな種類の素材でも、無理なく編むことができます。

☆特殊な糸口で、添糸編が簡単にできます。

☆カムレバー、ラッセルボタン、ピックレバーは、ハンドルを持ったまま操作できます。

☆段数計は、3ケ所に取りつけられるので便利です。

☆間違って操作したときでも、キャリジを持ちあげて、簡単に編目をなおすことができます。

☆ハンドルが、折りたたみ式になっておりますから、便利です。

☆ミゾ板は、ステンレスに特殊加工を施してありますから、耐久力があります。

☆機械内部は、モルトプレンによって防音されておりますから、音が静かです。

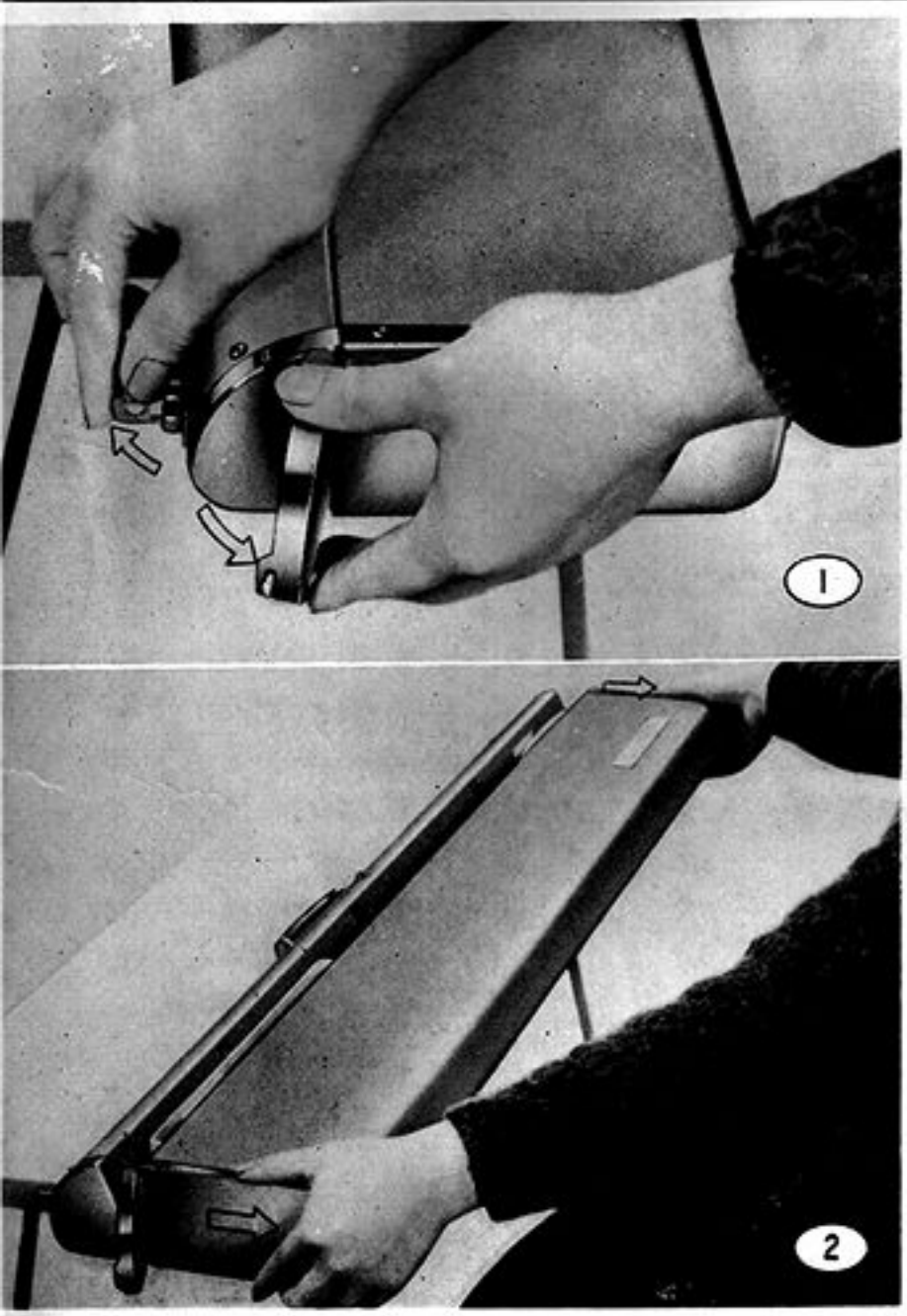
☆優れたデザインは、あなたのスタイルをいっそう引き立たせることでしょう。

特許	200436	209219	270801号
登録実用新案	475600	482924	504483号ほか
登録意匠	160001	161678	168530号ほか

もくじ

1．機械の組み立てとしまう順序……2
(1) 組み立てる順序……2　(2) しまう順序……6
2．機械の各部のはたらき……7
(1) メリヤス針……7　(2) カムレバー……8
(3) ラッセルボタン……9　(4) ピックレバー……9
(5) 編目調節ダイアル……10
3．メリヤス編……11
(1) 編む準備……11　(2) 糸の通し方……11
(3) 編み出し……12　(4) 捨て編……14
(5) 編目ゲージについて…14
4．自動模様編器……15
自動模様編器のはたらき……15
自動模様編器の各部のはたらき……16
(1) セレクトダイアル……16　(2) チエンジレバー……17
(3) ガイドレバー……17
自動模様編器の使い方……17
5．編み方のいろいろ……19
(1) 引返し編……19　(2) 引上げ編……21
(3) 連続引上げ編……24　(4) ピック編……26
(5) すべり目引上げ編……27　(6) 編込み……28
(7) 編込み浮き模様……29　(8) 穴あき模様……30
(9) なわ編……32　(10) ゴム編……33
(11) ガーター編……35　(12) 裏目表目の地模様……35
(13) ドライブ編……36　(14) 格子じま編……37
(15) 添糸編……38　(16) コード編……39
6．もし……なら、どうしよう……40
(1) メリヤス針が破損したら……40
(2) 間違えて編んだら……40
(3) 編んでいる途中でキャリジが動かなくなったら……41
(4) 目が落ちたら……41
(5) 編地のはしで糸がたるんだら……43
7．機械の手入れと保存……44
(1) 使ったあとの手入れ……44
(2) 注　油……45　(3) 編機の保存法……45
手編機編・棒針編の記号……46

機械の組み立てとしまい方



1. 組み立てる順序

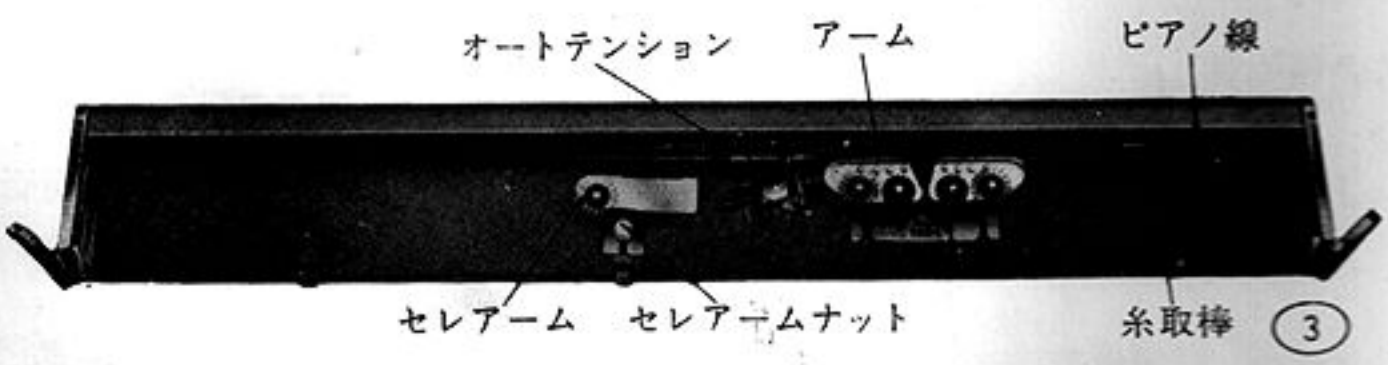
ケースの取り手を向う側にして、テーブル（編み台）の上に置きます。

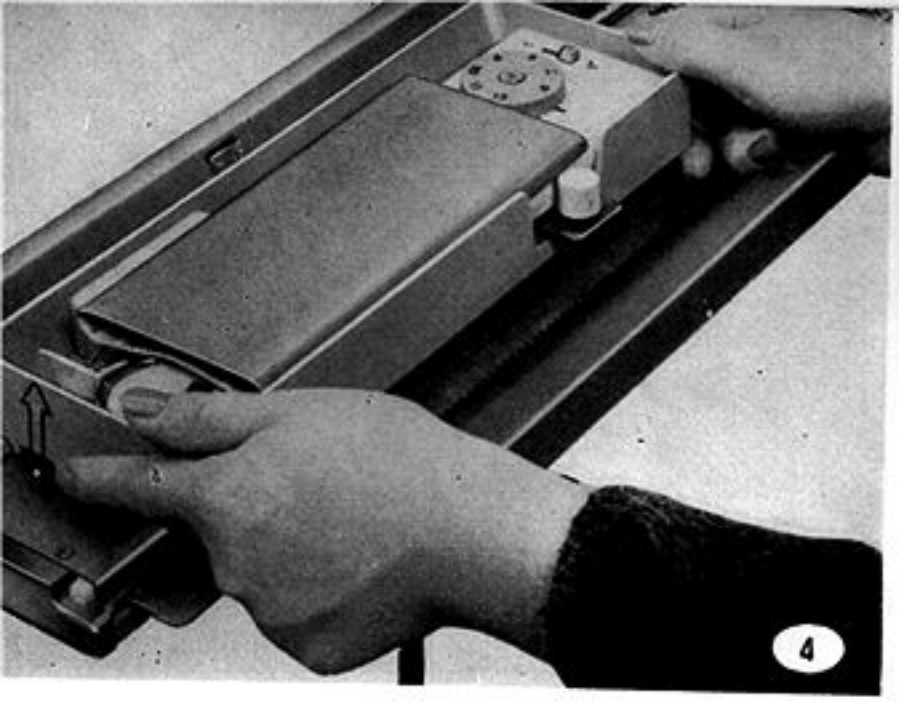
①カバーを取りはずします。

機械の左右についている尾錠（びじょう）をはずし、側板(そくばん)を開きます。(写真1)

ケースカバーを手前に引いてはずします。(写真2)

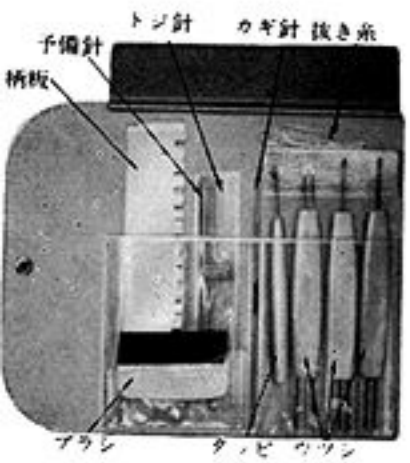
ケースカバーの内側に、ピアノ線(長短各1本)・糸取棒・オートテンション・アームが入っております(各部の用途は、前の見開きページを参照してください)。(写真3)

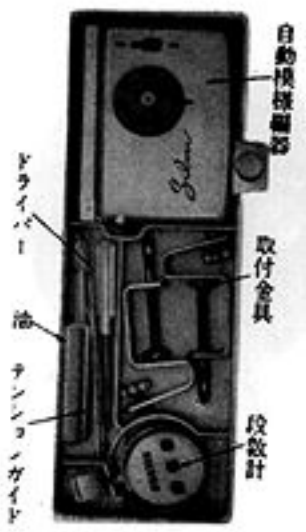




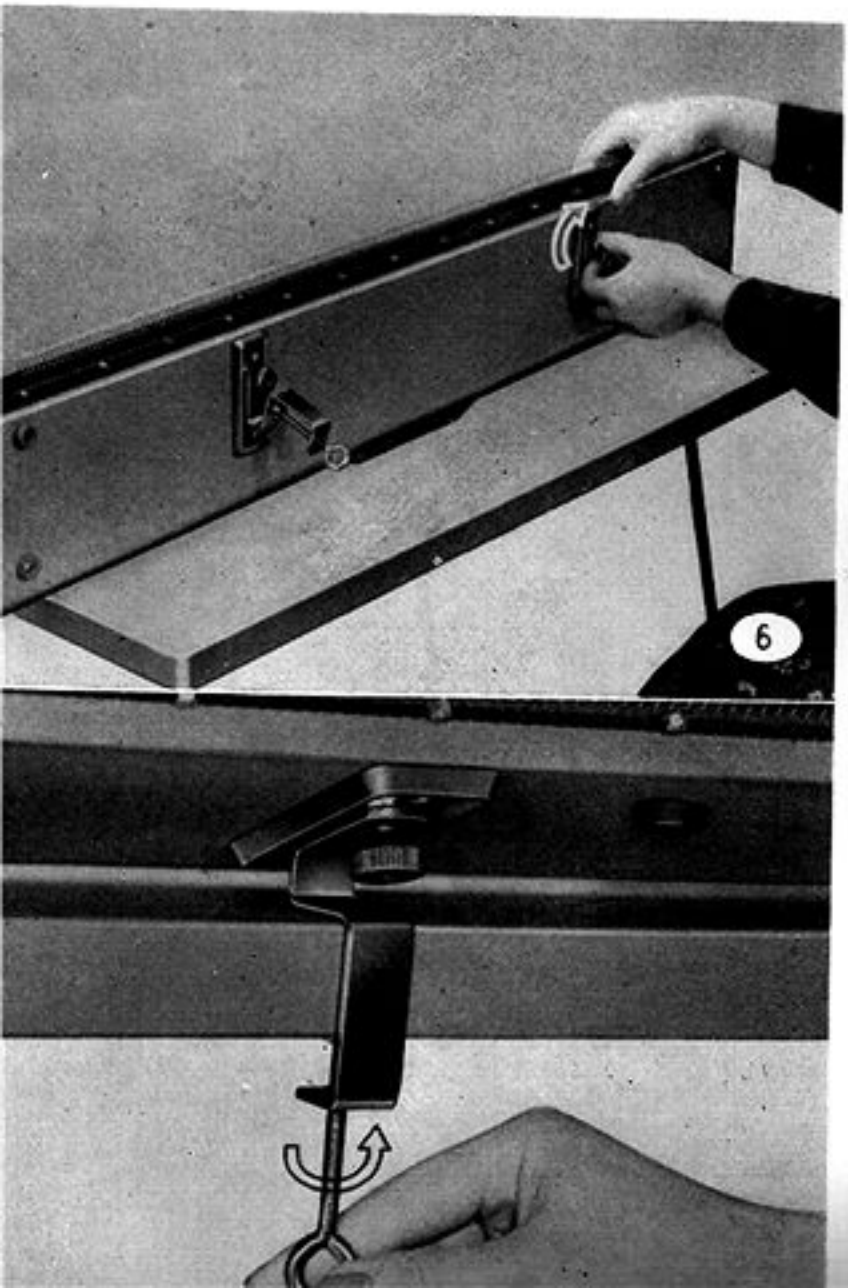
②付属品箱を取り出します。

付属品箱を両手で持ちあげて取り出します。(写真4)





付属品箱の中には段数計(だんすうけい)・取りつけ金具・テンションガイド・自動模様編器(じどうもようあみき)・油・付属品サック・プラスドライバーが入っております(付属品の用途は、見開きページを参照してください)。(写真5)



③機械をテーブルに取りつけます。

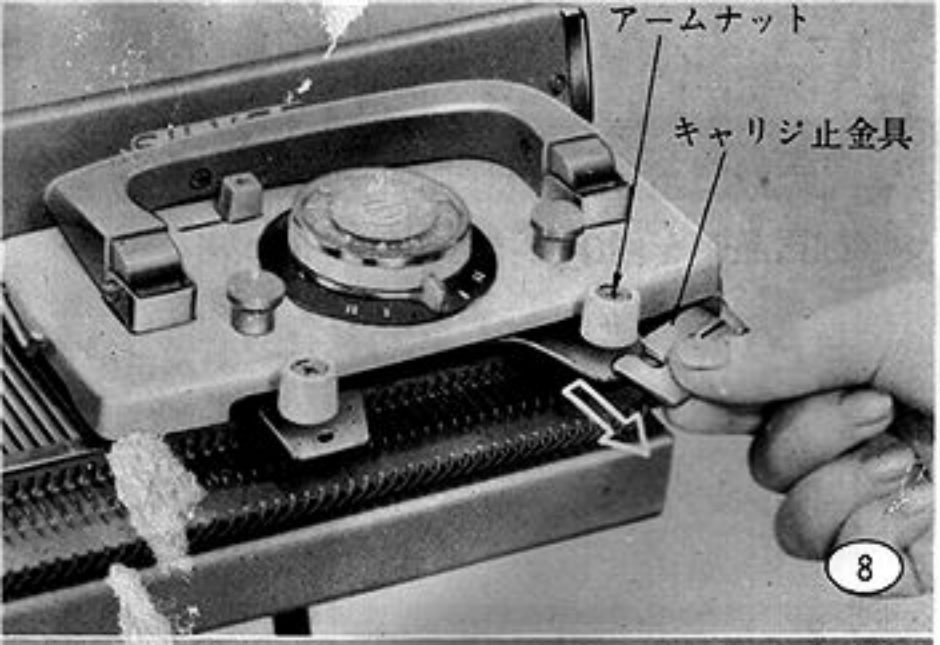
(ケースの裏側にゴムパッキングがついておりますから、テーブルの上に置くだけで編めます)。

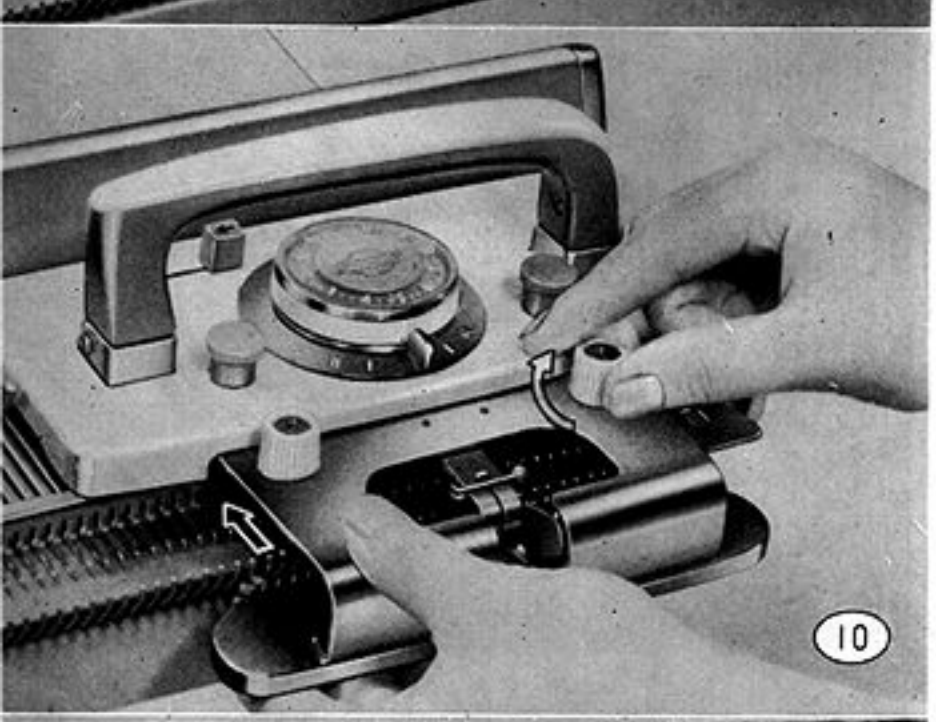
機械を向う側に持ちあげて、取りつけ金具の締めつけネジの頭を丸穴に差し込み、機械の手前いっぱいに引き寄せて、固く締めつけます。

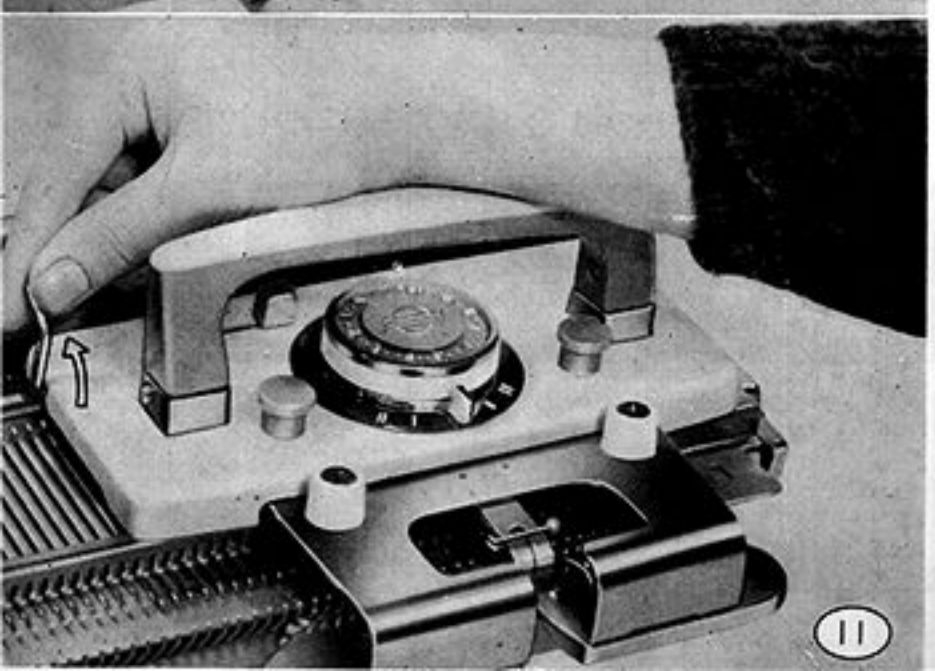
(写真6)

左右の取りつけ金具を機械につけてから、テーブルに取りつけます。

(写真7)







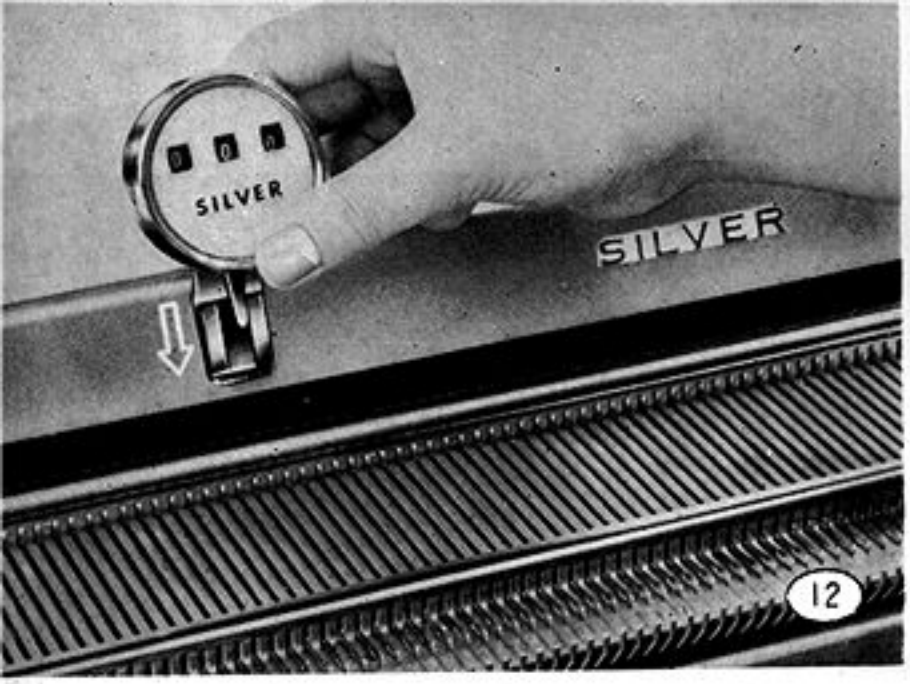
④キャリジを組み立てます。

右側のアームナットをゆるめて、キャリジ止金具をはずしますと、キャリジは左右に動きます。(写真8)

ハンドルを手前におこします。
(写真9)

キャリジアームを、カバーより取りはずします。キャリジのアームナットをゆるめ、アームを奥までいっぱいにはめて、締めつけます。(写真10)

段数計レバーを、矢印の方向におこします。(写真11)



12

⑤段数計を取りつけます。

段数計を段数計クリップ（3か所のうち都合のよい位置）に差し込みます。
(写真12)

13

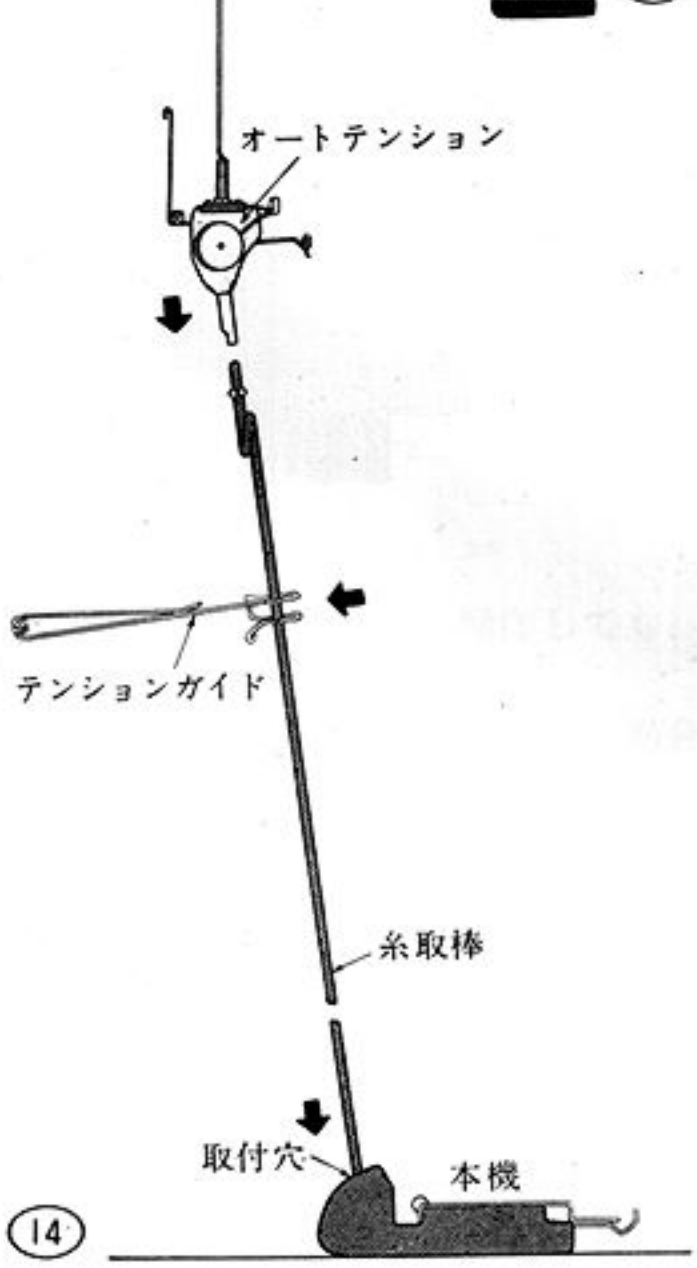
段数計は999まで数字が出るようになっています。0に合わせるときは、下のケタから順に後のツマミを矢印の方向に廻わしてください。編みすぎて数字をもどす場合は、下のケタのツマミを、矢印と反対の方向に廻わしてください。(写真13)

⑥オートテンションを取りつけます。

糸取棒を取付穴に立てます。

オートテンションを糸取棒の先端に差し込みます。

テンションガイドを糸取棒の上部より⅓の位置に取りつけます。(図14)



14

2. しまう順序

①オートテンションを格納（かくのう）します。

糸取棒を、糸取棒クリップにはめ込み、次にオートテンション止板に取りつけます。

②キャリジを固定します。

アームを、キャリジより取りはずしてカバーに取りつけ、キャリジのハンドル・段数計レバーを倒してから、ミゾ板の右端にキャリジ止金具で固定します。

③付属品箱に付属品を入れます。

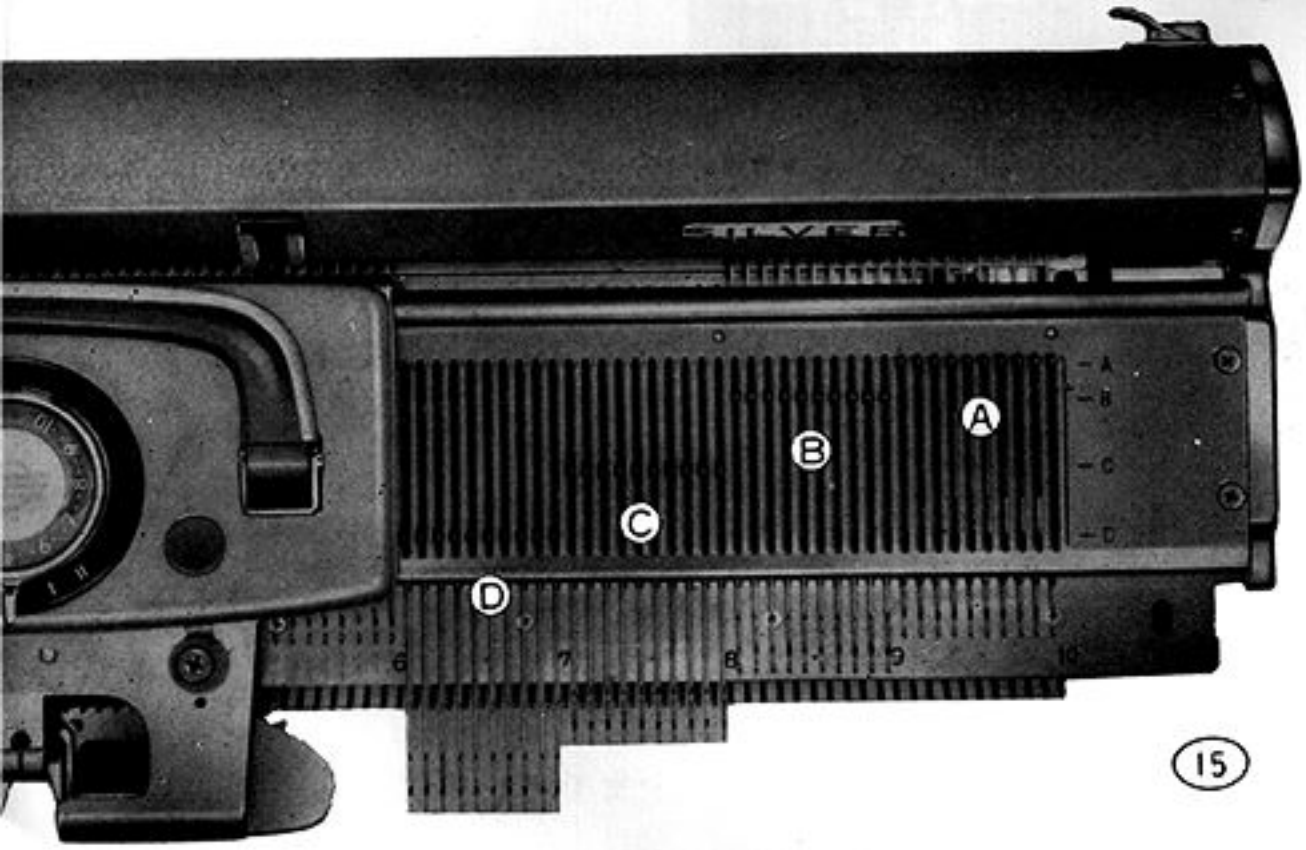
付属品箱の底に、配置のしかたの図がきざまれてありますから、これにしたがって段数計・取りつけ金具・テンションガイド・自動模様編器・油入れ・プラスドライバー、その上に付属サックをのせ（写真 5 参照）、左端の段数計クリップに付属品箱の背面のくぼみを一致させて、ミゾ板の上に付属品箱をのせます。

④カバーをかぶせます。

取りはずしたときと逆の順序で、ケースカバーをかぶせます。

機械の各部のはたらき

1. メリヤス針



メリヤス針はABCDの位置で使用します。

(写真15)

A 位 置……キャリジを操作しても、メリヤス針は動きません（編めません)。

B 位 置……キャリジを操作した場合、カムレバーの位置によって、編めたり、編めなかったりします(次ページ　カムレバー参照)。

C 位 置…… キャリジを操作したとき、必ず編めます。

D 位 置……キャリジを操作した場合、ラッセルボタンの上下によって、編めたり、編めなかったりします(9ページ　ラッセルボタン参照)。

16

2. カムレバー

カムレバーには、●▌▐▌の位置があり、その位置によって、B位置の針が、編んだり、編まなかったりします。(図17, 18, 19)

17

●……キャリジをどちらに動かしても、編めます。(図17)

18

▌……カムレバーを合わせた方向に、キャリジを動かした場合には、編めません。

反対の方向に動かした場合には、編めます。(図18)

19

▐▌……キャリジをどちらに動かしても、編めません。(図19)

3. ラッセルボタン

ラッセルボタンには、上下の位置があり、その上下によって、D位置の針を、んだり、編まなかったりします。

左右とも上げる。(図20)
キャリジをどちらに動かしても編めません。

左右とも下げる。(図21)
キャリジをどちらに動かしても編めます。

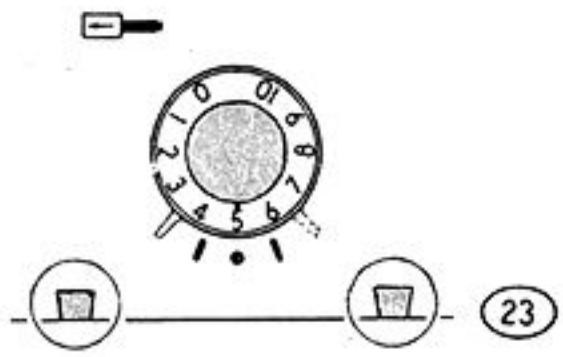
一方を上げ一方を下げる。(図22)
下っているラッセルボタンの方向に、キャリジを動かした場合には、編めます。
上っているラッセルボタンの方位に、キャリジを動かした場合には、編めないで、C位置に移動します。

4. ピックレバー

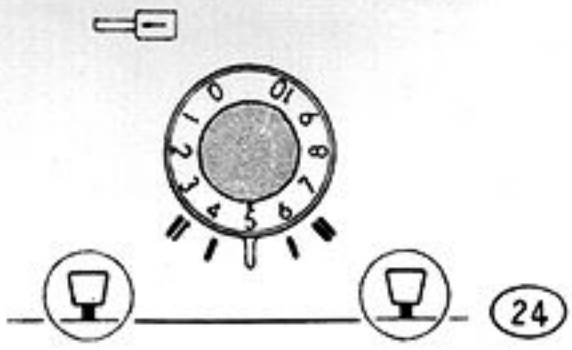
矢印の反対方向に動かして、**白**を出した場合と、矢印の方向に動かして、**赤**を出した場合の2通りあります。

ピック編をするときは、**赤**を出しますが、(図23) これ以外は**白**を出します。(図24)

ピックの場合

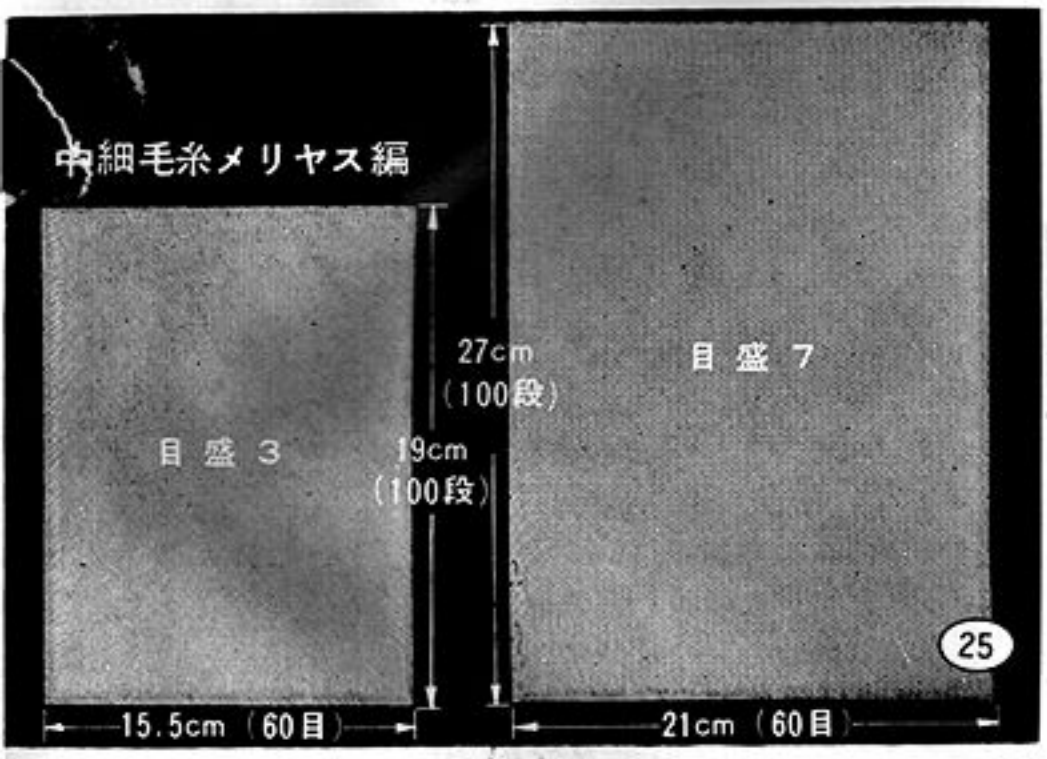


ピック以外の場合

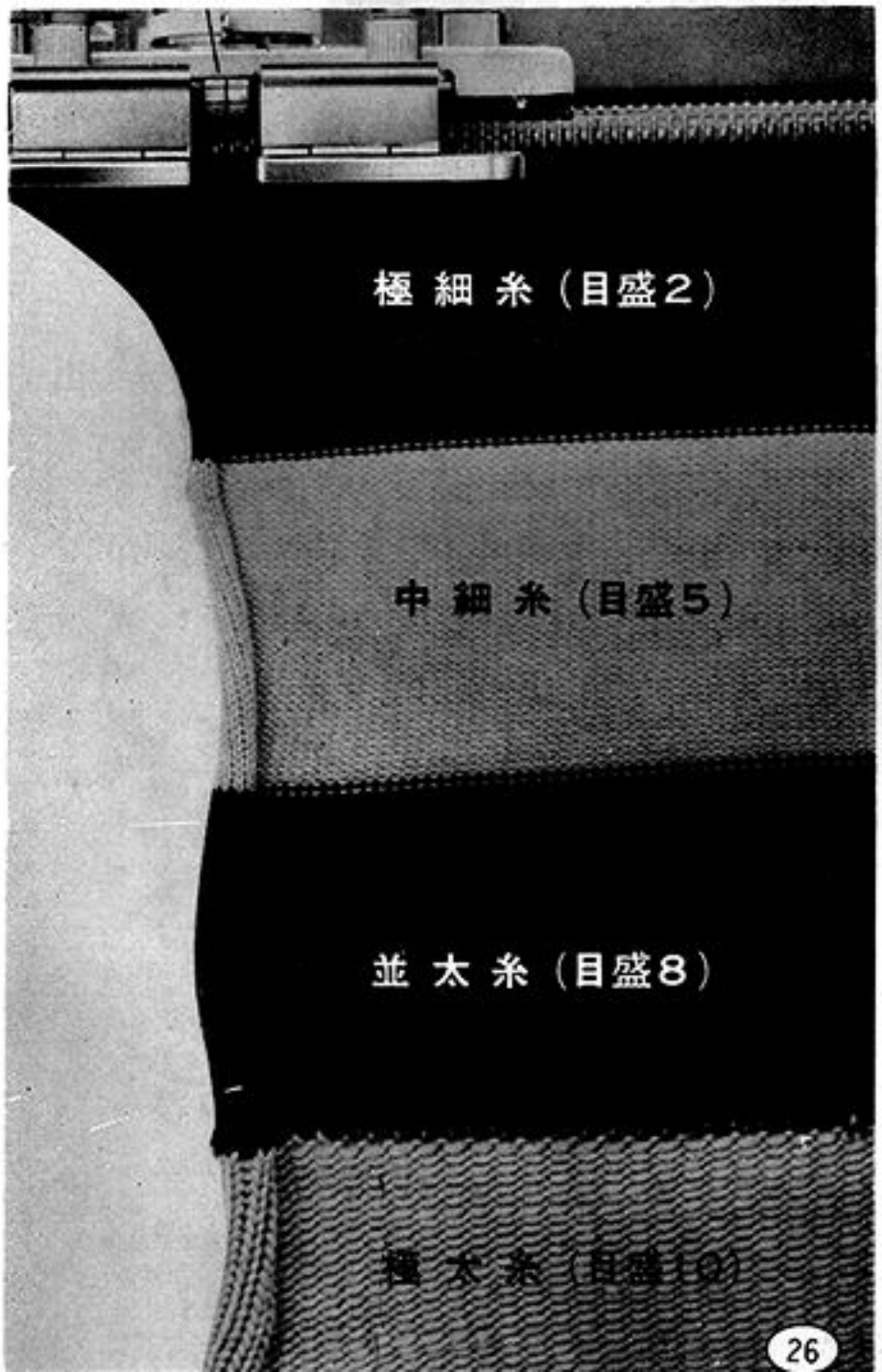


5. 編目調節(あみめちょうせつ)ダイアル

手編の場合は、毛糸の太さによって編棒の大小を使いわけますが、編機では、ダイアルで編目の大きさを調節します。



同じ毛糸でも、ダイアルの目盛を小さくすると、固い感じの編地になり、目盛を大きくすると、ふんわりしたやわらかい編地ができ、寸法もちがいます。例えば、3の目盛で、60目100段編んで15.5cm×19cmになった場合、同じ毛糸を7の目盛で60目100段編むと、21cm×27cmになります。(写真25)



JIS(日本工業規格)による毛糸の太さに応じた標準のダイアル目盛は、次のとおりです。
(写真26)

毛糸の太さ	目盛
細糸(レース糸)	0～3
中細糸	3～6
並太糸	6～9
極太糸 ループヤーンなど	9～10

極太毛糸などの場合は、メリヤス針を1本おきに使います。

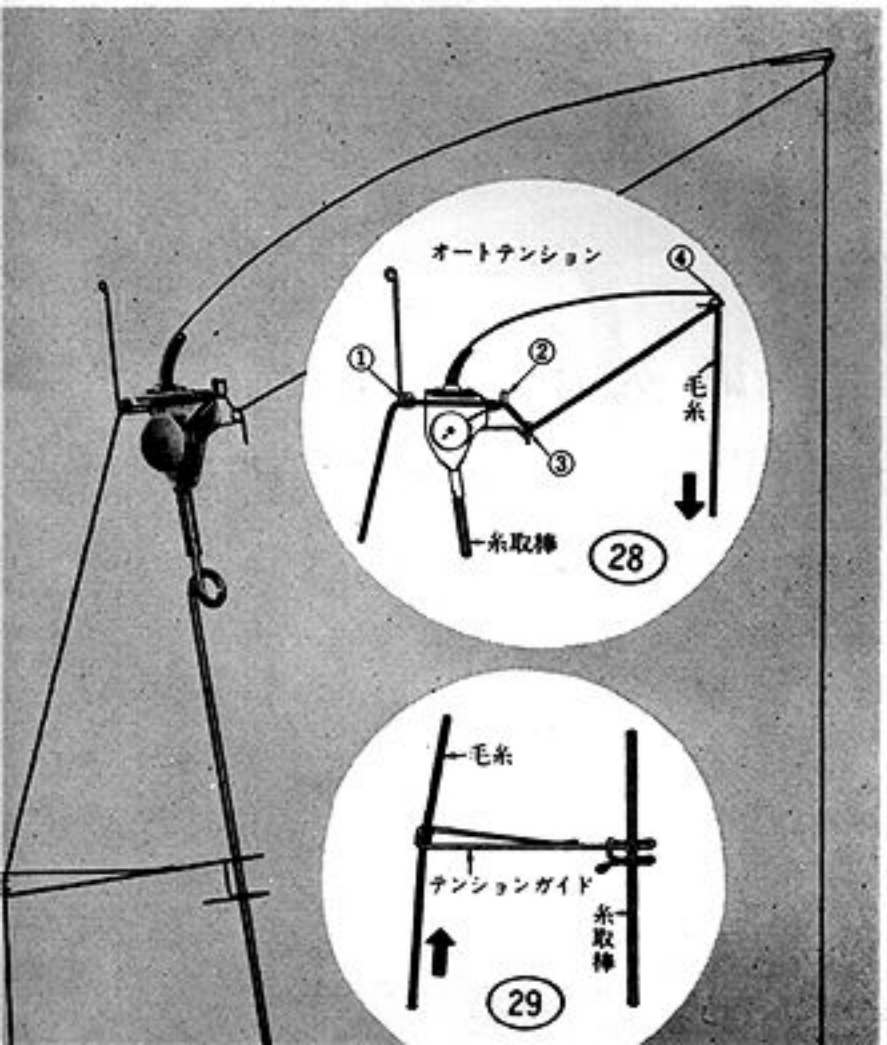
メリヤス編

メリヤス編は、編物の基本になる編み方です。編機では、メリヤス編の裏目が手前に出ます。編目の1目1目はV(逆ハ)型になっております

1. 編む準備

(27)

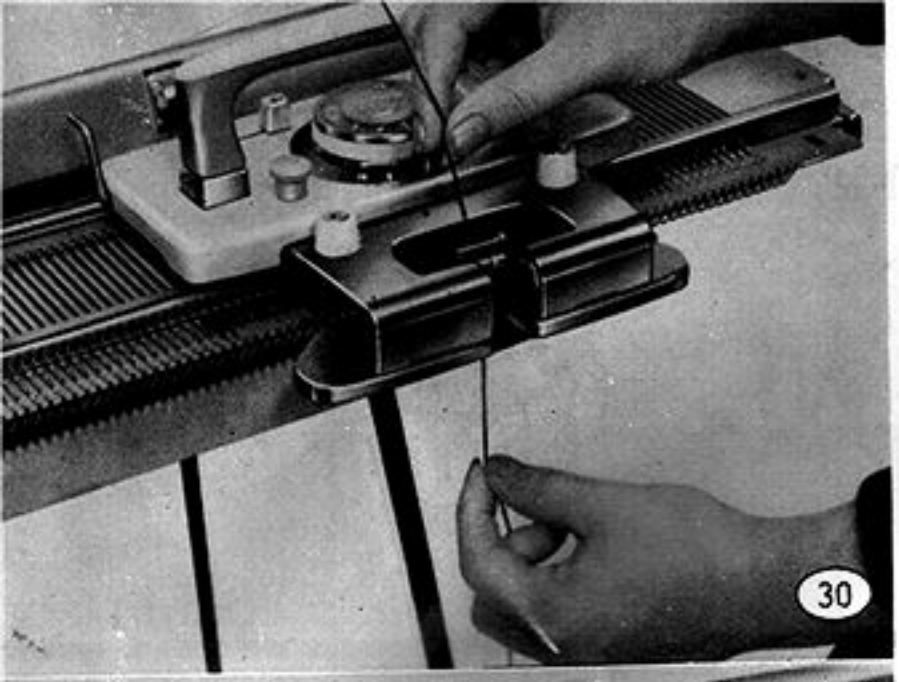
毛糸は、箱か籠の中にほぐして入れておきます。玉巻きにしますと、毛糸がスムースに出てこないで、編地にむらができ、きれいに編めません (写真27)



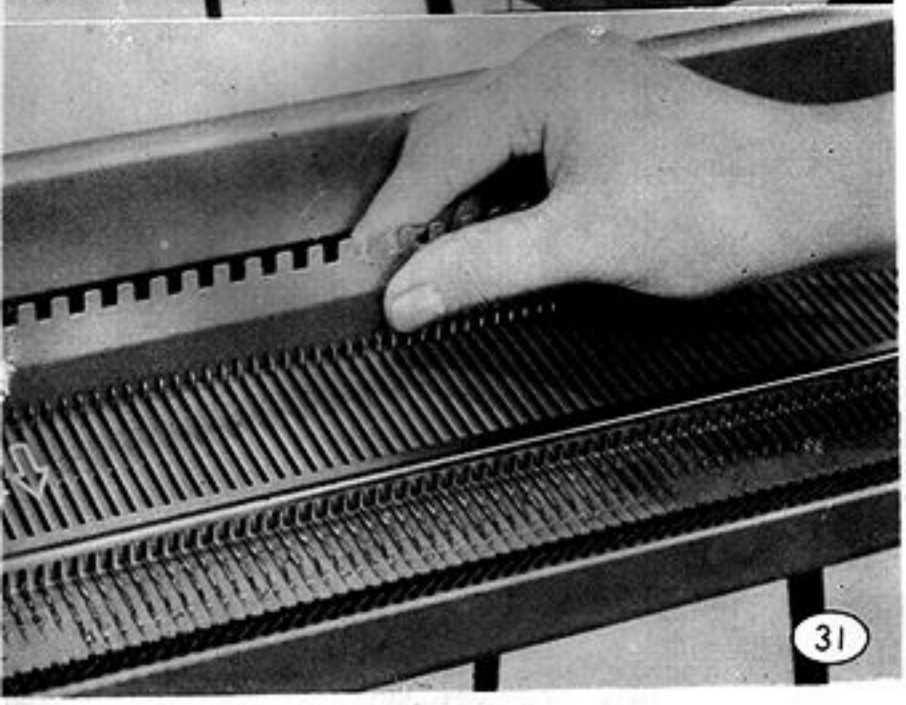
2. 糸の通し方

①テンションガイドに糸を通します。 (図29)

②次に、オートテンションに、 (図28) のように①、②、③、④の順序に通します。



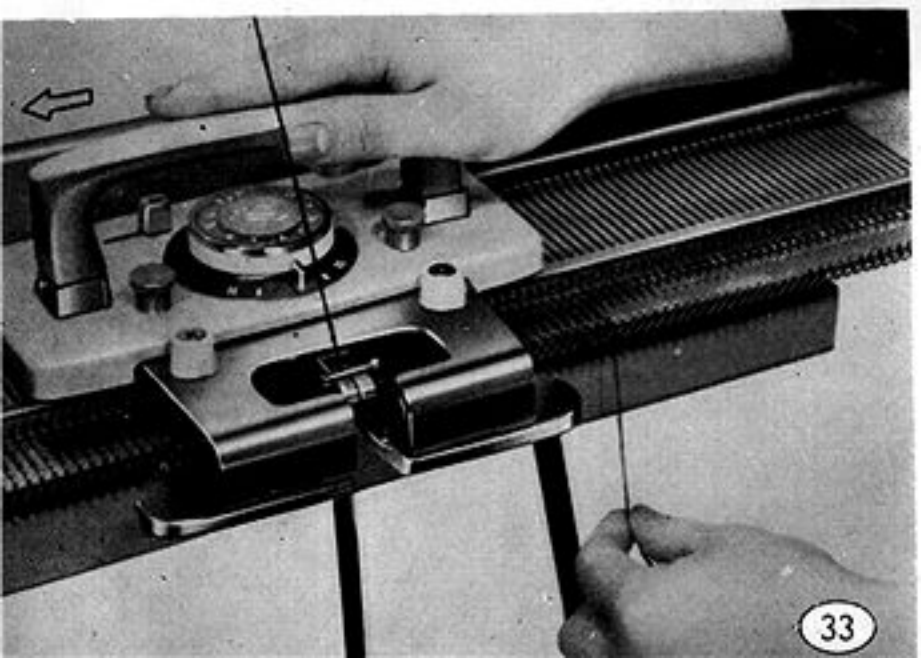
③オートテンションを通した糸を、キャリジの糸口へ通します。(写真30)



④メリヤス針を、編む目数だけB位置に出します。(写真31)

⑤キャリジを次のようにセットします(写真32)

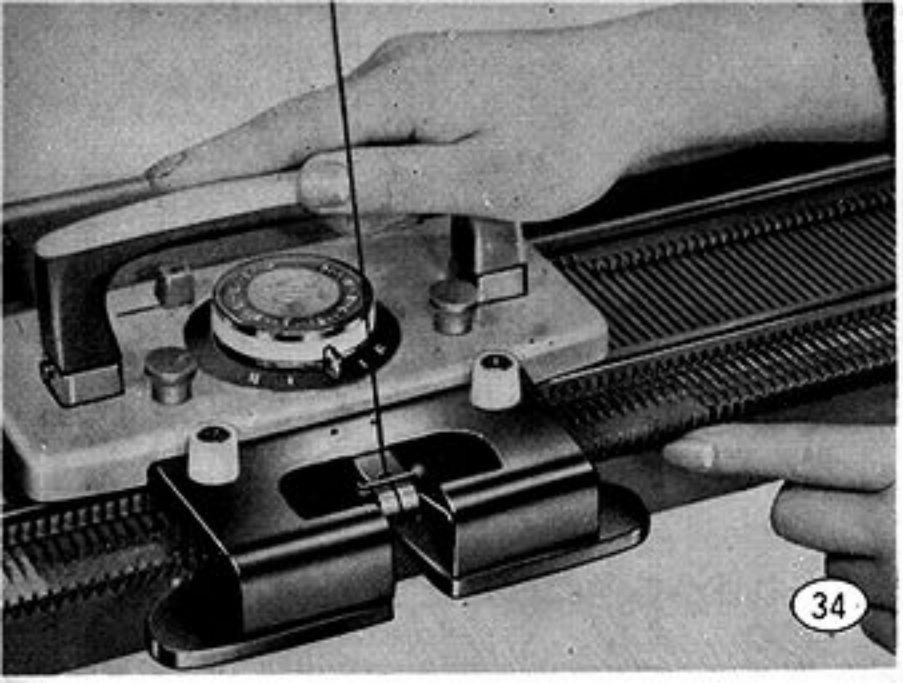
カムレバー	●
ラッセルボタン	左右とも　下
ピックレバー	白



3. 編み出し

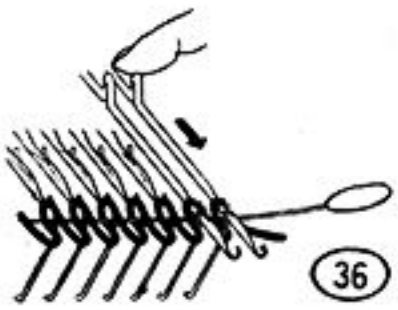
①編目調節ダイアルを、6に合わせます。

糸端は10～20cm残して片手で持ち、キャリジを軽く動かしますと、(写真33) メリヤス針とシンカに、糸が交互にかかります。

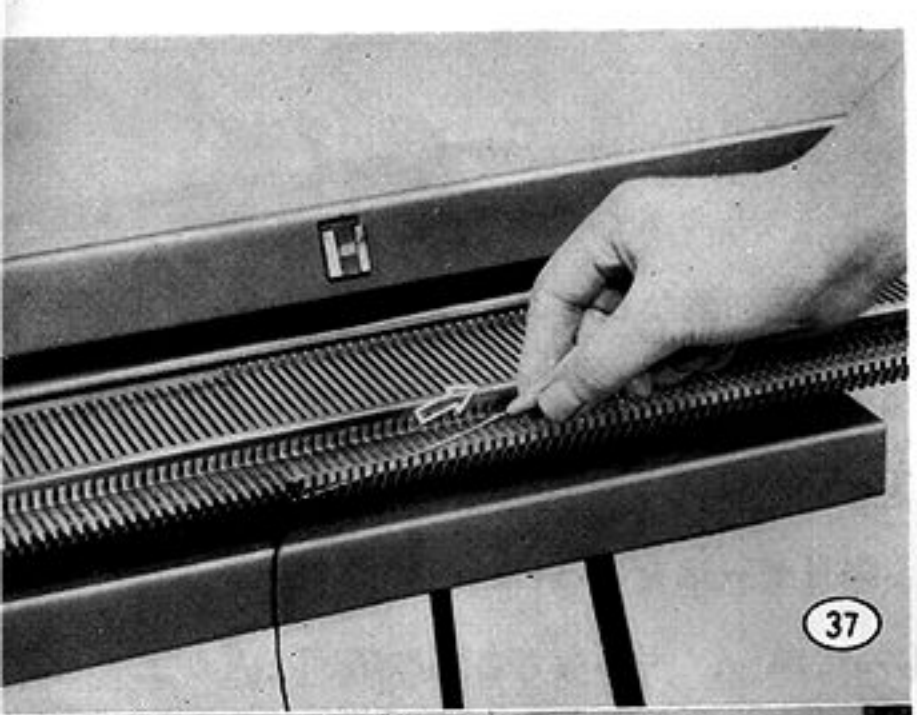


②このとき編み終わった方の糸端を、ゆびで押さえて、キャリジを進めておきます。(写真34)

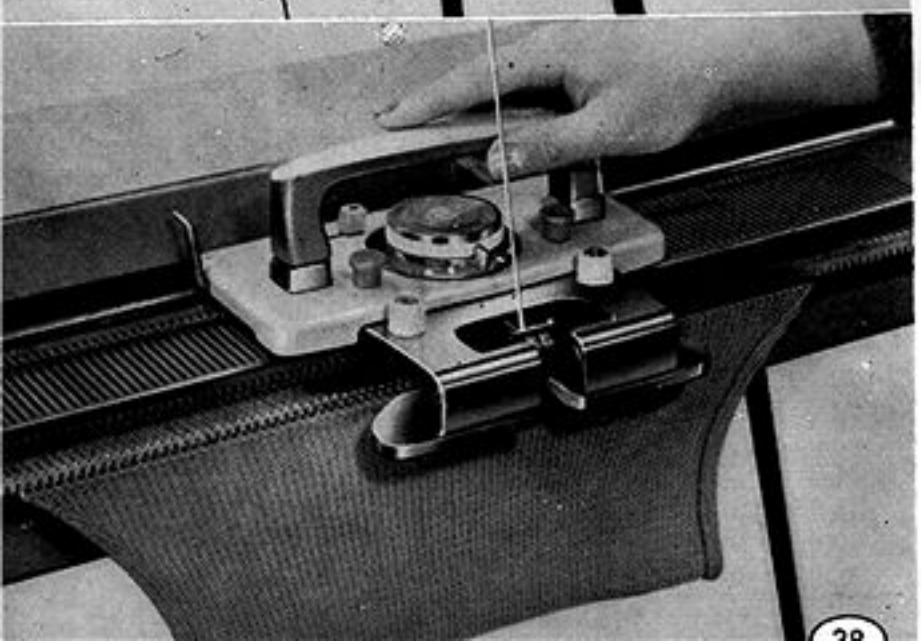
③メリヤス針とシンカの間の毛糸の上に、ピアノ線をおき、(図35)



④ピアノ線が浮きあがらないために、両端と中間のメリヤス針を、1～2本ずつピアノ線の上に出して、1段編みます。(図36)
(編み出す目数が多いときは、ピアノ線を入れたら、数か所メリヤス針を出して、ピアノ線を押さえます)



⑤そのままキャリジを左右に動かして5～6段編み、ピアノ線を引き抜き
(写真37)

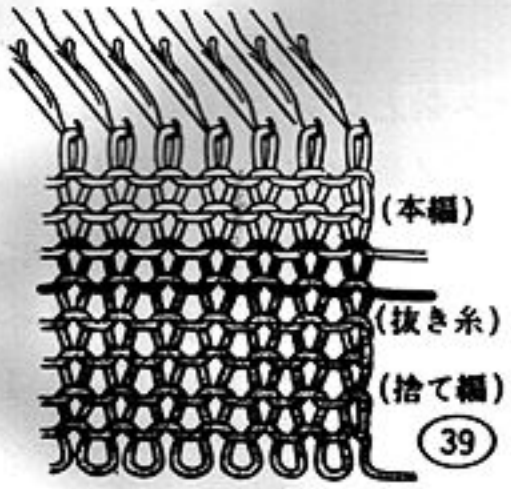


⑥後はキャリジを左右に動かすだけでメリヤス編が編めます。(写真38)

⑦キャリジを操作するときは、速度に注意し、平均に流れるように操作します。早さは、1分間に30段ぐらいが適当です。

4. 捨(す)て　編

捨て編は、最初から本編の糸で編むと、１段目の編目がくずれやすくて、あとの始末がよくできませんから、捨て糸で５～６段編んでから、抜き糸で１段編み、それから本編の糸で編みます。



編みはじめの目から逆に編んだり、別の編地とはぎ合わせたり、伏せ目をしたりする場合は、抜き糸の上の本編の１段目を拾いますと、目も拾いやすく、編目もきれいに仕上がります。

あとで抜き糸を引きますと、捨て編は簡単に離れます。

編み終わりも、捨て編で５～６段編んで機械からはずしますと便利です。(図39)

5. 編目ゲージについて

編目ゲージは糸の太さ、編目、また編む人の手加減などによって変化しますので、編物をする場合は、必ずその使用毛糸で試(ため)し編をしなければなりません。試し編は、60目60段ぐらいが最適で、その中ほどの10cm平方の目数と段数を数えます。編地は一昼夜おいてから、編目ゲージをとるのが理想ですが、もし時間をおかずにとる場合は、手で軽くもんでから、平らなところに広げてとります。

編目ゲージは、端数の切り捨て・切り上げをせず、端数のあるままで実物の計算をします。編目ゲージに誤差があると、できあがり製品の寸法が違ってきますから、注意してください。

自動模様編器

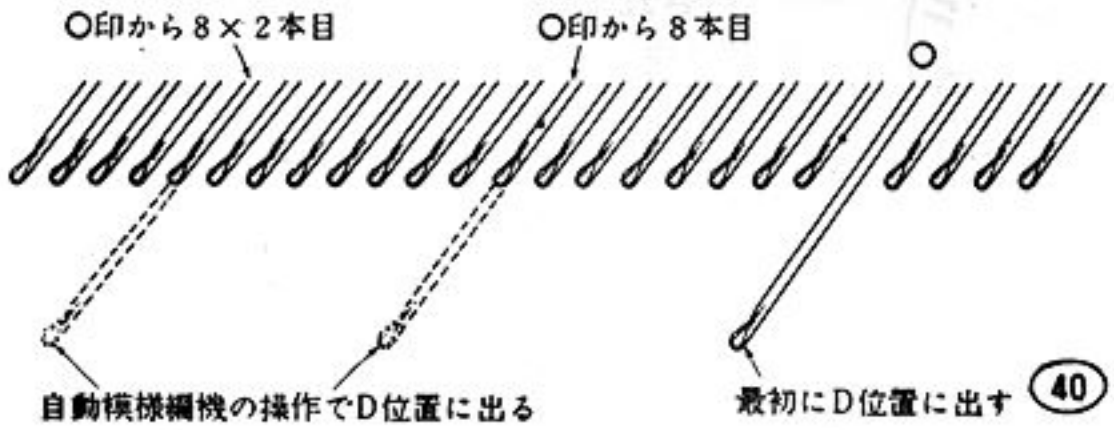
自動模様編器は、引上げ模様、ピック編、編込み模様、穴あき模様などのときに、メリヤス針を自動的に必要な場所にならべます。

6～12針のはんいの組み合わせで、数千種もの模様編に使えます。とくに連続引上げ模様編は、シルバー独特のものです。

自動模様編器のはたらき

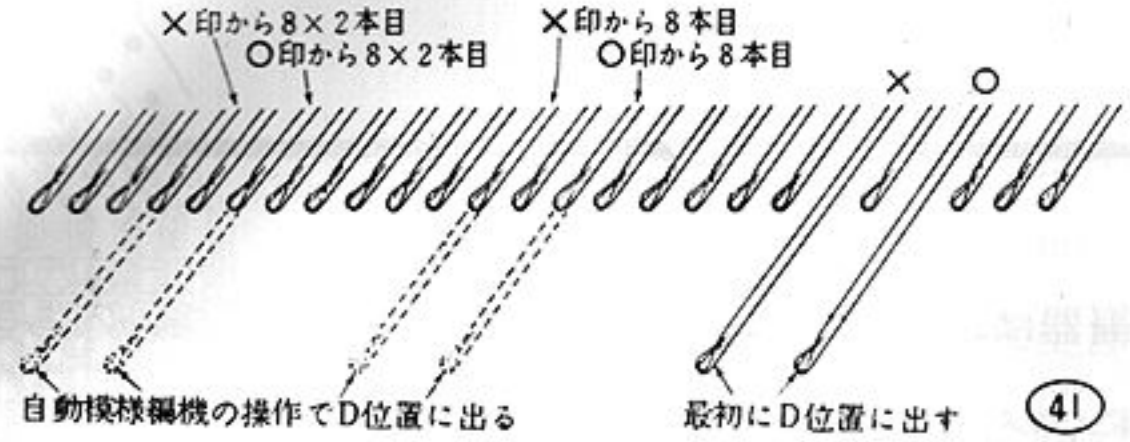
自動模様編器は、D位置に出したメリヤス針から、左側へセレクトダイアルを合わせた数字と同じ本数のメリヤス針を、D位置に出すものです。

例えば、いまセレクトダイアルを8に合わせたとします。B位置に出ているメリヤス針のうち、どれか1本をD位置に出し、自動模様編器を、右から左へ操作しますと、D位置に出したメリヤス針から、8本目のメリヤス針が、また、そのメリヤス針から8本目のメリヤス針が……というようにして、順に8本ごとにD位置に出てきます。(図40)



(40)

もし、メリヤス針を、２本D位置に出したとしても、最初のD位置のメリヤス針（○印）から８本目、次に２本目（×印）のメリヤス針から８本目というように、順にD位置に出てきます。(図41)

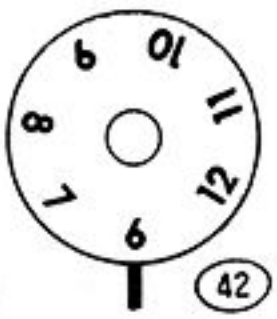


したがって、１模様に相当する数のメリヤス針を、D位置とB位置（連続引上げ模様のときはC位置）にならべ、自動模様編器を右から左へ操作すれば、全部のメリヤス針を、模様を編むのに必要な位置にならべることができます。

１模様が、メリヤス針６本より少ないときは、その２倍、または３倍にセレクトダイアルを合わせ、その数だけメリヤス針をD位置とB位置（C位置）にならべます。

自動模様編器の各部のはたらき

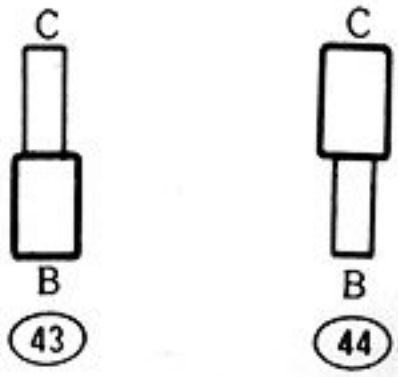
1. セレクトダイアル



編もうとする模様が、何本のメリヤス針で構成されているかによって、そのメリヤス針の本数と同じに、セレクトダイアルの目盛を▌に合わせます。図(42)

2. チエンジレバー

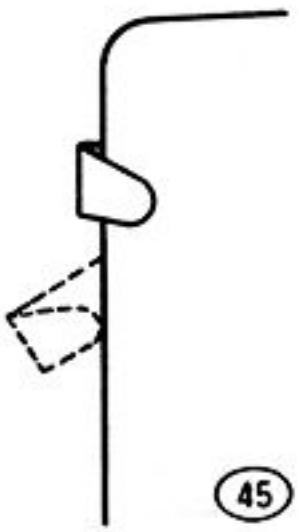
チエンジレバーを手前に動かしてBの文字に、向う側へ動かしてCの文字に合わせた位置とがあります。



B……選針されたメリヤス針は、B位置とD位置にならびます。(図43)

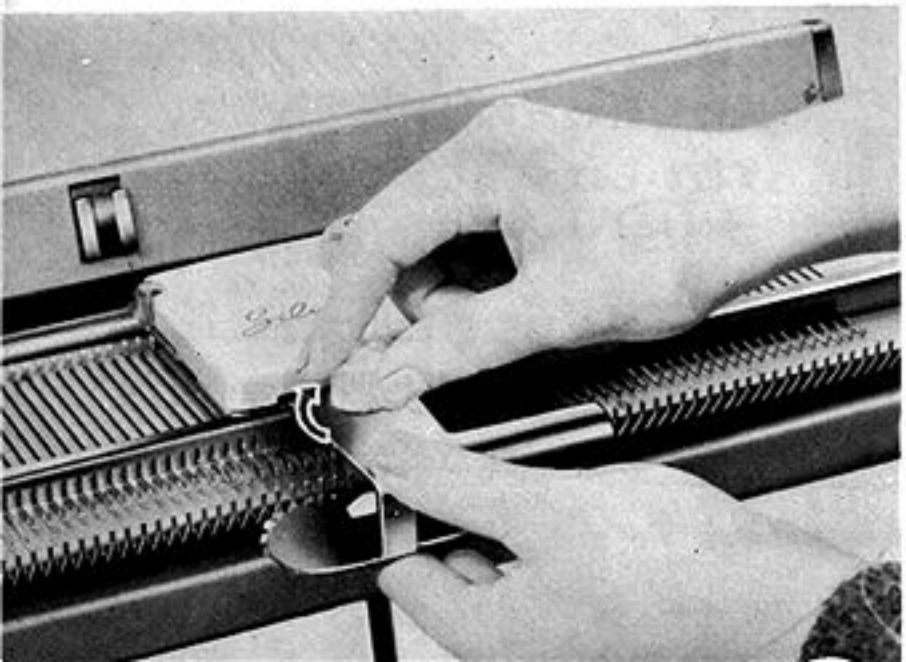
C……選針されたメリヤス針は、C位置とD位置にならびます。(図44)

5. ガイドレバー



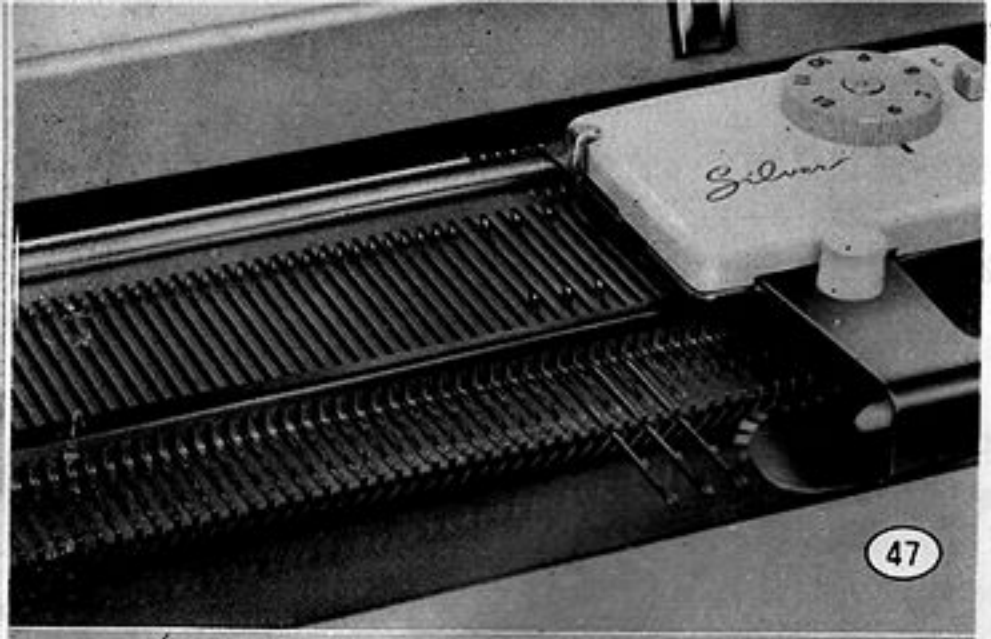
部分的に模様を入れるときに使います。(図45)

自動模様編器の使い方



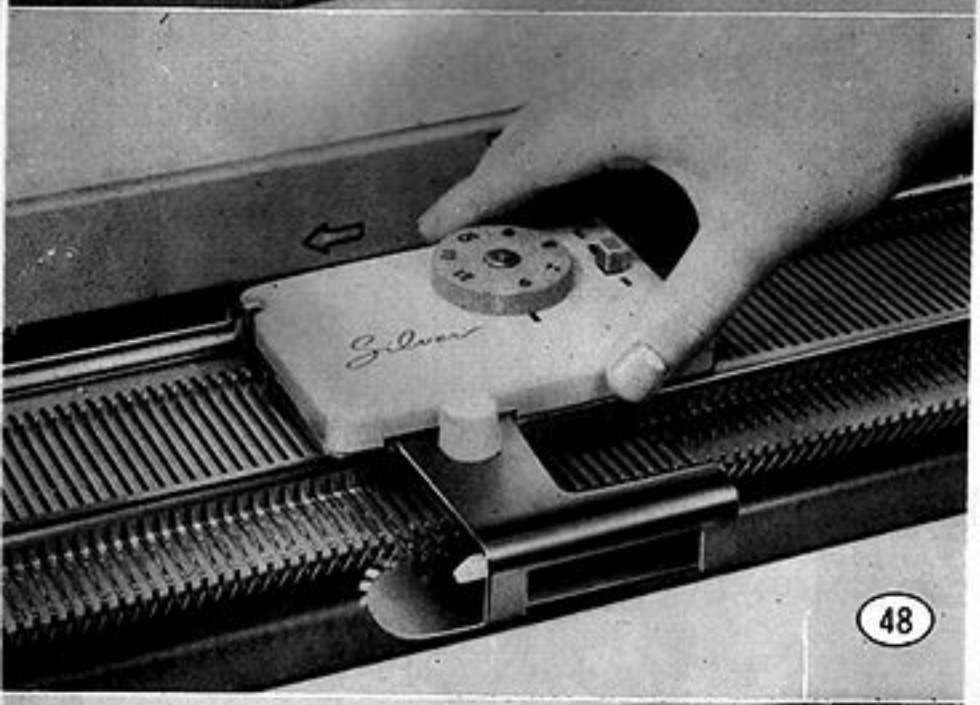
①セレアームをカバーからはずし、自動模様編器にいっぱいに差し込み、セレナットを締めつけます。(写真46)

②編もうとする模様にしたがって、セレクトダイアルを6～12のいずれかに合わせます。

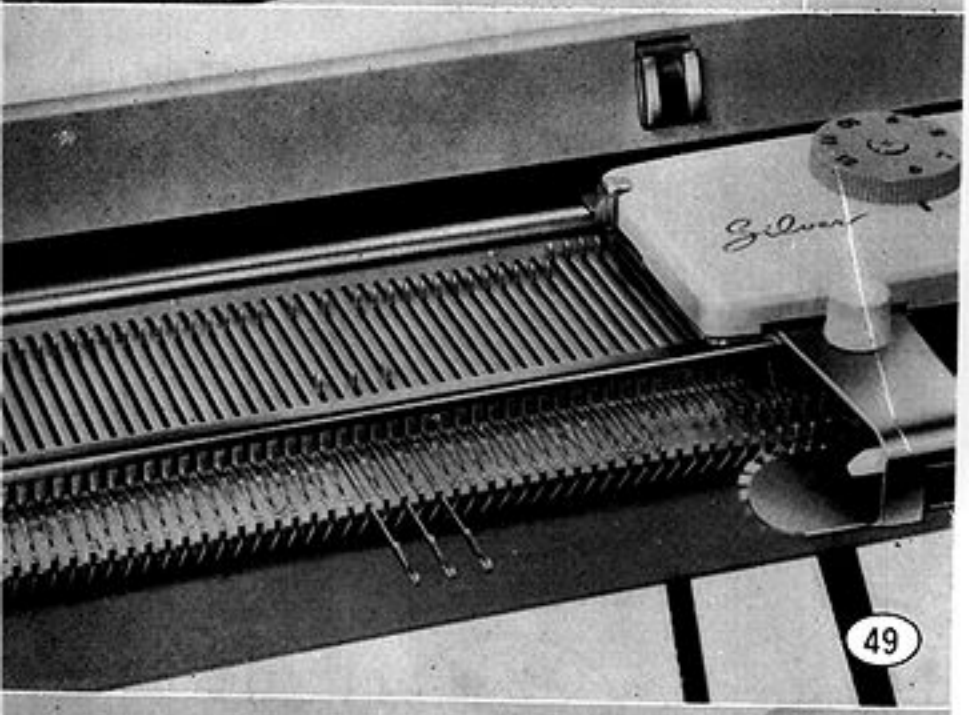


③チエンジレバーを、連続引上げ模様はCに、そのほかの場合は、Bに合わせます。

④編もうとする模様にしたがって、右端より模様のメリヤス針をD位置に出します。(写真47)

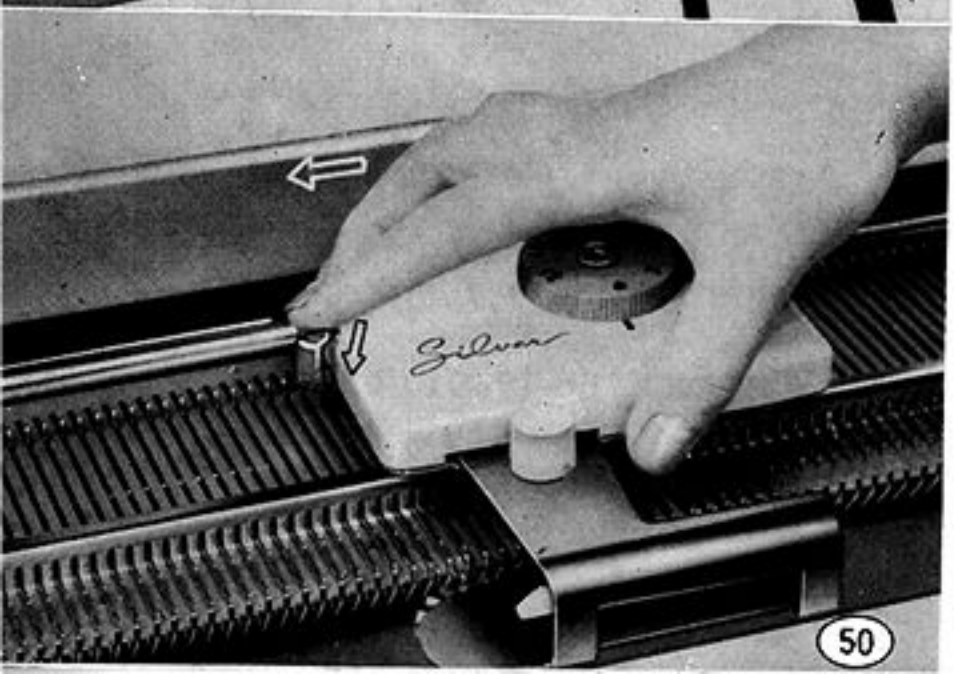


⑤自動模様編器を、ミゾ板の上にのせて、右から左に軽く動かしますと、自動的に選針されます。(写真48)



⑥編地の途中から選針したいときは、選針する部分の右端から1模様D位置に出して、自動模様編器を右から左に操作します。(写真49)

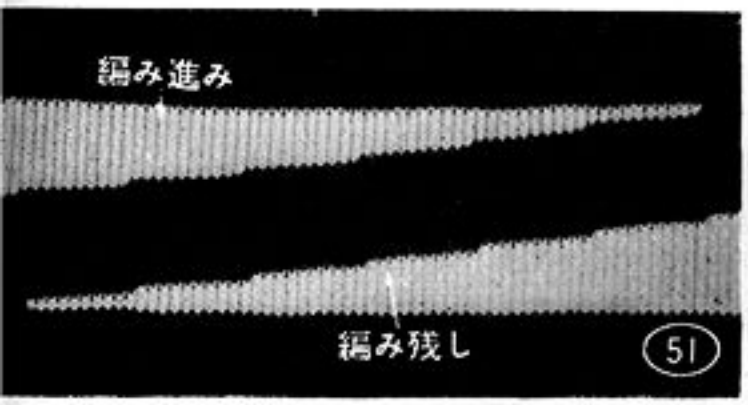
⑦編地の途中まで選針したいときは、選針する部分の左端に自動模様編器がきたとき、ガイドレバーをゆび先で手前に引いたまま動かします。(写真50)



⑧操作の終わった自動模様編器は、ミゾ板からはずしておきます。

メリヤス針をD位置に出さないで、自動模様編器を、右から左へ1操作しますと、メリヤス針のベラを開くことができます。

編み方のいろいろ

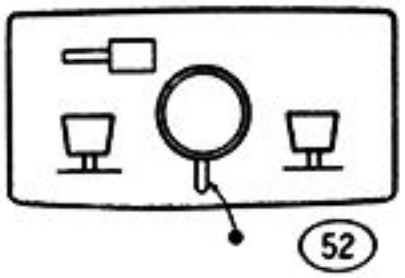


1. 引 返 し 編

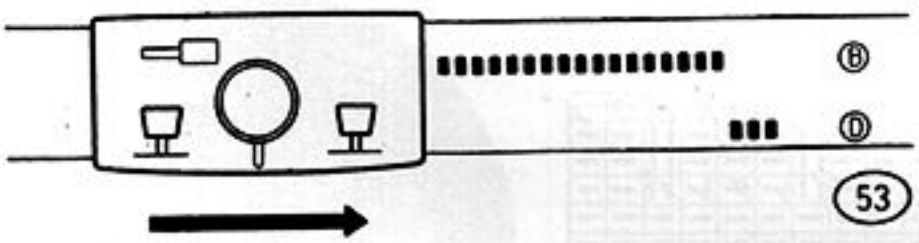
編地は、斜線やカーブを、布地のように裁断できませんから、引返し編でします。メリヤス針の位置とラッセルボタンによって引返し編は簡単にできます。

編み残す引返し編

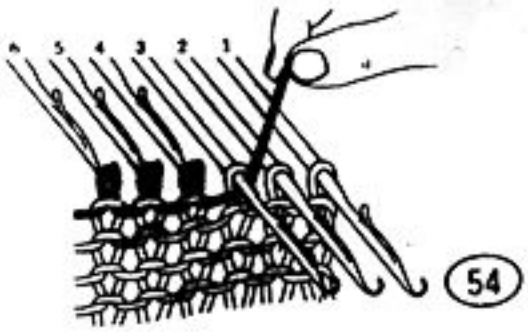
＜本機キャリジ＞ (図52)



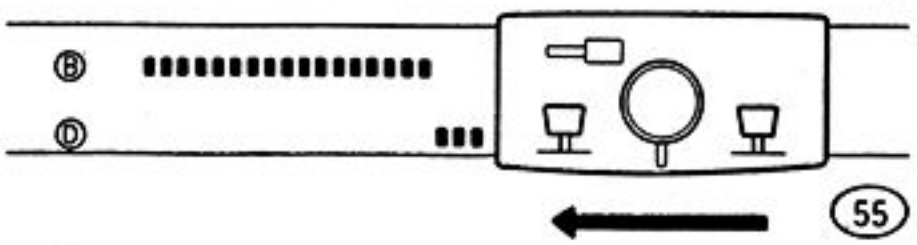
カムレバー	●
ラッセルボタン	左右とも上
ピックレバー	白



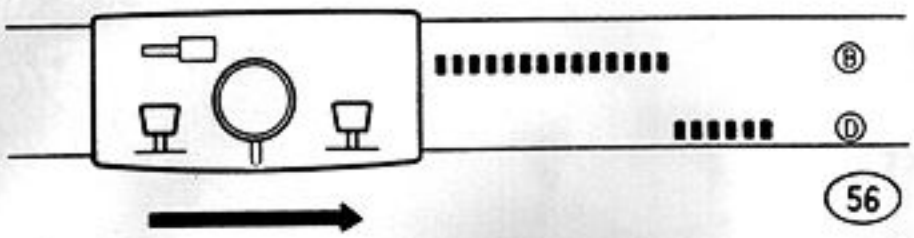
①キャリジのない側の編まない針を、D位置に出して、1段編みます（B位置の針は編めて、D位置の針は編めません)。(図53)



②穴が明かないように、編み終わった隣りのメリヤス針のステムに、下から糸を掛けます。(図54)

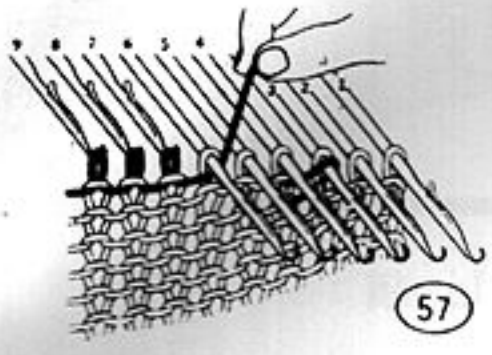


③そのまま2段目を編みますと、1回の引返し編ができます。(図55)

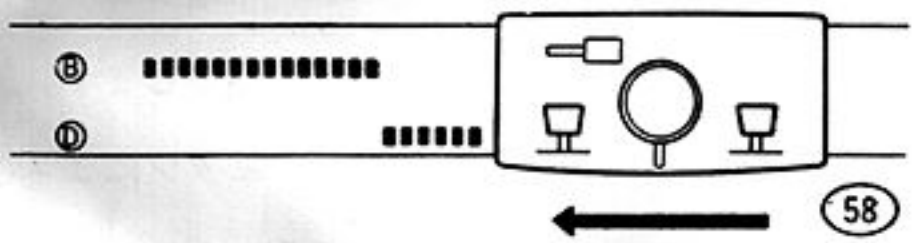


56

④同じように、次に編み残す針をD位置に出して、3段目を編み、(図56)

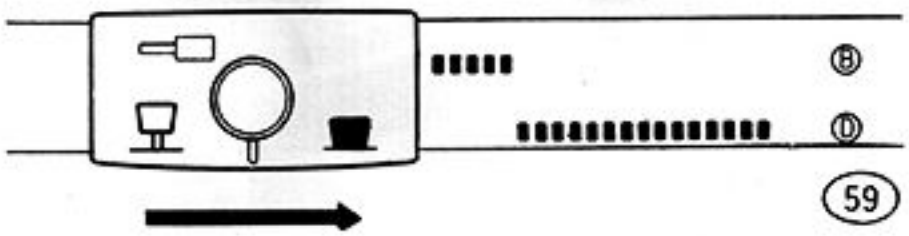

57

⑤隣りの針に糸をかけて、(図57)



58

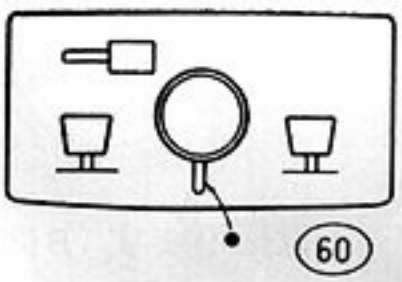
⑥4段目を編みます。(図58)
これで2回目の引返し編ができます。



59

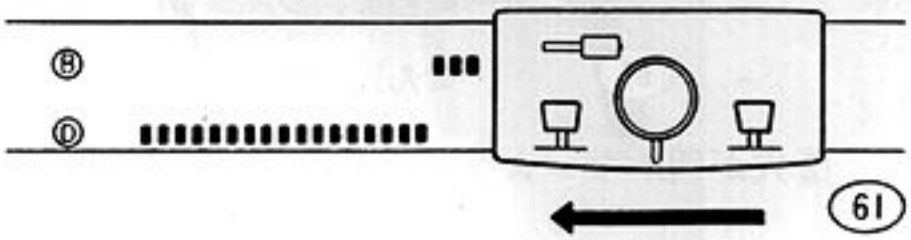
⑦好みの引返し編ができたら、最後に、進行前方のラッセルボタンを下げて、1段編みますと、(図59) B位置の針も、D位置の針も全部編めます。

編み進む引返し編


60

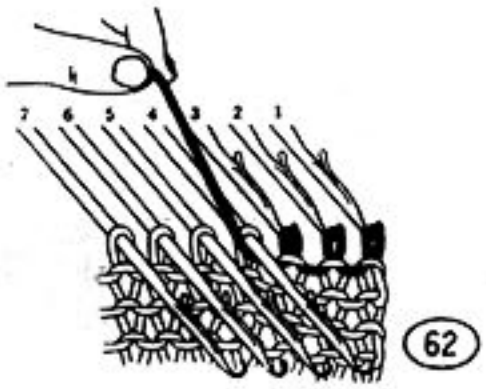
＜本機キャリジ＞ (図60)

カムレバー	●
ラッセルボタン	左右とも上
ピックレバー	白



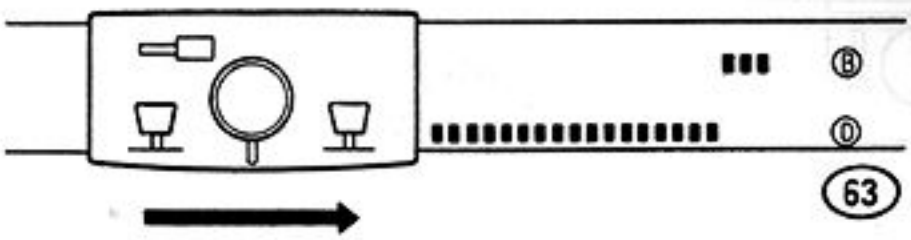
61

①キャリジのある側の、最初に編むメリヤス針を、B位置におき、他のメリヤス針を、全部D位置に出して、1段編みます。(図61)

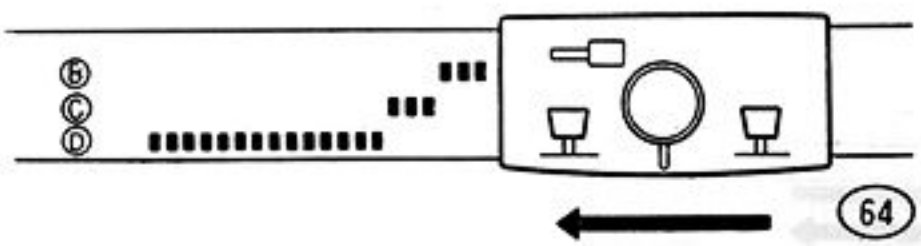


62

②編み終わった隣りのメリヤス針のステムの下から糸をかけて、(図62)



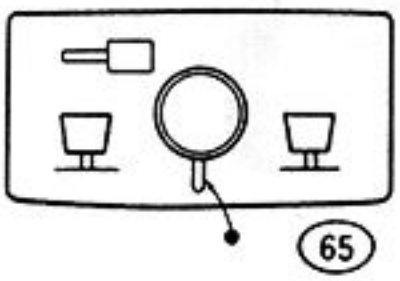
③2段目を編むと、1回の引返し編ができます。(図63)



④次に、編み進むメリヤス針をC位置に押しもどして、3段目を編みます。(図64)
隣りの針に糸をかけて、4段目を編みます。これを好みの回数だけくり返します。

2. 引 上 げ 編

引上げ編の場合、ゲージと編目の間隔に適した段数をえらびます。
(引上げる編目の間隔にたいする段数が多すぎると、目が浮き、目はずれになります)



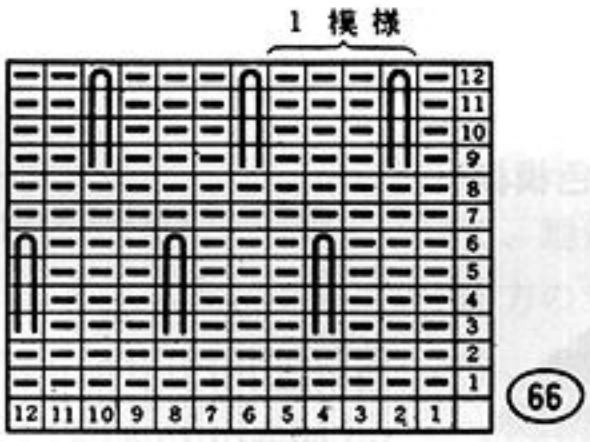
＜本機キャリジ＞ (図65)

カムレバー	●
ラッセルボタン	左右とも上
ピックレバー	白

＜自動模様編器＞

チエンジレバー　　B

例1： 引上げ地模様



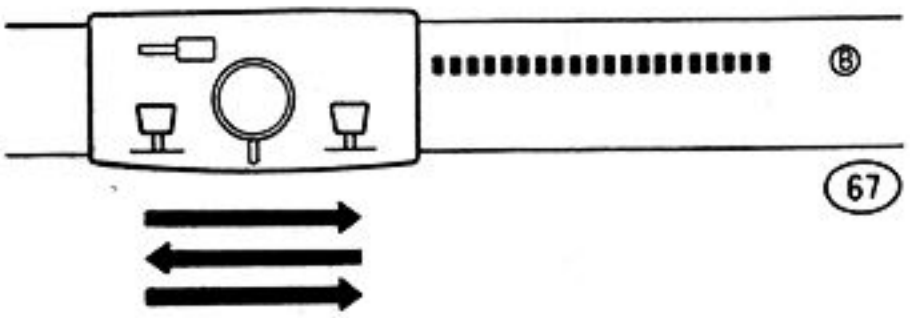
セレクトダイアル

8

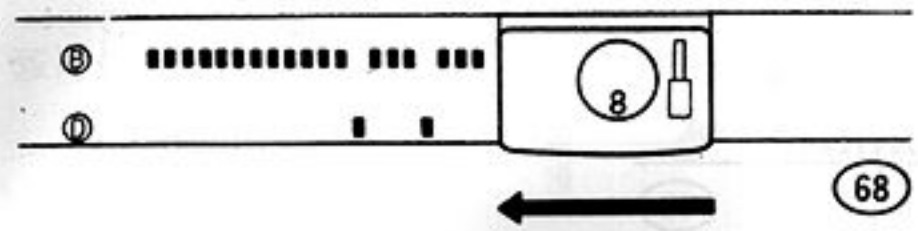
(1模様4目×2=8)

メリヤス編　3段

引上げ編　　3段



①3段編みます。(図67)



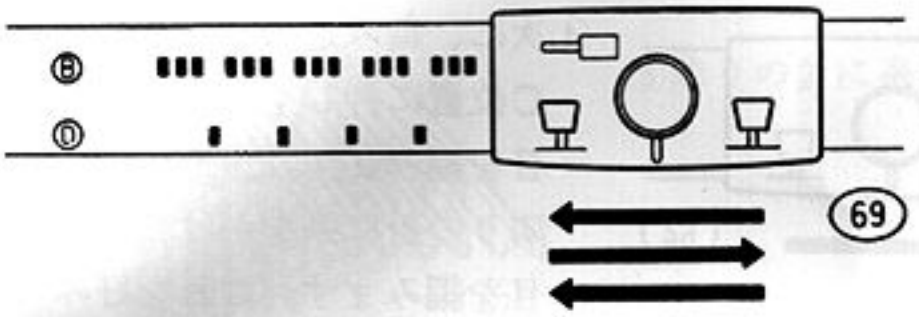
68

②右から4・8番目の針を、D位置に出して、自動模様編器で選針します。(図68)

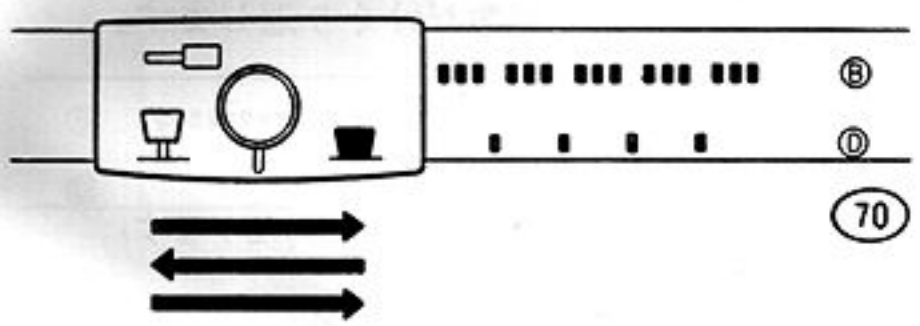
③そのまま、3段編みます。

(図69)

(B位置の針は編めて、D位置の針は編めないで、糸が上にかかります)



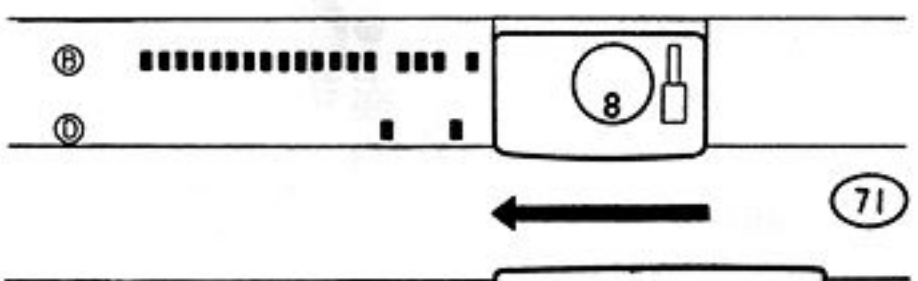
69



70

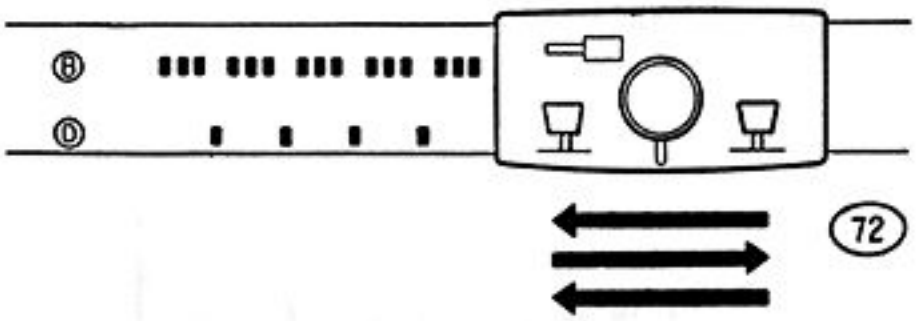
④進行前方のラッセルボタンを下げて、3段編みます。

(図70)



71

⑤編目記号図にしたがって、右から2・6番目の針をD位置に出して、自動模様編器で選針します。(図71)



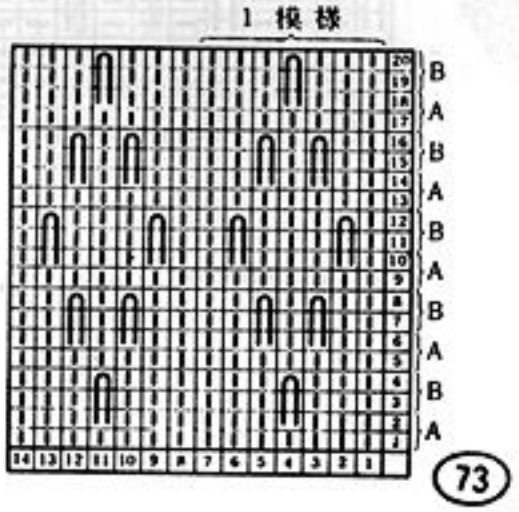
72

⑥ラッセルボタンを上げて③—④をくり返します。(図72)

⑦進行前方のラッセルボタンを下げて、3段編みます。

(図70)

例2：引上げ配色模様



73

A—地糸

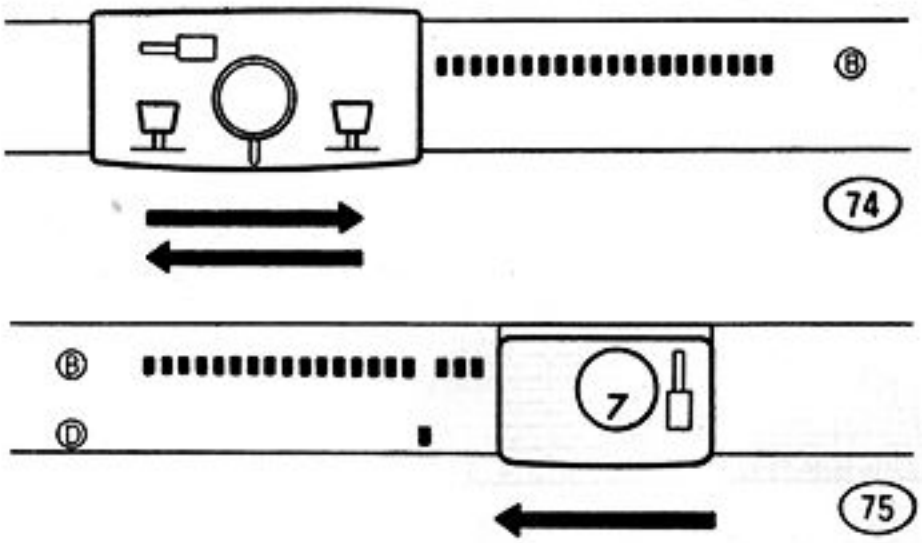
B—配色糸

セレクトダイアル

7

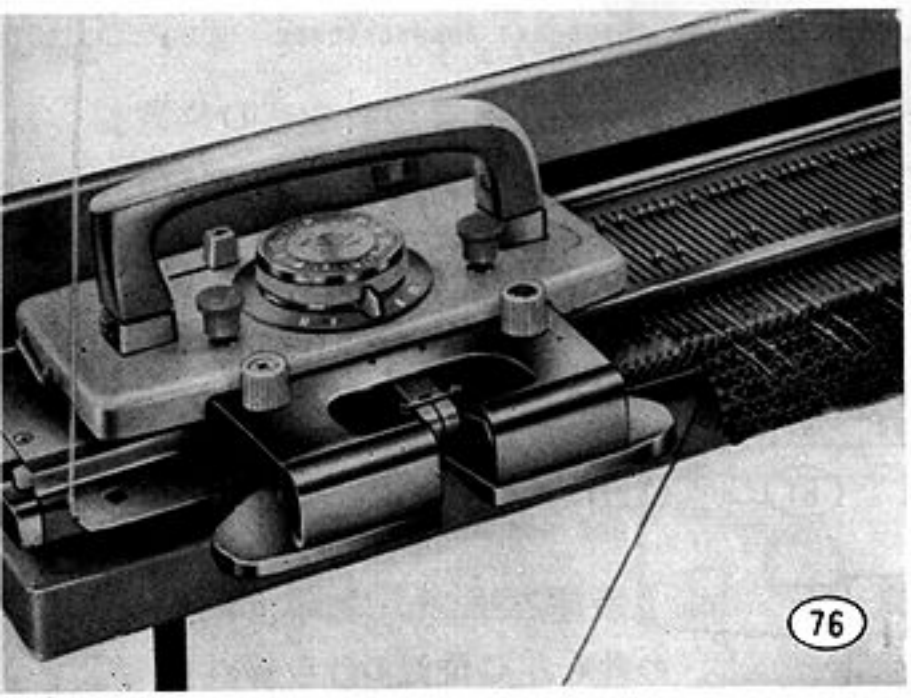
メリヤス編　2段

引上げ編　2段

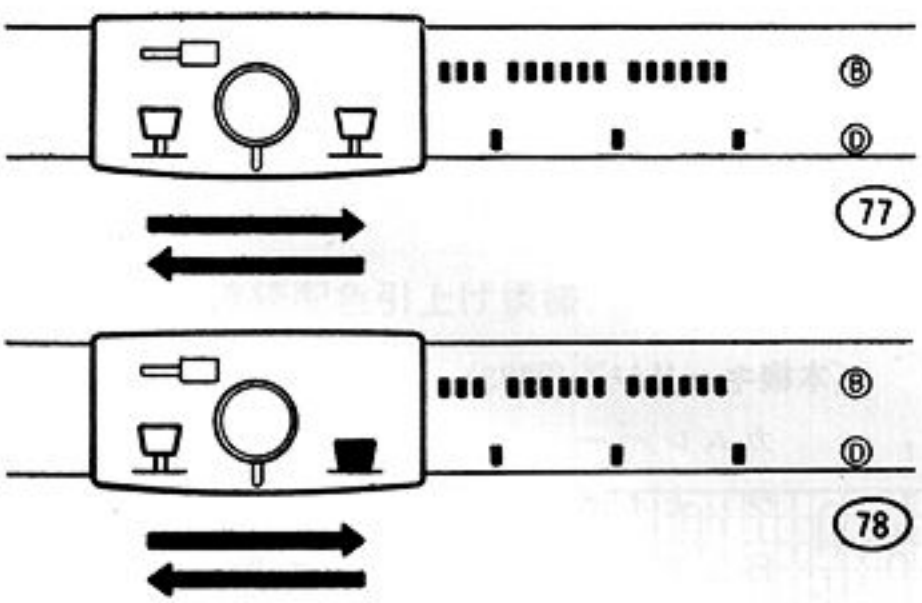


①地糸で2段編みます。(図74)

②右から4番目の針を、D位置に出して、自動模様編器で選針します。(図75)



③地糸を糸口よりはずし、糸のある側の糸かけにかけて、休ませておきます。(写真76)

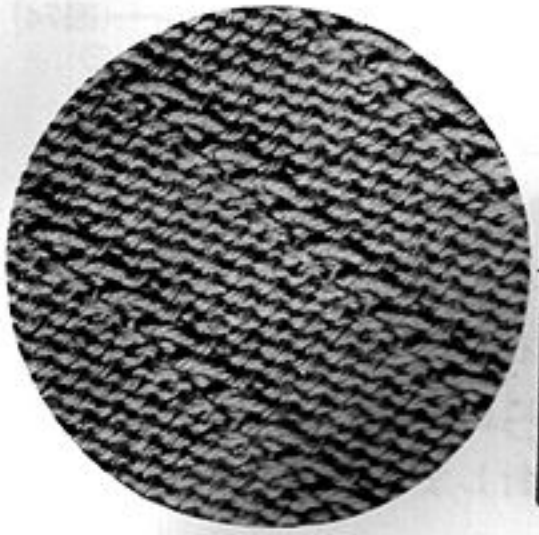


④配色糸を、糸口に通して2段編みます。(図77)(B位置の針は編めて、D位置の針は編めないで、糸が上にかかります)

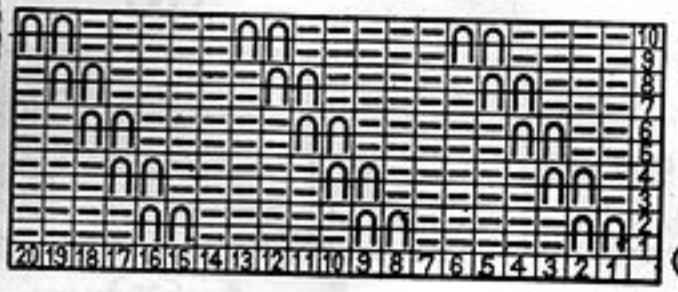
⑤配色糸を、糸口からはずして、地糸を糸口に入れ、進行前方のラッセルボタンを下げて、2段編みます。(図78)

⑥編目記号図にしたがって(選針する針の位置が前と変わります)、②—⑤までをくり返します。

例3：引上げ地模様

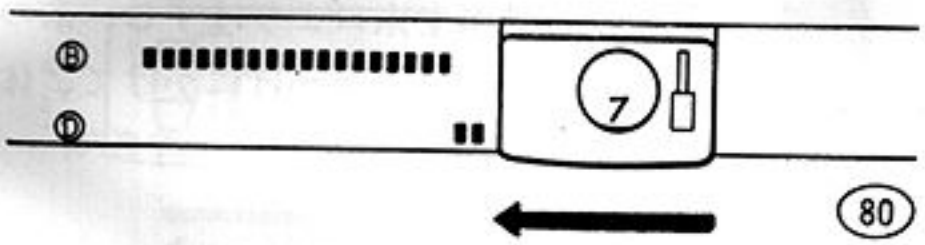


セレクトダイアル
7
メリヤス編　1段
引上げ編　1段



79

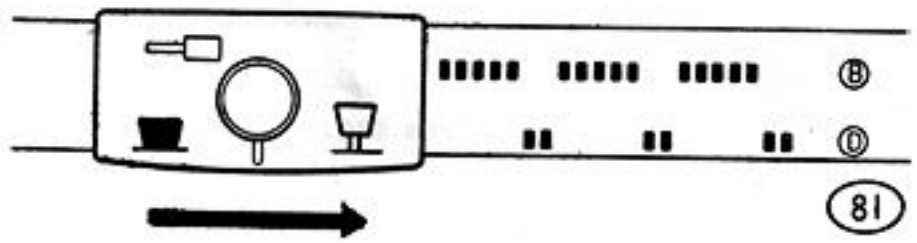
（この場合は、ラッセルボタンを、進行前方を上、後方を下にすると、ラッセルボタンを操作しないで、自動的に行ないます）



80

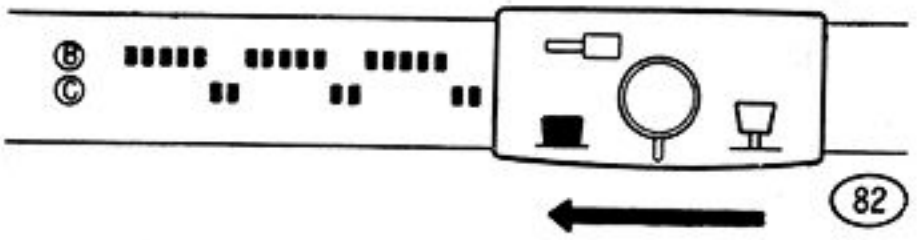
①1段編みます。

②右から1・2の針を、D位置に出して選針します。(図80)



81

③1段編みます。(図81)（B位置の針は編めて、D位置の針は編めないで、糸が上にかかり、C位置に下がります）

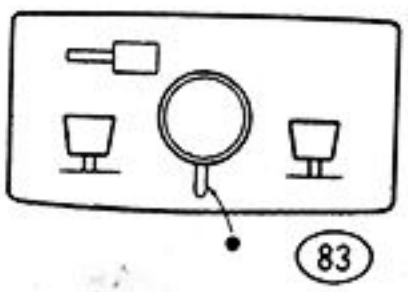


82

④1段編みます。(図82)（B位置の針も、C位置の針も編めて、B位置にもどります）

⑤編目記号図にしたがって、②—④をくり返します。

3. 連続引上げ編



83

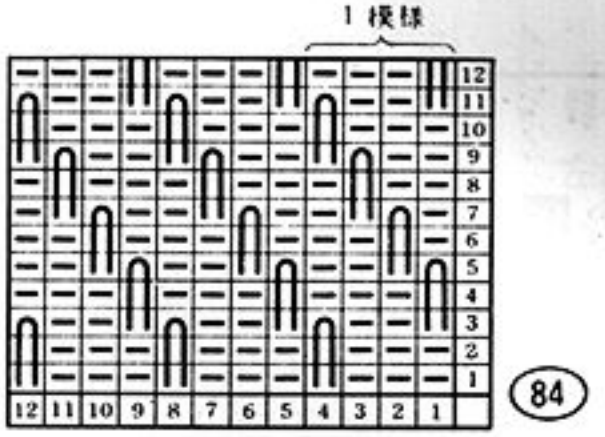
＜本機キャリジ＞(図83)

カムレバー	●
ラッセルボタン	左右とも上
ピックレバー	白

＜自動模様編器＞

チエンジレバー	C

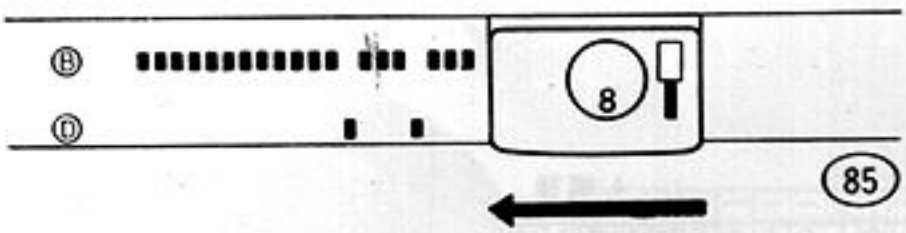
例1：連続引上げ地模様



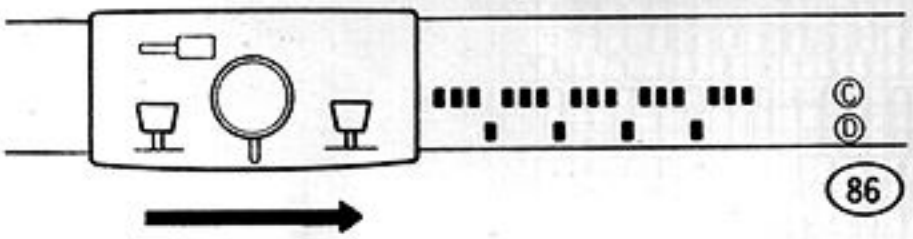
84

セレクトダイアル　8

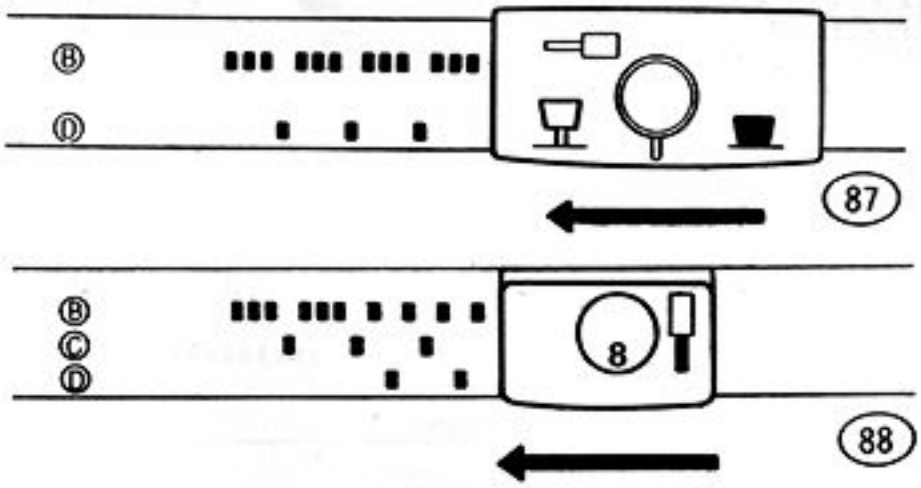
引上げ編　2段



85



86



87 88

①編糸で1段編みます。

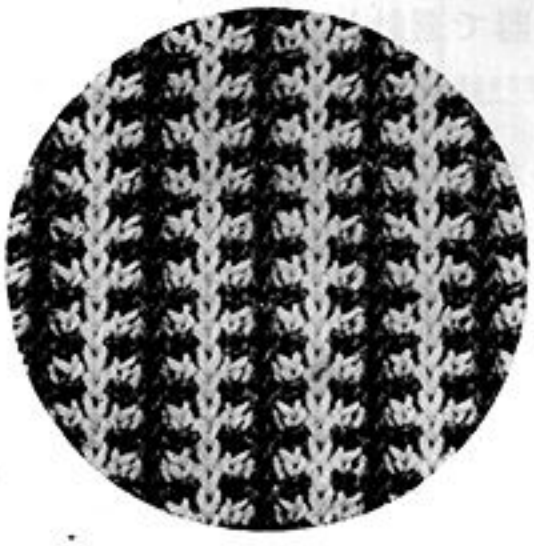
②右から4・8番目の針を、D位置に出して、自動模様編器で選針します。(図85)

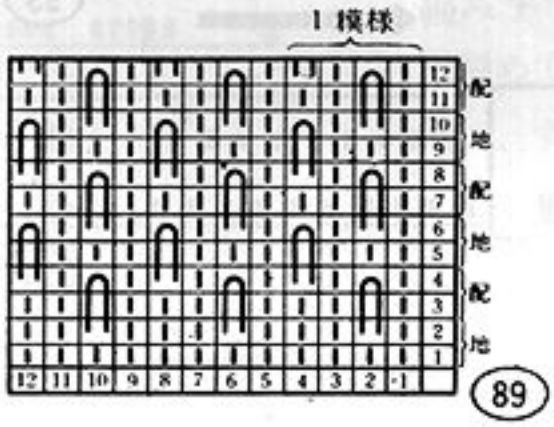
③そのまま1段編みます。(図86)(C位置の針は編めて、B位置にもどり、D位置の針は編めないで、糸が上にかかります)

④進行後方ラッセルボタンを下げて1段編みます。(図87)(C位置の針は編めて、D位置の針は編めないで、糸が上にかかり、C位置に下ります)

⑤編目記号図にしたがって②—④をくり返します(選針は(図88)のように行ないます)。

例2：連続配色引上げ模様





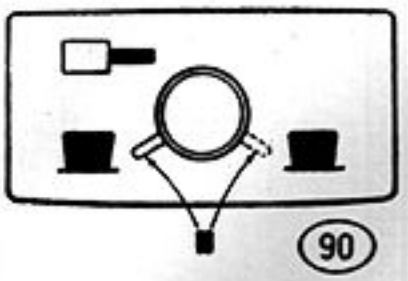
89

セレクトダイアル　8

引上げ編　2段

地糸と配色糸を、2段ごとに変えるほかは、前と同じです(編目記号図参照)。

4. ピ ッ ク 編



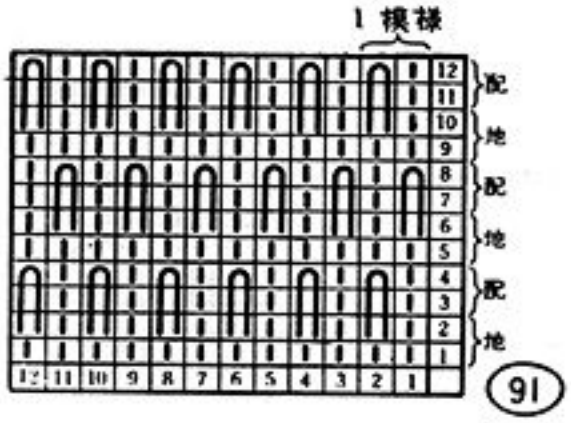
＜本機キャリジ＞ (図90)

カムレバー	Ⅱ(左右どちらでもよい)
ラッセルボタン	左右とも下
ピックレバー	赤

＜自動模様編器＞

チエンジレバー	B

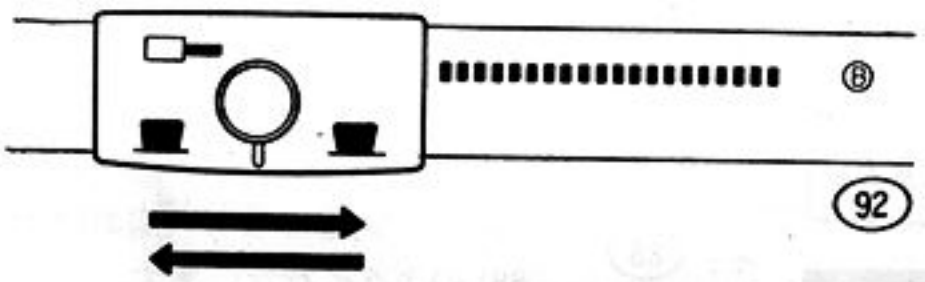
例：ピック地模様



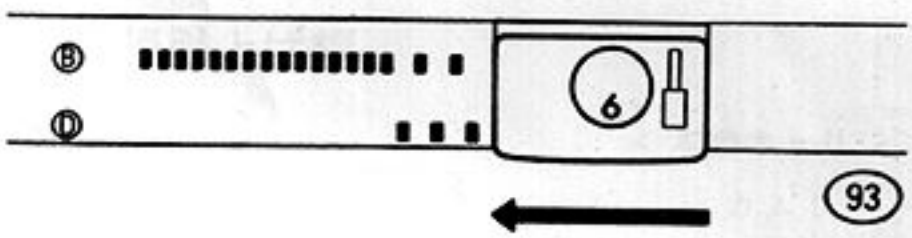
セレクトダイアル

6

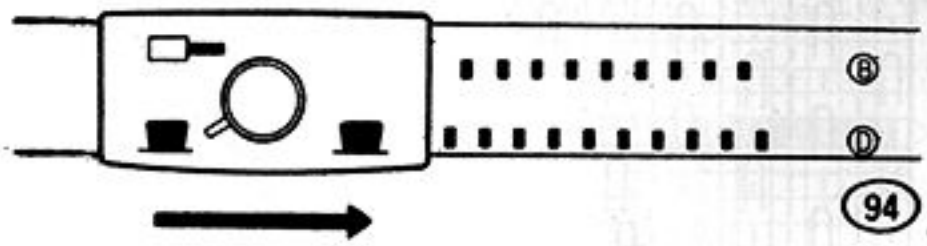
ピック　　2段



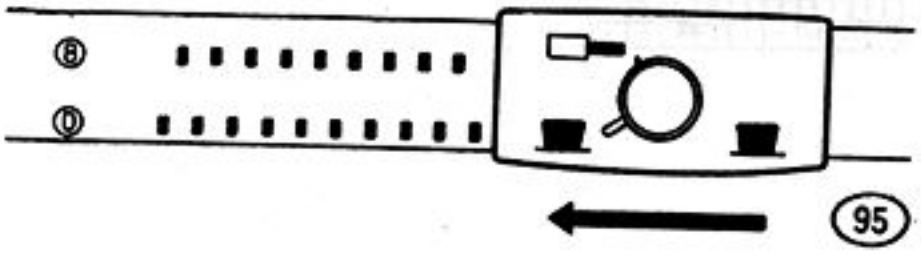
①カムレバーを●にして、2段編みます。(図92)



②右から1・3・5番目の針を、D位置に出して、自動模様編器で選針します。(図93)



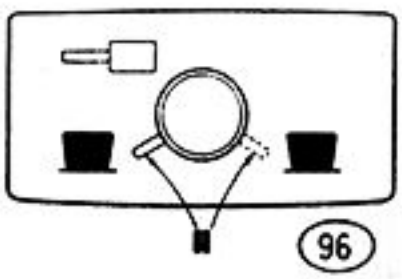
③カムレバーをⅡにして、1段編みます。(図94)



④同じ針を選針して、1段編みます。(図95)

⑤編目記号図にしたがって①―④までをくり返します。

5. すべり目引上げ編



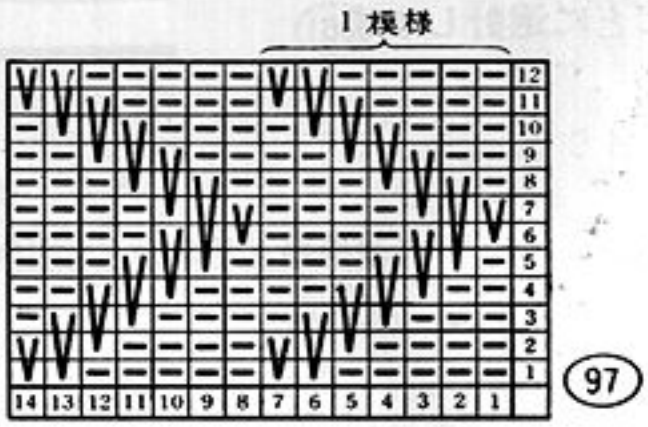
＜本機キャリジ＞ (図96)

カムレバー	▮▮
ラッセルボタン	左右とも下
ピックレバー	白

＜自動模様編器＞

チェンジレバー	B

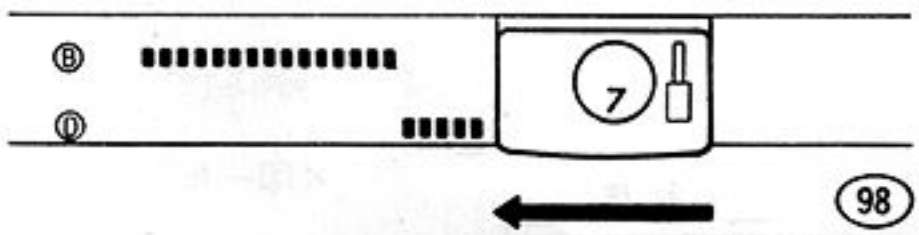
例1： すべり目引上げ地模様



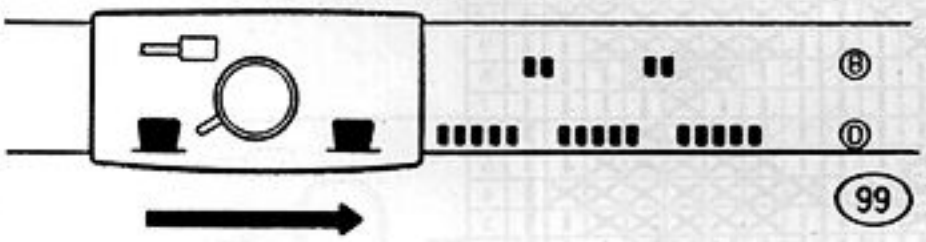
セレクトダイアル

7

①カムレバーを●にして、１段編みます。



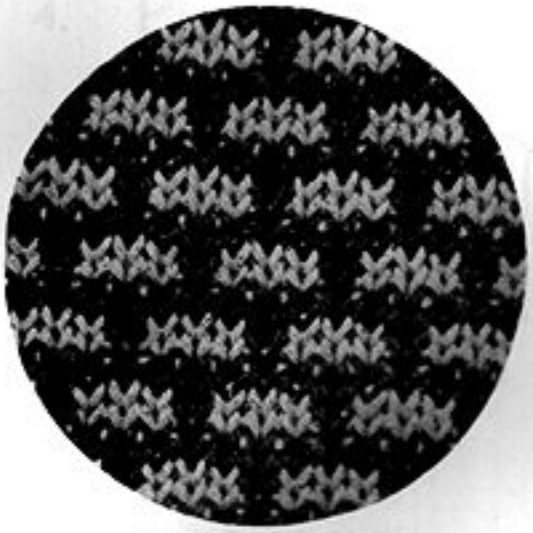
②右から１・２・３・４・５の針を、D位置に出して、選針します。(図98)

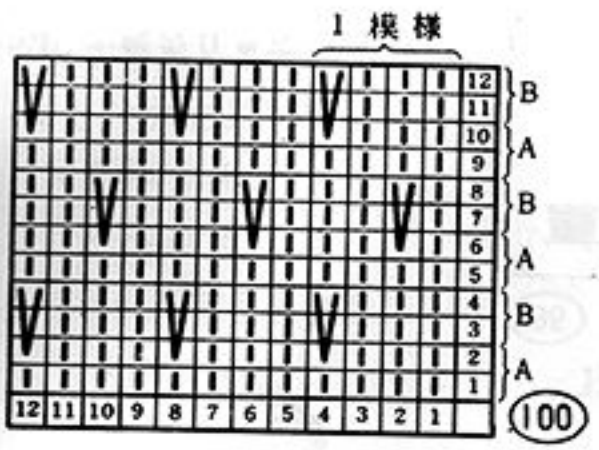


③カムレバーを▮▮にして、１段編みます。(図99)(D位置の針は編めて、B位置の針は編めないで、すべり目になります)。

④編目記号図にしたがって、②—③をくり返します。

例2： 配色すべり目引上げ模様



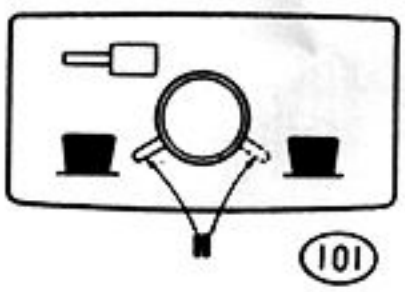


A—地糸
……カムレバー●
B—配色糸
……カムレバー▮▮
セレクトダイアル
8
引上げ編　2段
メリヤス編　2段

地糸と配色糸は、2段ごとにとりかえます。

配色糸は、各段ごとに選針します。

6. 編込み



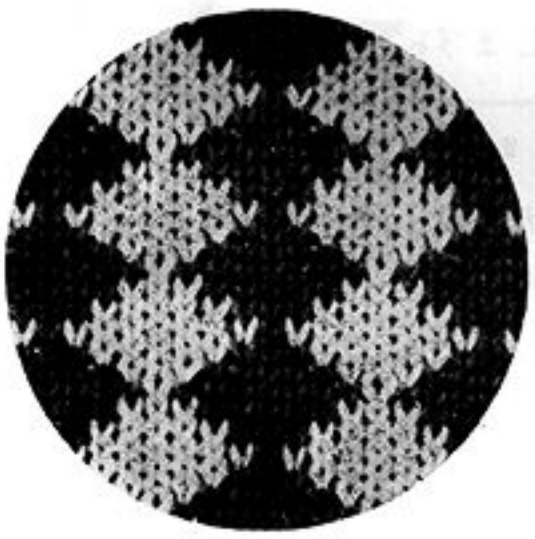
＜本機キャリジ＞ (図101)

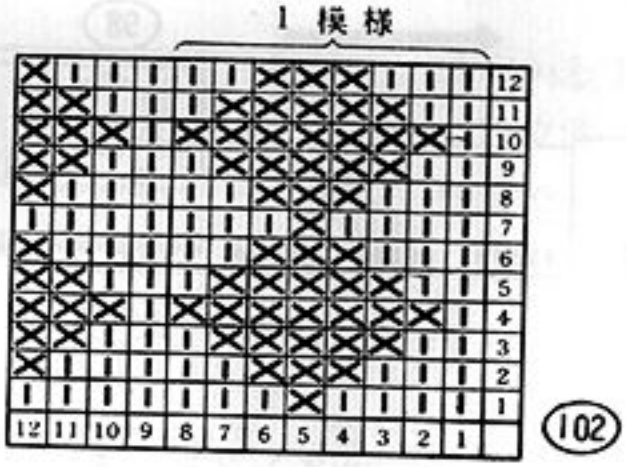
カムレバー	▮▮
ラッセルボタン	左右とも下
ピックレバー	白

＜自動模様編器＞

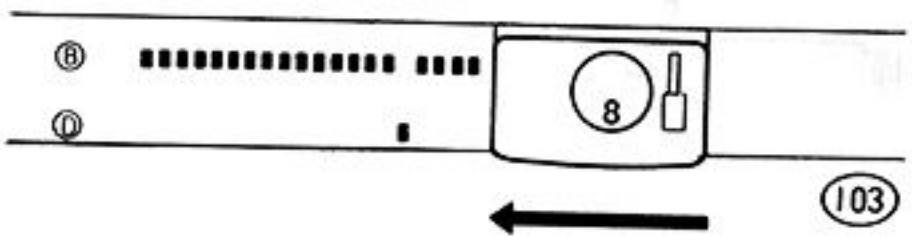
チエンジレバー　B

例：菱形編込み模様

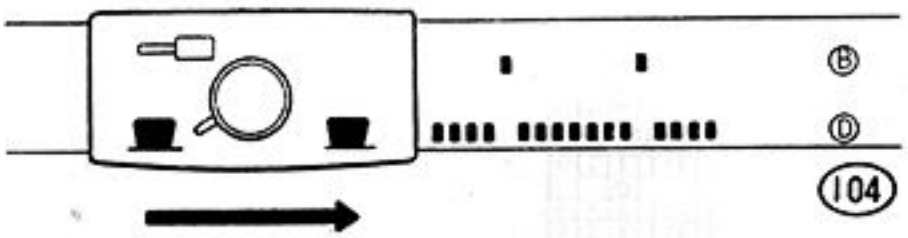




×印—配色糸
セレクトダイアル
8

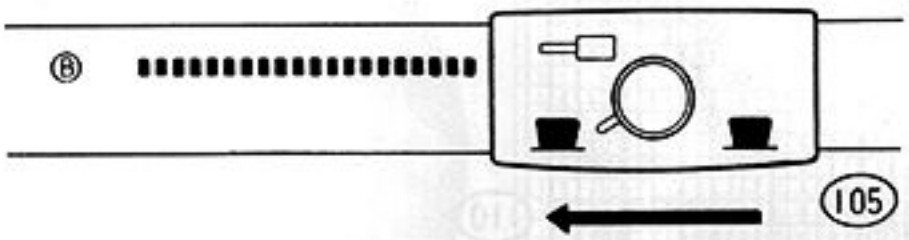


①右から5番目の針を、D位置に出して選針します。(図103)



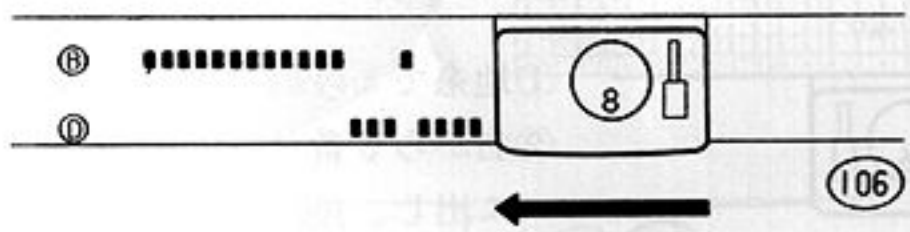
104

②配色糸で1段編み、糸口からはずします。(図104)



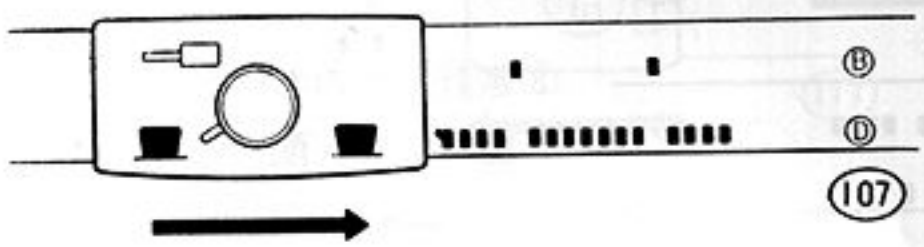
105

③キャリジはそのまま空通しで、もとの位置にもどします(図105)



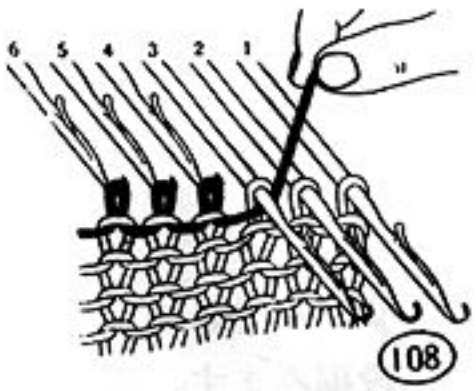
106

④右から1・2・3・4・6・7の針を、D位置に出して選針し、(図106)



107

⑤地糸で1段編みます。(図107)

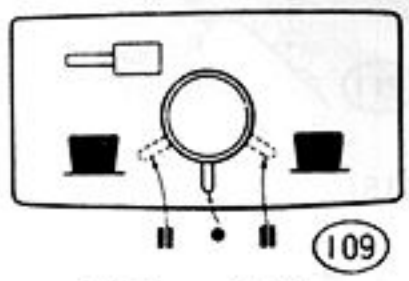


108

⑥地糸でも、配色糸でも、編みはじめが、編端でない場合は、隣りの針のステムの下から糸をかけて、編みもどります。(図108)
(地色と配色糸との間に、穴があかないため)

⑦編目記号図にしたがって、①—⑥をくり返します。

7. 編込み浮き模様


109

● 地糸　　‖ 配色

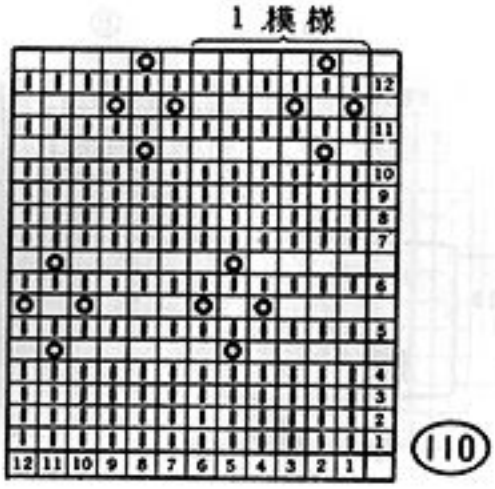
＜本機キャリジ＞ (図109)

カムレバー	地糸 ● 配色糸 ‖
ラッセルボタン	左右とも下
ピックレバー	白

＜自動模様編器＞

チェンジレバー	B

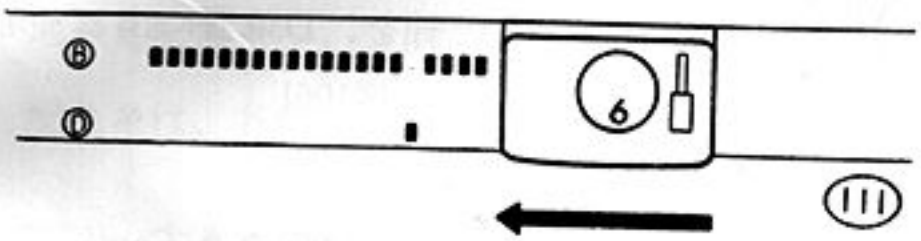
例：ダイヤ浮き模様



○印—配色糸

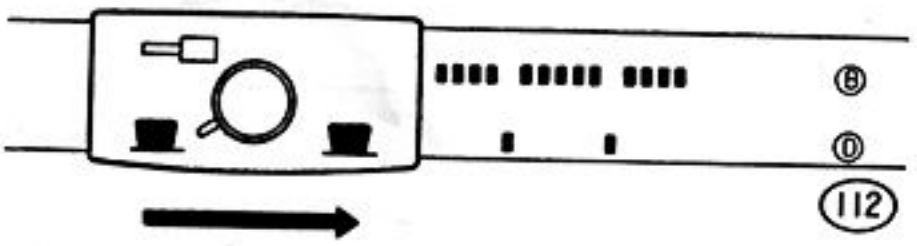
セレクトダイアル

6

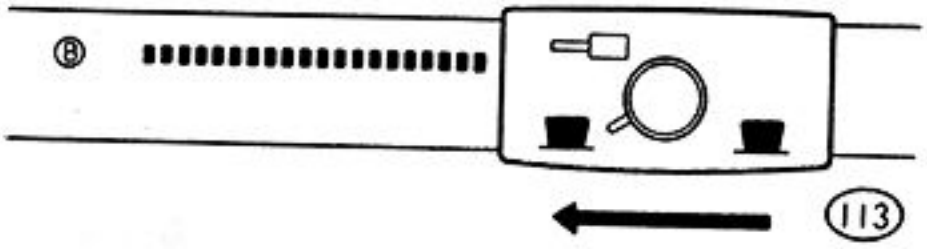


①地糸で4段編みます。

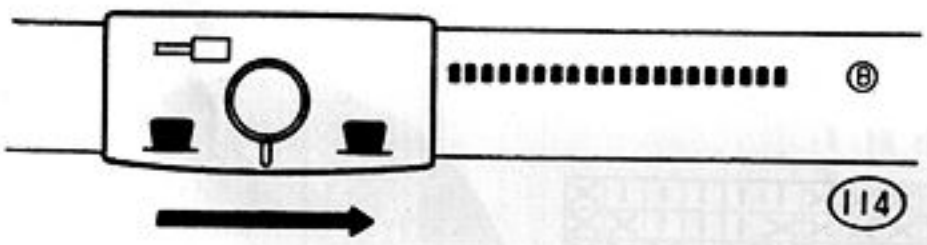
②右から5番目の針を、D位置に出し、(図111)



③選針したのち、カムレバーを▮▮にして、配色糸で1段編みます。(図112)(必ずフックの中に、糸が入っていること)



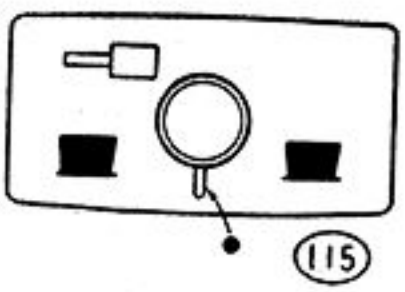
④配色糸をはずし、キャリジはそのまま空通しで、もとの位置にもどし、(図113)



カムレバーを●にして、地糸で1段編みます。(図114)

⑤編目記号図にしたがって②—④をくり返します。

8. 穴あき模様 (ウツシを使います)



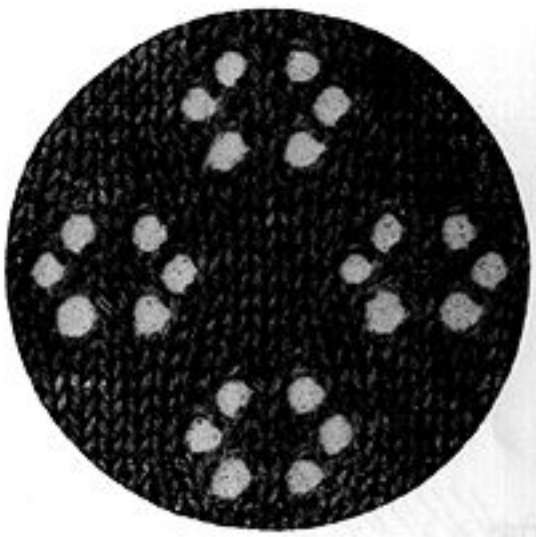
<本機キャリジ> (図115)

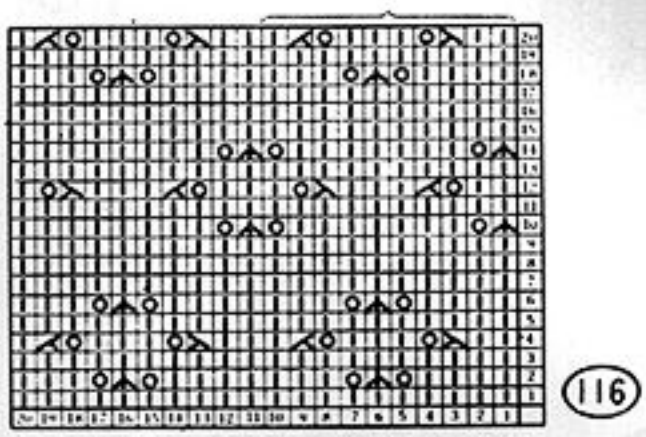
メリヤス編と同じにセットします

<自動模様編器>

チエンジレバー　　B

例：穴あき模様

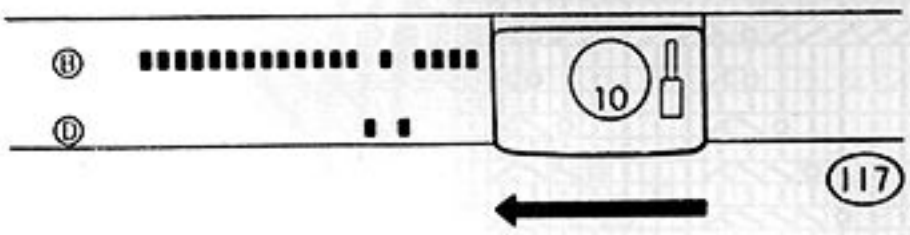




116

セレクトダイアル

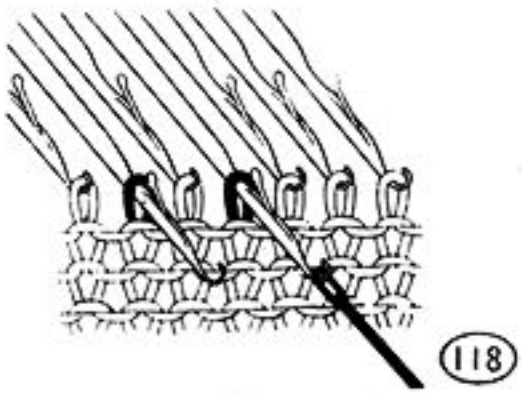
10



117

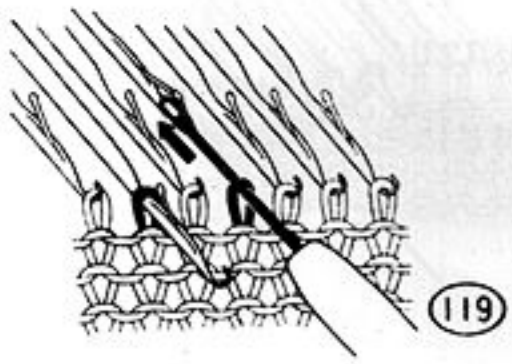
①１段編みます。

②右から５・７番目の針を、Ｄ位置に出して、選針します。(図117)



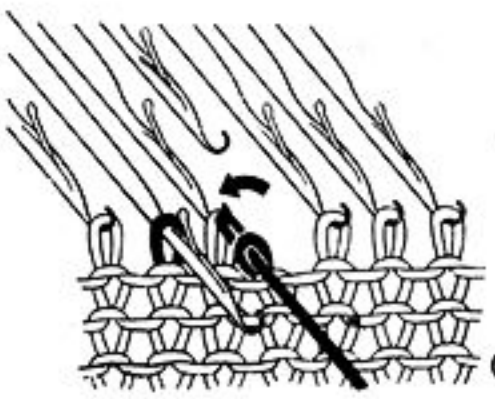
118

③選針されたD位置の針のフックに、ウツシの穴をかけ、(図118)



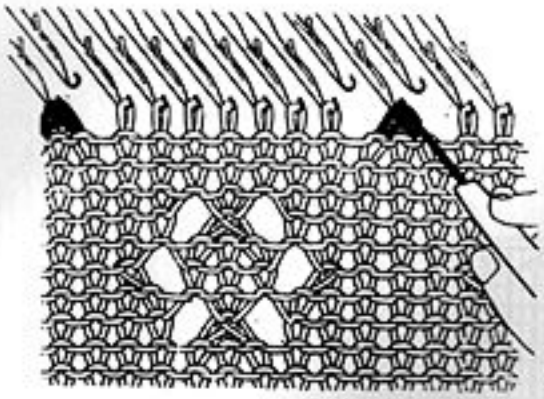
119

メリヤス針を押しもどすと、編目はウツシに移りますから、(図119)



120

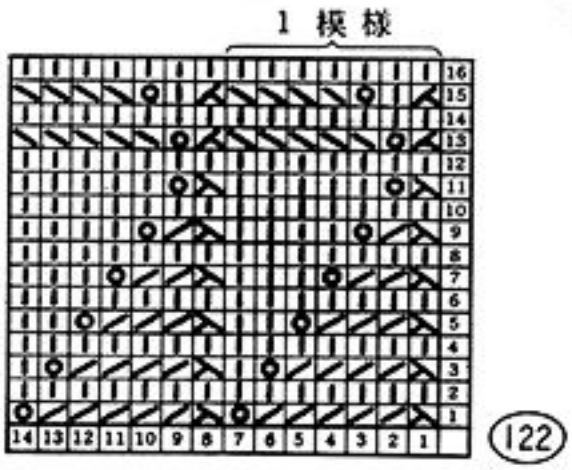
編目記号図にしたがって、編目のかかったウツシの穴を、隣りのメリヤス針のフックにかけ、編目をメリヤス針に移します。(図120)



④次に、２段編み、②—③をくり返します。

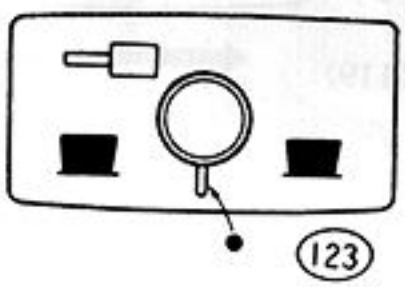
(図121)

例２：穴あき模様



２目・３目のウツシを使い、編目を同時に移動させて、穴あき模様を作ります。

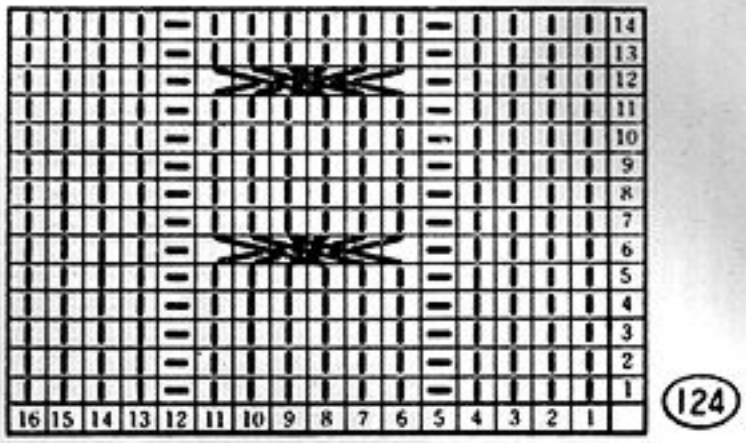
9. な わ 編



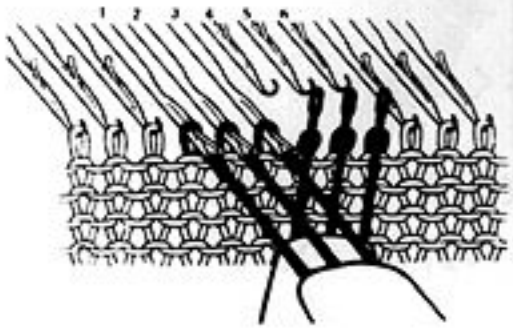
＜本機キャリジ＞ (図123)

メリヤス編と同じにセットします。

例：6 目のなわ編



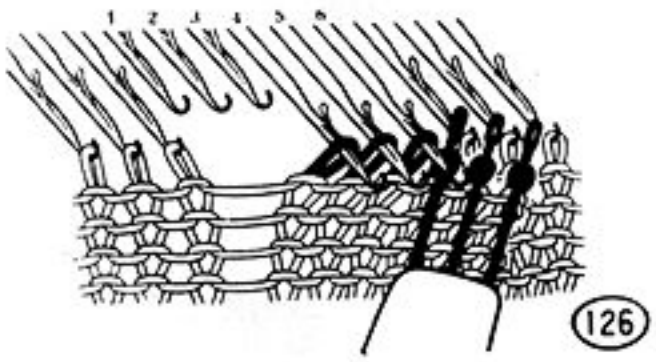
(124)



(125)

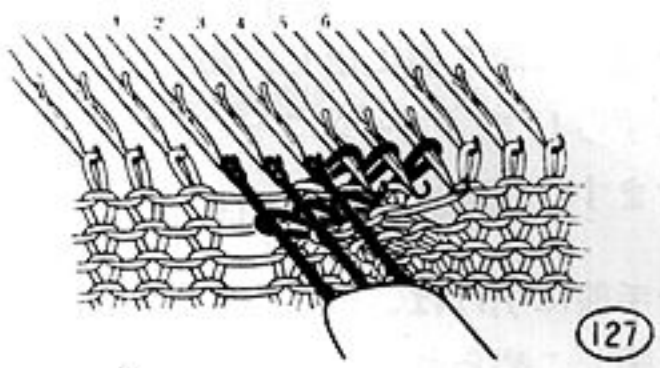
①６段編みます。

②３目のウツシを、２本使います。一方のウツシで３目１度に取り、もう一方のウツシで、隣りの３目も１度に取ります。(図125)



(126)

③交ささせて、あき針にかけ、(図126)・(図127) 編目をベラのうしろへずらして、６段編みます。



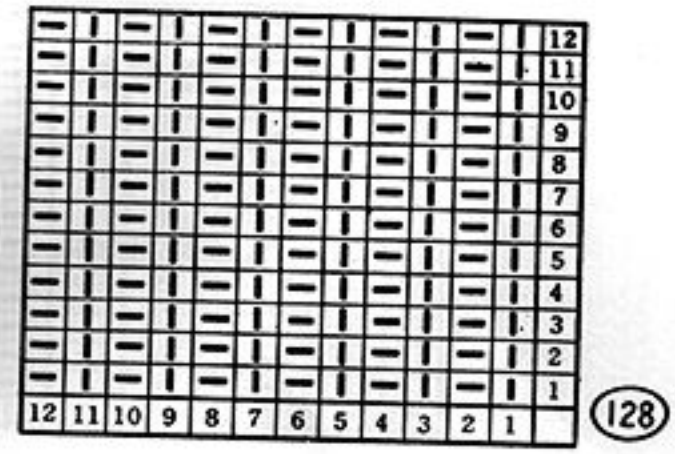
(127)

④これをくり返して、３模様(18段)編んだら、なわ編の両側を、１目ずつ裏目になおします（裏目になおす方法は、次のゴム編を参照してください)。

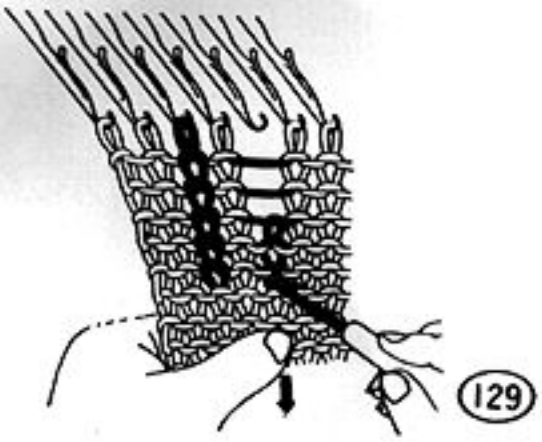
10. ゴ ム 編

<本機キャリジ> メリヤス編と同じにセットします。

例：１目ゴム編



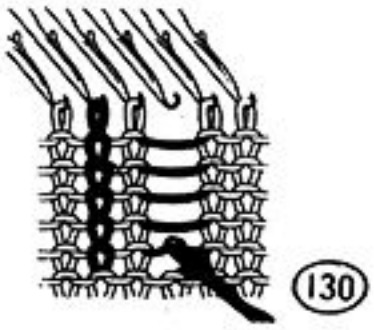
128


129

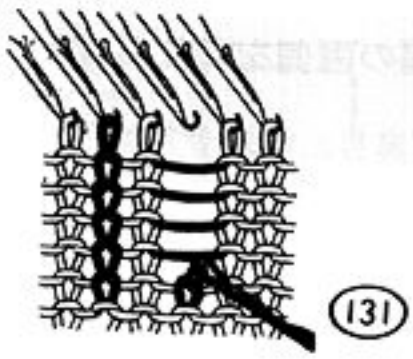
①ゴム編は、メリヤス編より、編目調節ダイアルを１目盛小さくします。

②ゴム編する段数だけメリヤス編をします。右から３・５・７の針を、D位置に出し、選針します。

③D位置にあるメリヤス針を、一本B位置にもどして、編目をはずし、ゴム編する段の少し上までほどきます。


130

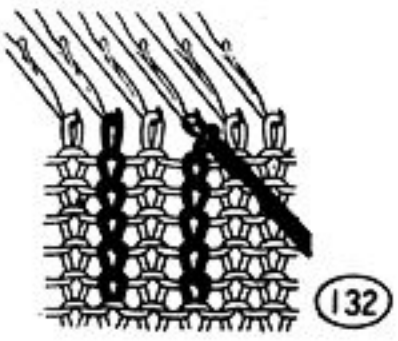
④ゴム編する一番下の編目に、タッピを差し込み、(図129) 編目をさらに この段までほどきます。


131

⑤タッピを編地の向う側に出し、編目をベラのうしろにずらして、フックにその上の段の横糸をかけます。(図130)

⑥タッピを手前に引けば、ベラが閉じて横糸はフックに閉じこめられ、ベラのうしろにあった編目がすべりおちて、１目編めます。(図131)

これをくり返して、上まで編みます。

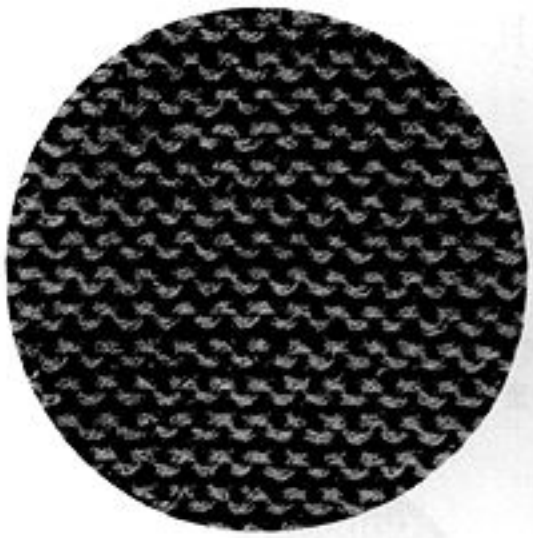

132

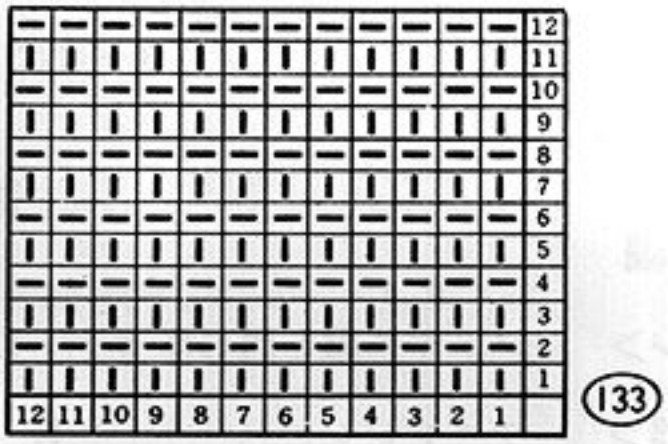
⑦最後は編目をタッピのベラのうしろにずらし、タッピのフックをメリヤス針のフックにかけて、最後の段の編目をメリヤス針へ移します。(図132)

11. ガーター編 (タッピを使います)

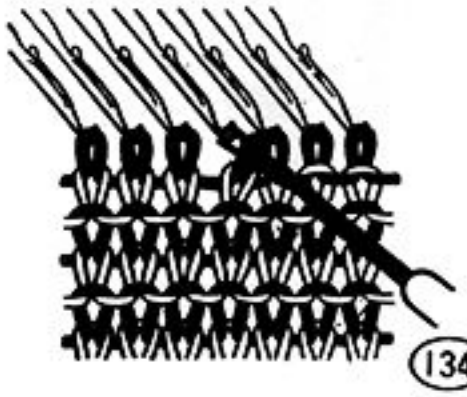
＜本機キャリジ＞　メリヤス編と同じにセットします。

＜自動模様編器＞　チエンジレバー　B





(133)



(134)

①２段編みます。

②自動模様編器で、ベラを開きます。

③タッピで、１目全段を裏目になおします。

(図134)

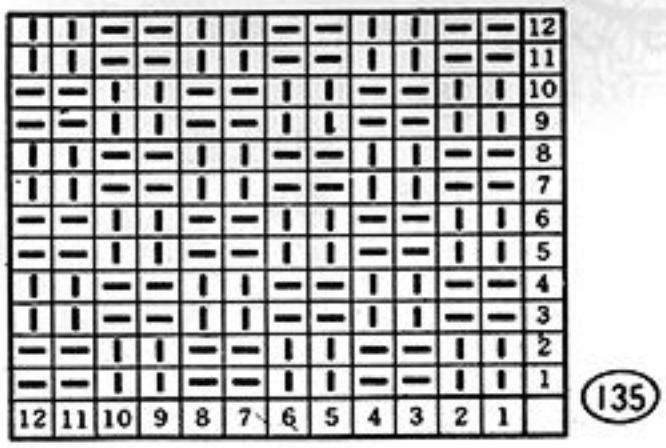
④①—③をくり返します。

12. 裏目表目の地模様 (タッピを使います)

＜本機キャリジ＞　メリヤス編と同じにセットします。

＜自動模様編器＞　チエンジレバー　B

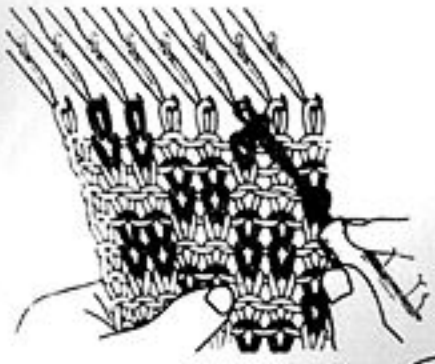
例：２目２目の地模様



(135)

セレクトダイアル

8



136

①２段編みます。

②右から、３・４・７・８をD位置に出して、選針します。

③D位置の針を、２段裏目にタッピでなおします。

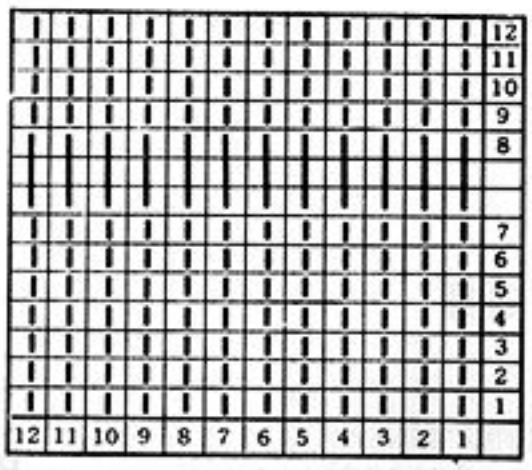
(図136)

13. ドライブ編

＜本機キャリジ＞　メリヤス編と同じにセットします。

＜自動模様編器＞　チエンジレバー　B

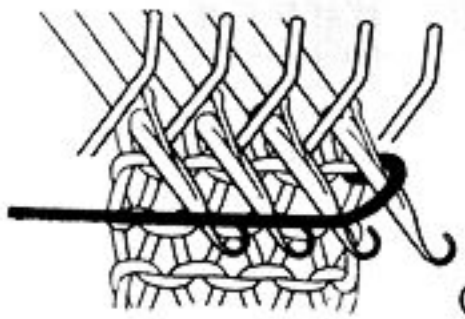
例：



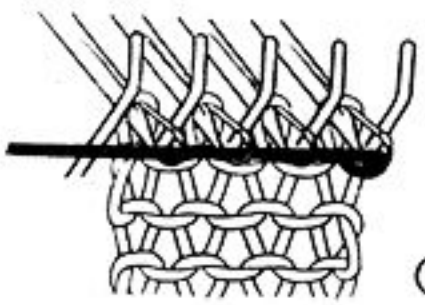
137

セレクトダイアル

6



138



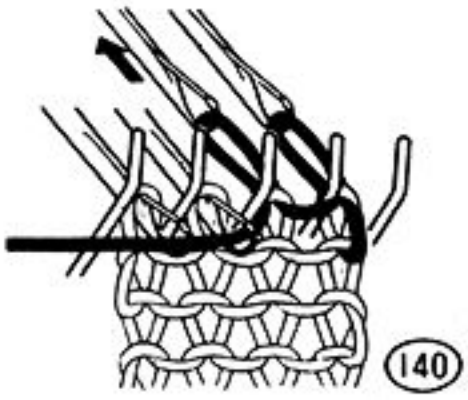
139

①１段編みます。

②１・２・３・４・５・６の針を、D位置に出して選針します。

③D位置に出ている針を、C位置まで下げ、糸口よりはずしてフックにかけ、(図138)そのまま１度、フックをシンカの位置まで下げます。(図139)

(必ずフックの中に、糸が入っていること)


140

④糸端のない方の針から、１本ずつA位置に押しもどします。(図140)

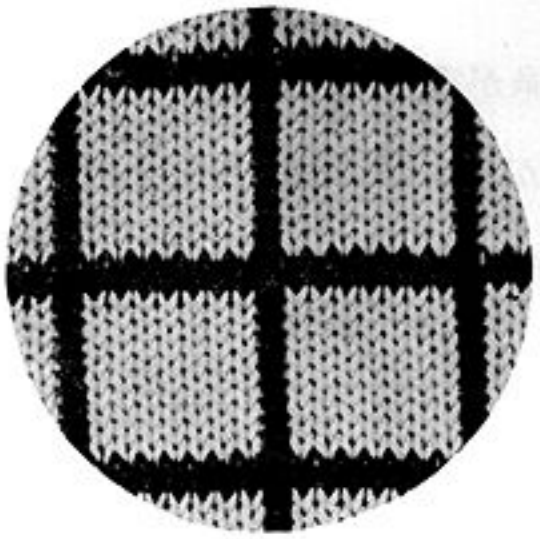
⑤キャリジを１操作します。

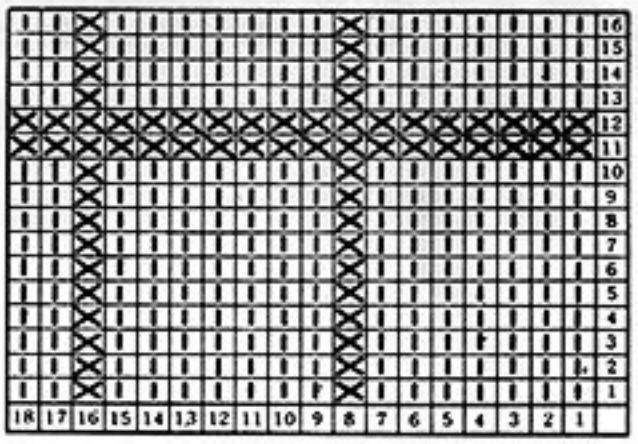
⑥A位置に押しもどした針を、しずかにB位置に出します(片手で編地を軽く引く)。

⑦①—⑥をくり返します。

14. 格子(こうし)じま模様編

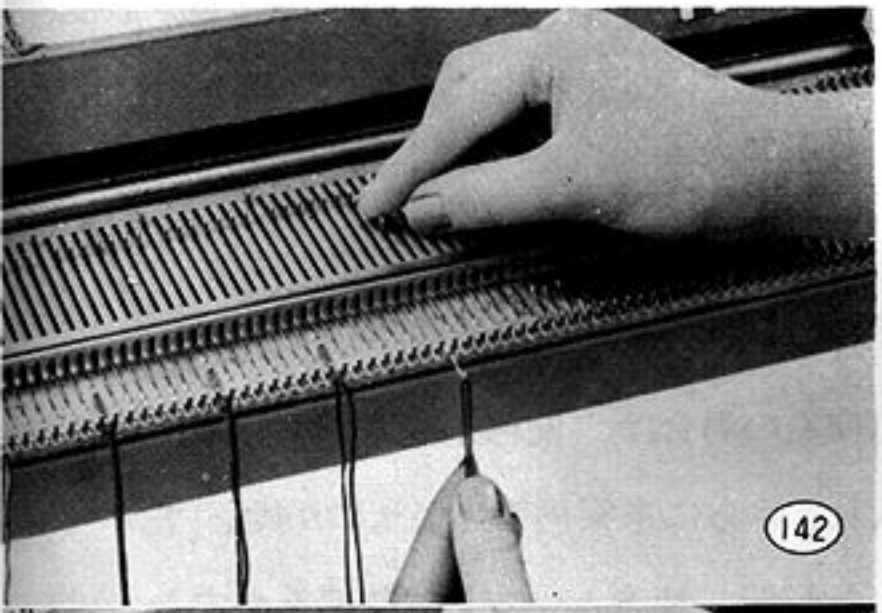
＜本機キャリジ＞　メリヤス編と同じにセットします。





141

×印　配色糸


142

143

縦に編み込む配色糸は、編み込みだけの約６倍に、それぞれ切っておきます。

①配色記号のメリヤス針を、C位置に出し、フックに配色糸をかけて、A位置に押しもどします。(写真142)

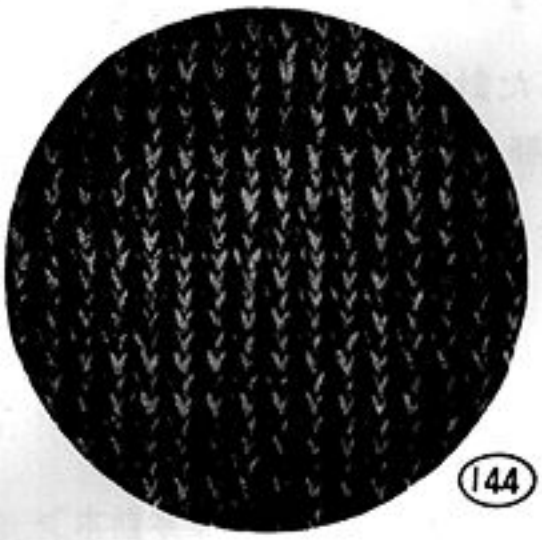
②地糸で１段編みます。

{ A位置の針は、編めない。
{ B位置の針は、編める。

③配色糸のかかっているA位置の針を、しずかにC位置に出し、①と同じように編み、A位置に押しもどします。②—③をくり返して、縦じまを編み、(写真143)

横じまは、配色糸にかえて、2段編みます。

15. 添(そえ)糸　編



{ 中細毛糸　1本 / 極細毛糸　1本 } 使用の場合……

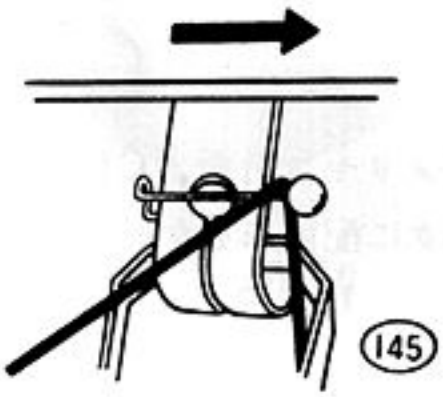
{ 表　配色糸　(極細毛糸) / 裏　地　糸　(中細毛糸) }

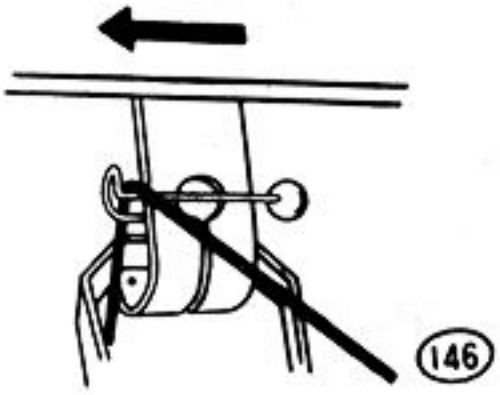
編目ダイアル　　7

地糸と配色糸を、いっしょに編み、地糸の上に配色糸が重なって、メリヤス編になりますが、配色糸は表に、地糸は裏に出て、表裏が色ちがいになります。
配色糸に、変わった素材を使うと、おもしろい編地ができます。

例：

<本機キャリジ>　メリヤス編と同じにセットします。





①地糸は、オートテンションから糸口に通します。

②配色糸は、機械の手前におきます。

③進行方向右の場合は、配色糸を右側の添糸編糸口に入れ、さらに糸案内の赤い玉にかけ、手で調節しながら、地糸といっしょに編みます。

(図145)

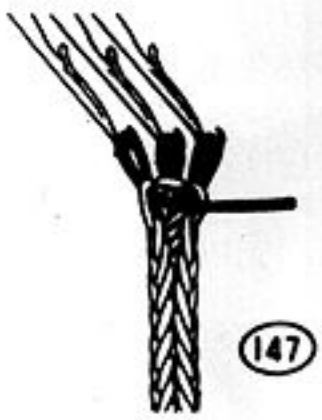
④進行方向左の場合は、配色糸を、左側の添糸編糸口に入れ、さらに糸案内のカギ形のところにかけ、地糸といっしょに編みます。(図146)

⑤配色糸は、1段編むごとに、左右の糸案内にかけかえながら編みます。

16. コ ー ド 編

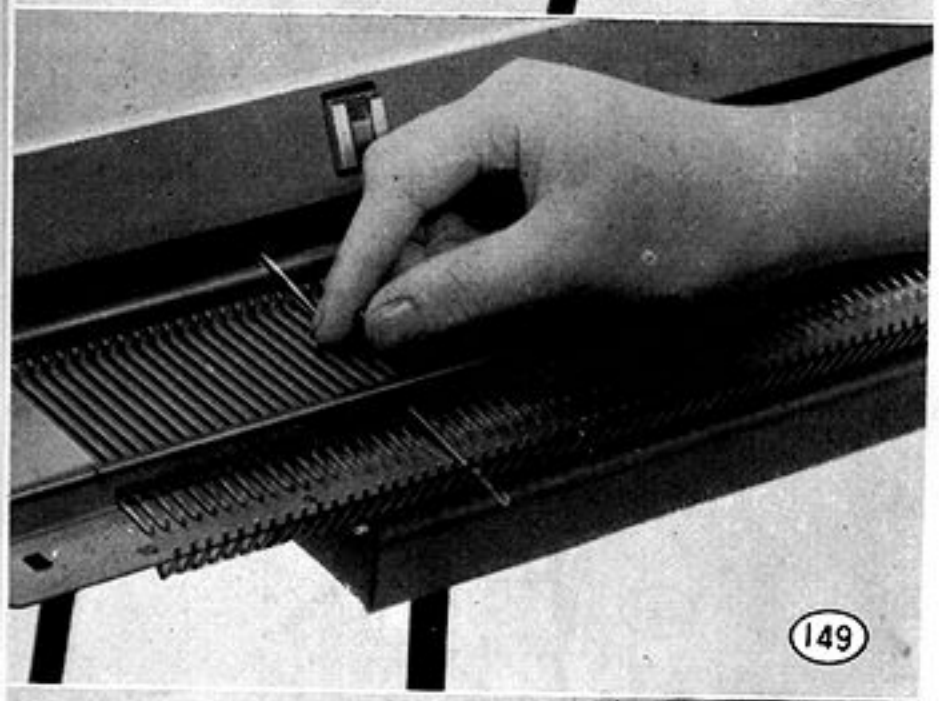
＜本機キャリジ＞

カムレバー	左右どちらかを▌
ラッセルボタン	左右とも下
ピックレバー	白



ヒモの太さに応じて、2目から5目ぐらいまでの好みの目数で編みます。図(147)

もし……なら、どうしよう



1. メリヤス針が破損(はそん)したら

編地が機械にかかったままでも、取りかえることができます。

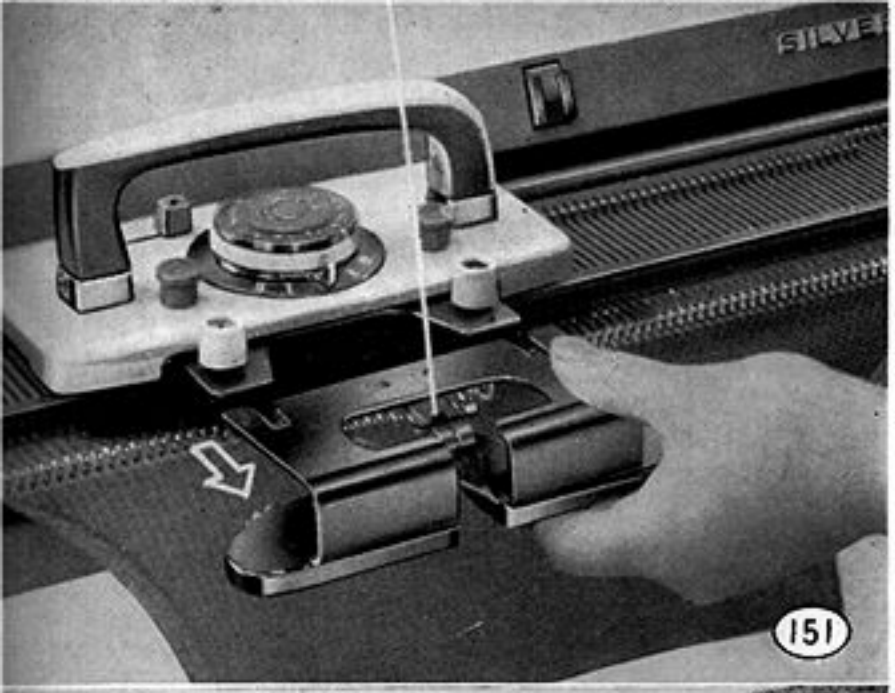
①ミゾ板の手前内側に入っている針ぬき棒を、左右いずれかにぬき出します。(写真148)

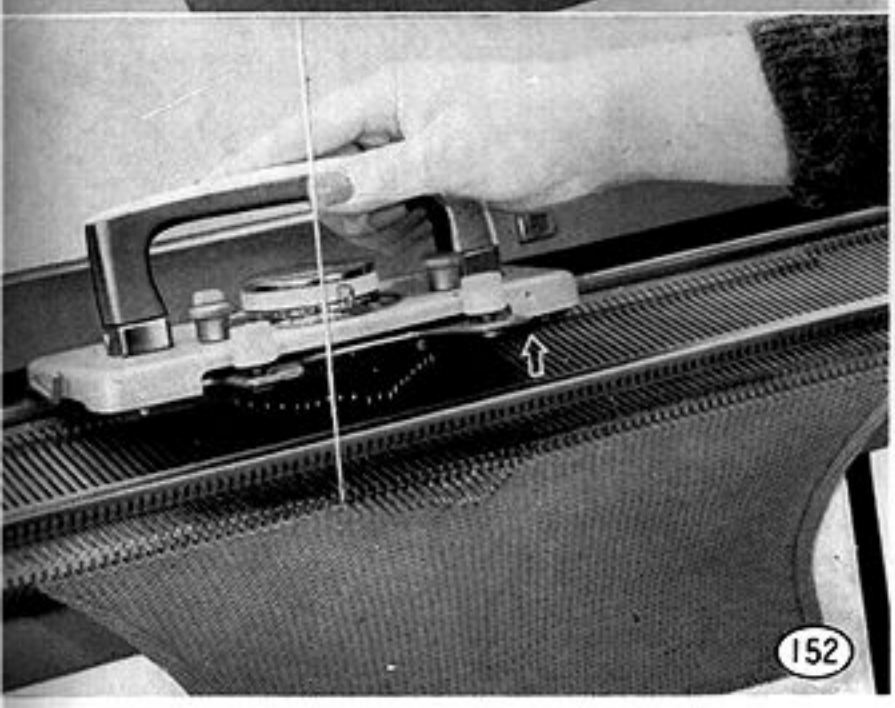
②取りかえるメリヤス針は、D位置まで出して、バットをつまみあげて、シャンクのあとはしを、ミゾ板より上に出し、あといっぱいに押しもどすとはずれます。(写真149)

③メリヤス針を入れるときは、バットをつまんで、フックから先に、前と逆の順序で入れ、次に針ぬき棒を押し込みます。

2. 間違えて編んだら

糸口より編糸をはずし、編み終わりの糸を、機械と平行に引きながら、手を斜め向うにベラをひらくように引っぱ





りますと、ほどけます。(写真150)
(正しく編んだ段までほどきます)

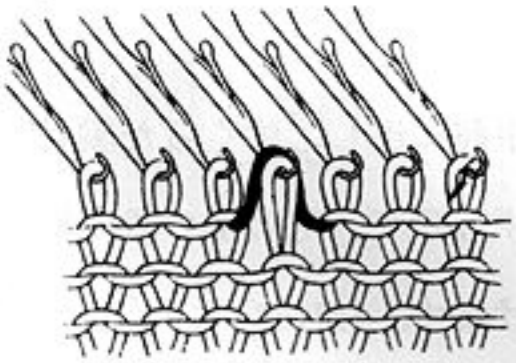
5. 編んでいる途中でキャリジが動かなくなったら

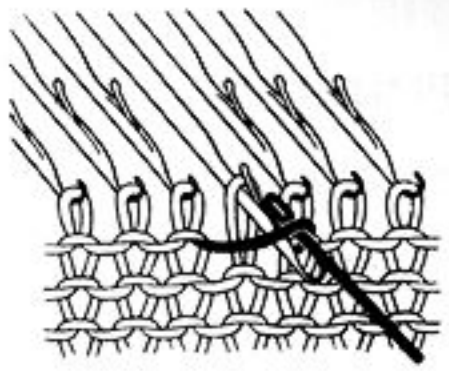
(キャリジを無理に動かすと、ミゾ板を痛めます)

①アームナットをゆるめ、アームを取りはずします。(写真151)

②キャリジの手前を軽く持ちあげて、もとの位置にもどします。(写真152)
このとき、次のことに注意してください。

(イ)糸がどこかにからんでいるか。
(ロ)テンションの糸の通しが、間違っていないか。
(ハ)糸の結び目が大きすぎないか。
悪いところをなおしてから、編目をほどきます。



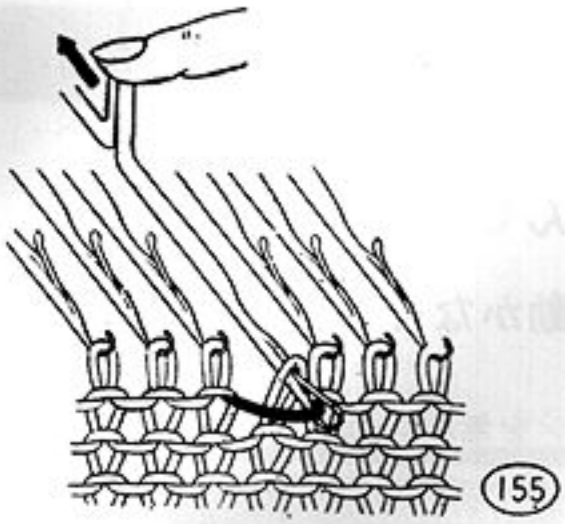


4. 目が落ちたら

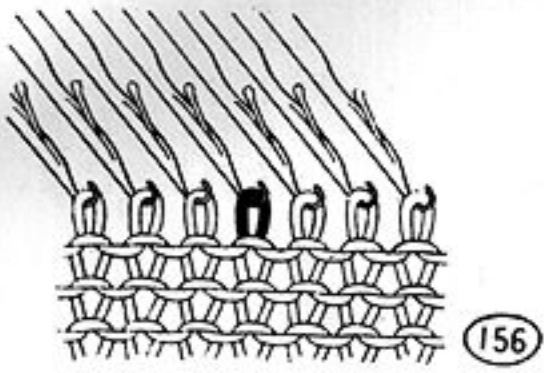
1段のとき

①1目のウツシを、落ちた編目の1段下の編目に通し、最後の段の横糸といっしょに、メリヤス針のフックへかけます。(図153)

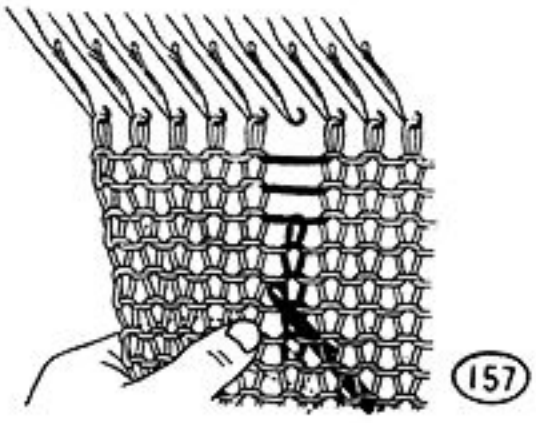
②メリヤス針を前に出して、その編目をベラのうしろにずらし、最後の段の横糸を、フックの中に残します。
(図154)



③メリヤス針のバットを、ゆび先で押しもどしますと、(図155)

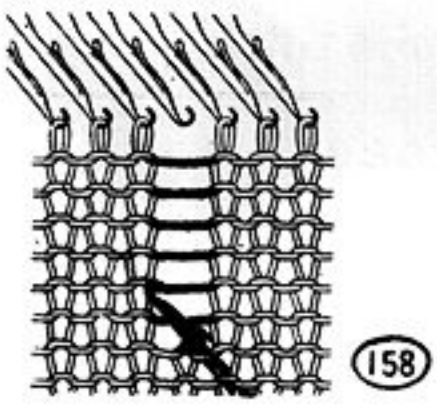


ベラのうしろの編目が、フックからすべり落ちて、最後の段の編目ができます。(図156)

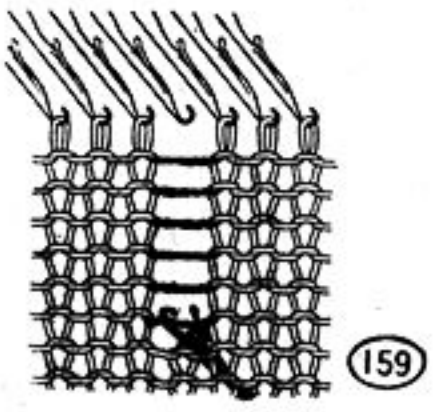


数段のとき

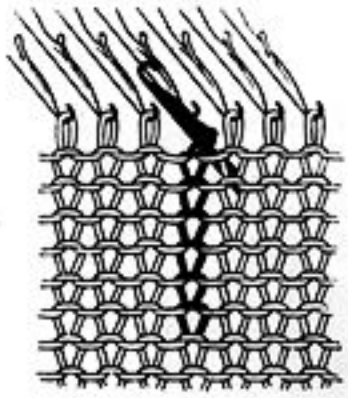
①編地の向う側から、タッピで落ち目の2～3段下の編目をすくい、(図157)　タッピを入れた目までほどきます。



②タッピを手前に出し、すくった編目をベラのうしろにずらして、その上の段の横糸を、フックにかけます。(図158)

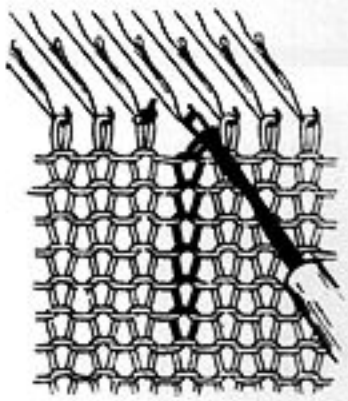


③タッピを引けばベラが閉じ、横糸はフックの中に閉じこめられ、(図159)　ベラのうしろにあった編目ができます。



これをくり返して、一番上の段まで編みます。

(図160)



④最後の編目は、すこし強く引いて、タッピをはずし、手前からその目をタッピで拾って、メリヤス針にかけます。(図161)

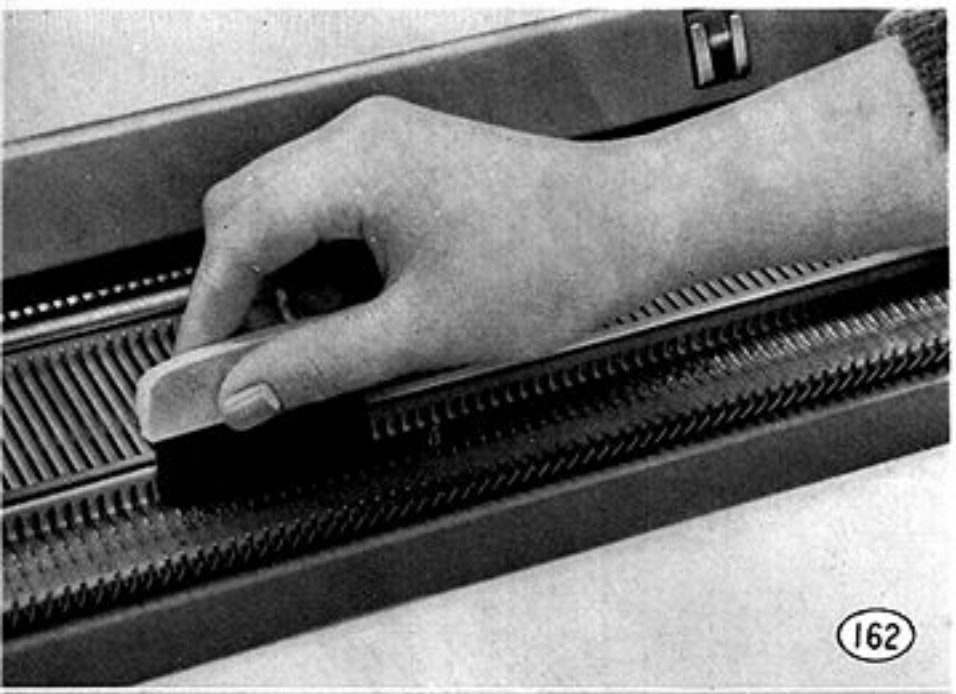
5. 編地のはしで、糸がたるんだら

テンションから糸がはずれていないか、テンションに糸が正しく通っているか、調べてください。

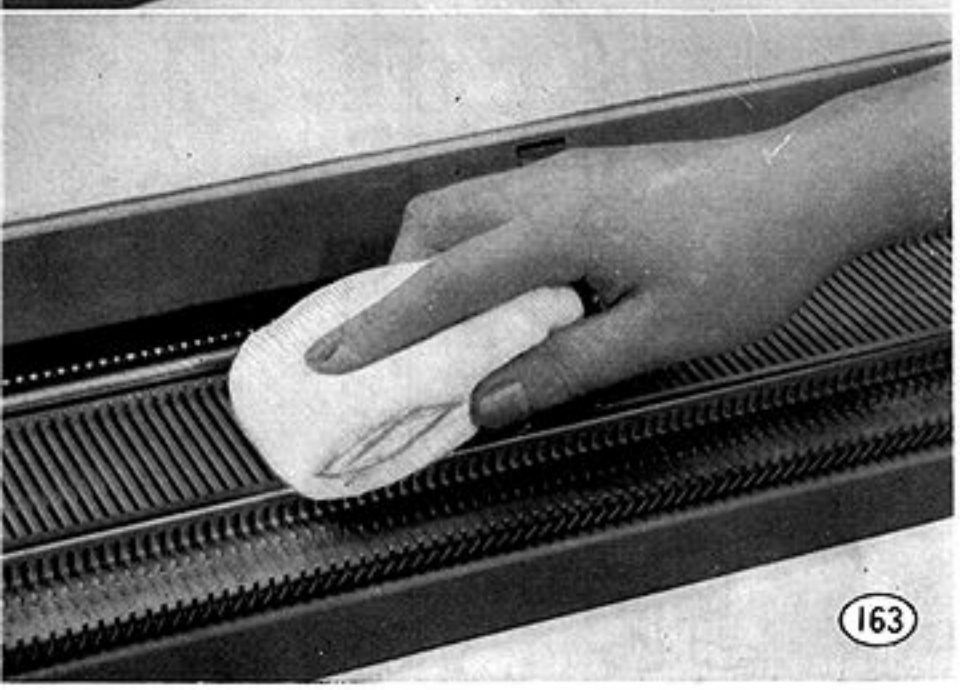
7機械の手入れと保存

どんなよい機械でも、油気がなかったり、手入れをよくしないと、長く使えません。

編機も、長い間調子よく使うためには、手入れと注油がたいせつです。



162



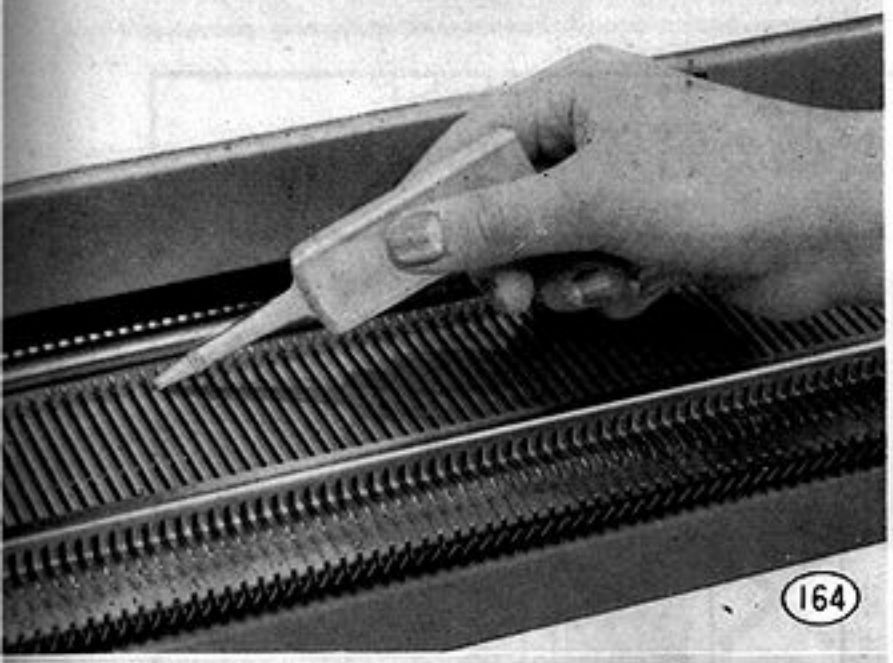
163

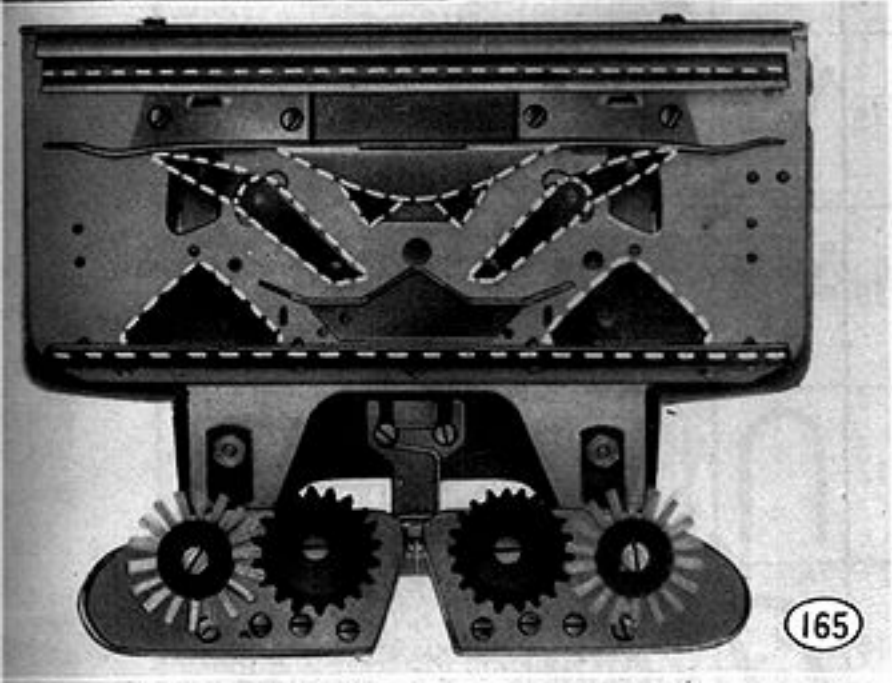
1. 使ったあとの手入れ

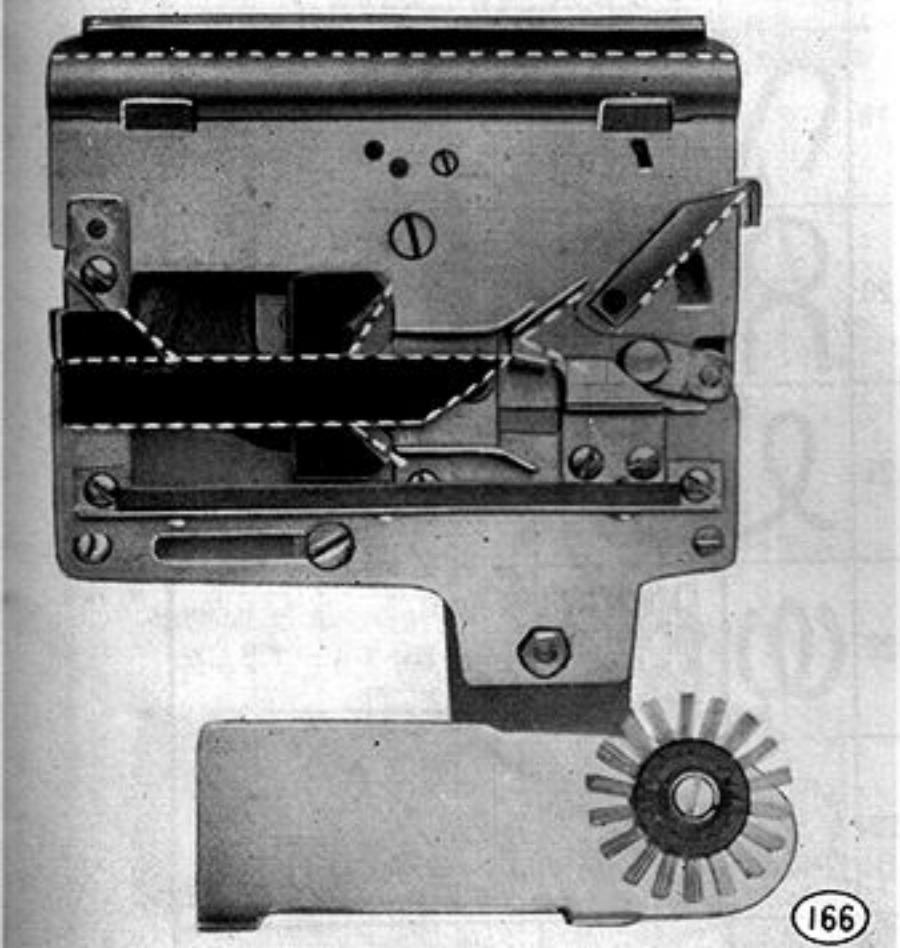
①編機をお使いになったあとは、毛糸のクヅがついていますから、ブラシで払い落としてください。(写真162)

②油布で、塗装以外の金属の部分をよくふいて、よごれを落としてください。

塗装の部分は、せっけん水をつけた布でよごれをふきとってください。(写真163)


164


165


166

2. 注　油

①レール

キャリジパイプがはまっているところですから、ミゾ板の後方にあるレールの凸部全体に注油してください。

②ミゾ板の針ミゾ

メリヤス針のバットがすり動きますので、油気をきらせないでください。(写真164)

③キャリジの裏

キャリジの裏のカムは、どの箇所もメリヤス針がすり動きますので、写真の点線の部分に注油してください。(写真165)

④自動模様編器の裏

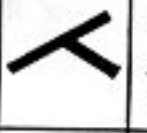
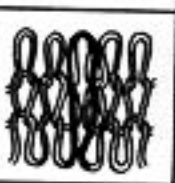
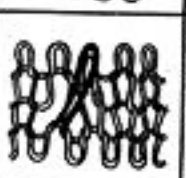
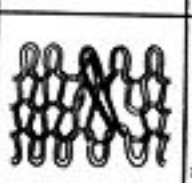
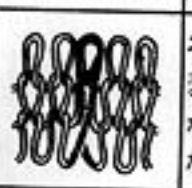
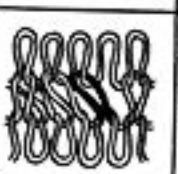
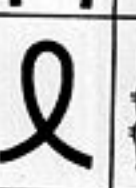
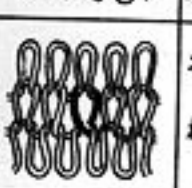
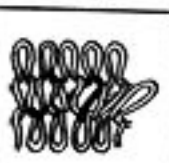
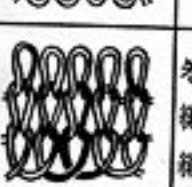
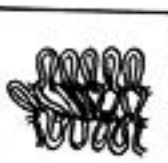
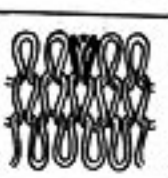
自動模様編器のカムは、メリヤス針のバットがすり動きますので、写真の点線の部分に注油してください。(写真166)

3. 編機の保存法

①よく手入れをして、湿気のない場所に保存してください。

②長く保存していた機械を使用するときは、油布で機械の各部をよくふいて、古毛糸で20～30段編んでから、製品を編んでください。

手編機編・棒針編の記号

番号	記号	図解	名称と意義	番号	記号	図解	名称と意義
1.1			表目 メリヤス編の表目	1.13			右上交差 右のループが上になって交差している編目
1.2			裏目 メリヤス編の裏目	1.14			左上交差 左のループが上になって交差している編目
1.3			右上2目一度 右のループが左のループの上に重なり，一緒に編成された編目	1.15			スベリ目 表示された最下段のループのみが引上って，編糸がそのループの裏をわたっている編目
1.4			左上2目一度 左のループが右のループの上に重なり，一緒に編成された編目	1.16			浮キ目 表示された最下段のループのみが引上って，編糸がそのループの表をわたっている編目
1.5			中上3目一度 真中のループが一番上になり，左右のループが下に重なって，一緒に編成された編目	1.17			引上ゲ目 表示された各段のループを重ねて，最頂部のループと一緒に編成された編目
1.6			右上3目一度 右のループが一番上になり，左中のループが下に重なって，一緒に編成された編目	1.18			右斜メ引上ゲ目 表示された各段のループを右斜めに引上げ，最頂前のループと一緒に編成された編目
1.7			左上3目一度 左のループが一番上になり，中右のループが下に重なって，一緒に編成された編目	1.19			左斜メ引上ゲ目 表示された各段のループを左斜めに引上げ，最頂部のループと一緒に編成された編目
1.8			右寄セ目 増し目または減らし目により，順次右に傾いた編目	1.20			ネジリ引上ゲ目 表示された最下段のループがねじられて，引上げられた編目
1.9			左寄セ目 増し目または減らし目により，順次左に傾いた編目	1.21			ネジリ目 ねじって編成された編目
1.10			右増シ目 記号該当の箇所の左下のループが，引上っている編目	1.22			巻キ目 編糸を巻いてループとした編目
1.11			左増シ目 記号該当の箇所の右下のループが，引上っている編目	1.23			カケ目 寄せ目またはかけ目によりできた穴の表示
1.12			編出シ増シ目 一つのループから数字の数だけ編出した編目				

備考　意義の欄中の上下左右は，編地を表から見ていう。

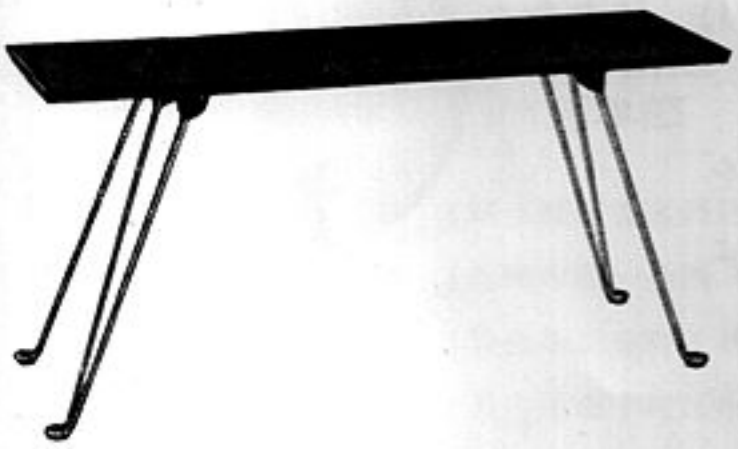
シルバー編機の製品紹介

シルバーリブニッター　　¥.12,000

ＳＫ－102型には、シルバーリブニッターを取りつけ、そのコンビネーションによって、高度の編物を行なうことができます。

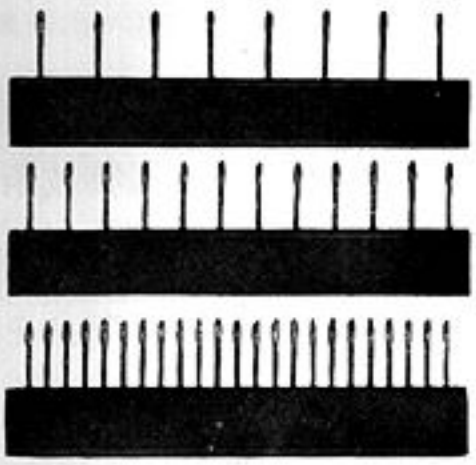
❖リブニッターの特徴

☆ 模様編に多くの変化を出せる6段振り機構
☆ 自動的にベラヌキができるセットレバー方式
☆ 本機だけでも編めるドロップレバー装置
☆ 針合わせが簡単にできる半ピッチレバー装置



シルバー編台　　¥.850（送料実費）

傾斜もできる折たたみ式スチール製です。



シルバー柄編器

¥.400（送料実費）

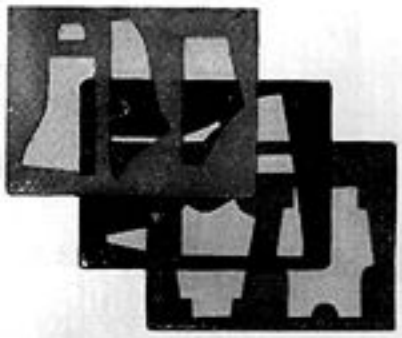
穴あき、編込模様などの場合一度に多くの針を操作することができます。

ビニールカバー　　¥.200（送料実費）

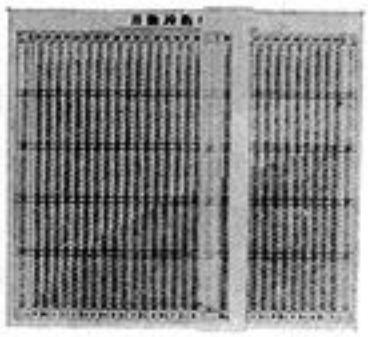
ポータブルタイプのＳＫ－102型に雨のときなど便利です。

毛糸湯のし器　　¥.200（送料実費）

編み直しの毛糸が簡単に更生できます。



編物製図型　¥.100（送料実費）



目数段数表　¥.150（送料実費）

シルバー編物研究会

●入会のおすすめ！

シルバー編機では、編物技術の向上をはかり、すぐれた製品が編み出せるように、シルバー編物研究会を組織し、全国的にかっぱつな活動を行なっております。編物に興味をおもちの方は、どなたでも会員になれますから、どうぞ、ふるってご入会ください。

❖入会の方法

年間会費600円を添えて、シルバー編物研究会総本部、または地区本部、代理店、教室、販売店へお申し込みください。

❖会員の特典

① 美しい機関誌「女性ルーム」が毎月配布されます。
② 会員証とバッチがわたされます。
③ 講習会、ファションショウ、発表会などに、無料または割引で参加できます。
④ 講師の認定を受ける資格が得られます。

東京都新宿区
新宿 2 － 50

シルバー編物研究会総本部

電話（351）1106(代)
振替・東京97622

■シルバー編機については、本社および全国の営業所、共販会社、代理店にご相談ください。

シルバー編機製造株式会社　（東京都小平市鈴木町1丁目51）　電話 (0423) 2−2391 (代)

シルバー編機販売株式会社　（東京都新宿区新宿2丁目50）　電話（351）1106～9

シルバー編物研究会　（東京都新宿区新宿2丁目50）　電話（351）1106～9

販売会社営業所

仙台営業所	（仙台市二日町1番地の3）	電話（2）3961
名古屋営業所	（名古屋市中村区小鳥町50）	電話（55）0206
福岡営業所	（福岡市下名島町55の1梅居ビル）	電話（75）7304

共販会社

北海道シルバー編機共販株式会社	（札幌市北一条西9丁目）	電話札幌（4）3494
関東シルバー編機共販株式会社	（東京都新宿区番衆町127）	電話（341）4810・4779
関西シルバー編機販売株式会社	（大阪市西区靱中通り1の11）	電話土佐堀(441)1344 5289
シルバー編機九州共販株式会社	（福岡県筑後市山ノ井235）	電話筑後 156

研究会総本部・地区本部

研究会総本部	（東京都新宿区新宿2丁目50）	電話（351）1106～9
北海道本部	（札幌市北一条西9丁目）	電話（4）3494
東北本部	（仙台市二日町1番地の3）	電話（2）3961
中部本部	（名古屋市中村区小鳥町50）	電話（55）0206
関西本部	（大阪市西区靱中通り1の11）	電話土佐堀(441)0416
九州本部	（福岡市下名島町55の1梅居ビル）	電話（75）7304

シルバー編機SK-102型使用説明書 ©

昭和37年2月25日　印刷
昭和37年3月1日　発行

発行者　瀬越喜作
発行所　シルバー編機製造株式会社
東京都小平市鈴木町1丁目51番地
印刷所　株式会社 岩田印刷所
東京都杉並区天沼1丁目86番地

本書の内容は一切転載を禁じます。

シルバー編機製造株式会社　　シルバー編機販売株式会社